November 20th 1906.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 174.

大日本蠶絲會報

第百七拾四號要目

論叢

●暹羅に於ける家蠶の寄生蠅に就て　農學博士　外山龜太郎
●繭質の改善に就て　横田長太郎
●蛆害に對し免疫性の蠶種造成の試驗を望む　中川久知
●兵庫縣の製絲業　德田實也
●天龍川と諏訪　中村雅次郎
●滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎

臨時總會錄事

●緒言
●沿道の光景と甲府市の奉迎
●式場の光景
●來賓の演說
●慰勞の盛宴
●準備委員の囑託
●殿下共進會場へ御成
●議事
●殿下草薙社へ御成
●大園遊會の光景

總裁殿下信濃支會總會御出臨

●殿下岡谷へ御成
●信濃支會第一回總會の光景
●夜會の光景
●結尾
●上諏訪驛の奉迎
●大名行列の御覽
●殿下の御歸京

叩門

●一府九縣聯合共進會に就て　農學士　紫藤章
●生絲貿易の旺盛は絲價の低廉に在り　丹羽敬太郎
●思出のまゝ　農學士　石渡繁胤

講筵

●製絲のことゞも　金厚つた

外報

●滿州の養蠶業　小田宗孝

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japan.

大日本蠶絲會支會及地方委員部の設置しある地區内の會員諸君に稟告

本會會員及有志者にして左記地區内に住居せらるゝ方は會費の納入、會員の紹介、入退會は必ず其地支會又は委員部を經て納入及申込相成度此段稟告致候也

但居所の變更は本會及支會、委員部へ同時に御通知相成度候

明治三十九年十一月

大日本蠶絲會

東京支會　東京府北多摩郡立川村
京都支會　京都市丸太町通烏丸西入
新潟支會　新潟縣中蒲原郡五泉町
埼玉縣委員部　埼玉縣廳構内
群馬縣委員部　群馬縣廳構内
茨城縣委員部　茨城縣廳構内
三重支會　三重縣廳構内
山梨支會　山梨縣廳構内
滋賀支會　滋賀縣阪田郡長濱町
信濃支會　長野市縣町一二
宮城支會　宮城縣廳構内
福島支會　福島縣廳構内
山形支會　山形縣廳構内

大日本蠶絲會報廣告料

	特等			並等			
	一頁	半頁	四分ノ一頁	一頁	半頁	四分ノ一頁	一行
一圓乃至二圓	會員外十二圓	七圓	四圓	十圓	六圓	三圓五十錢	廿五錢
	會員十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
三圓乃至六圓	會員外十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
	會員八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
七圓以上	會員外八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
	會員六圓	四圓	二圓五十錢	五圓	三圓	二圓	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絶す
廣告料は前金に限る

◉本報定價　一冊金拾五錢　一ヶ年分前金壹圓五拾錢

明治三十九年十一月二十日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區美土代町三丁目二番地　小池市松
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

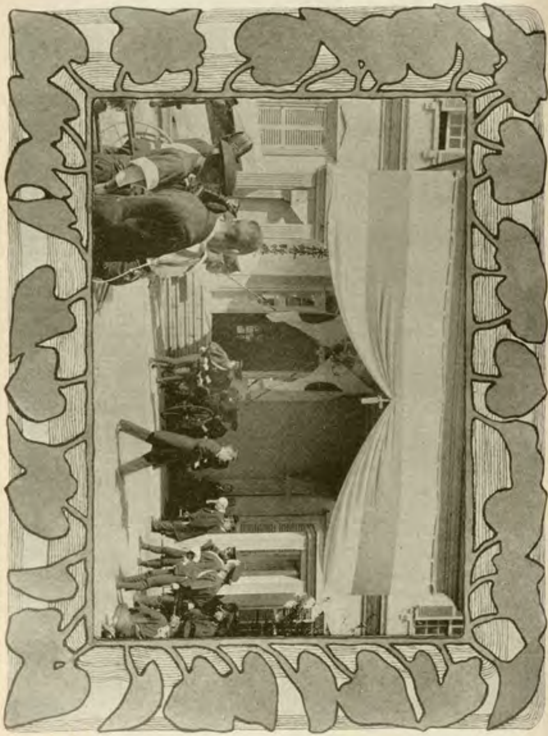
發行所　東京市神田區美土代町三丁目二番地　大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

特別廣告

拜啓益御清康奉賀候陳れは去十月二十八日山梨縣甲府市に於て開會の本會臨時總會に於て定欵改正致候に就ては從來の會員は同定欵附則第三十九條に依り第十四條第一項又は第十五條規定の出金をなしたるものと見做し依然會員たる資格を有する義に有之候へ共現在の會員にして會費未納ある者に對しては改正定欵實施前に於て現行定欵第十八條に依り夫々整理を遂ぐべき筈に有之候間若し會費未納の爲め會員の資格消滅するが如きこと有之候ては甚だ遺憾の次第に有之且一旦會員の資格を失ひ改正定欵實施後（四十年一月一日後）更に入會せらるゝときは定欵に規定せる一時金の納付を要することゝ相成可申候條右御了承の上此際御未納相成居候會費至急御送付有之度尚又改正定欵實施後に於ては會報は前金御送付無之ときは發送せざる規定に候間是又御了知相成必す前以て御送付有之度併て此段申進候也

明治三十九年十一月二十日

大日本蠶絲會



圖は總裁伏見宮殿下十月廿八日甲府市縣會議事堂に於て開かれたる臨時總會に臨ませられ終了後正門より出御あらせらるゝの光景なり

L. A. I. le Prince Fushimi, Président de notre Association, sortant de la façade après la clôture de l' assemblée générale extraordinaire qui a eu lieu, le 28 Octobre, dans la salle du conseil général de la ville de Kôfu.

大日本蠶絲會報　第百七拾四號

目次

論議

●運繊に於ける家蠶の寄生蠅に就て　農學博士　外山龜太郎
●繭質の改善に就て　横田長太郎
●蛆害に對し免疫性の蠶種造成の試驗を望む　中川久知
●兵庫縣の製絲業　德田實也
●天龍川と諏訪　農學士　中村雅次郎
●滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎

臨時總會録事

●緒言●準備委員の囑託●沿道の光景と甲府市の奉迎●殿下共進會場へ御成●式場の光景●議事●來賓の演說●殿下草葺社へ御成●豊勞の饗宴●園遊會の光景

總裁殿下信濃支會總會御台臨

●殿下岡谷へ御成●上諏訪驛の奉迎●信濃支會第一回總會の光景●大名行列の御覽●夜會の光景●殿下の御歸京
●結尾

叩門

●一府九縣聯合共進會に就て　農學士　紫藤章
●生絲貿易の旺盛は絲價の低廉に在り　丹羽敬太郎
●思出のまゝ　農學士　石渡繁胤

講莚

●製絲のことども　金𠩤つた

問答

●桑樹の肥料に就ての質問並答●蠶種貯藏箱に就ての質問並答●産卵せざる母蛾に就ての問並答●乾燥繭に就ての質問並答

絲況

●横濱市場●里昂市場●紐育市場●上海市場

外報

●滿州の養蠶業　小田宗孝
●千九百五年度の露西亞に於ける生絲の輸入及消費高●千九百五年間に於て新に創立したる米國織物工場

時報

●會務記事――大分支會役員の就任――下野支會品評會――會頭及商務委員の就任――會員動靜
●蠶糸短報――試驗場防疫協議會督申――一府九縣聯合共進會褒賞授與式――夏秋蠶・桑樹栽培試驗――原蠶種査所月報
●蠶業消息●新刊批評●寄贈書目●交換雜錄

大日本蠶絲會報　第百七拾四號

論叢

暹羅に於ける家蠶の寄生蠅に就て

學藝委員
農學博士　外山龜太郎

本篇は前號に掲げたる英文暹羅蠶兒に寄生する蠅と題する外山博士の論文を在農科大學谷口氏の譯せられたるものなり（讀者口繪を參照せらるべし）

余は暹羅に滯在中「タキナ」蠅に就て研究することを得たり、此蠅は幼蟲時代に家蠶に寄生し養蠶業に多大の損害を與ふるもの也、以下其研究に就て記せん。

卵（第一、二、三、圖を見るべし）

卵は乳白色にして前端少しく尖れる細長き圓鑄形なり、其腹面は膜質平坦、脊面は凸圓形にして卵殼には特有の多角形斑紋あり、卵は其腹面蠶の皮膚に接する樣產附せらる、卵の大さは大凡長〇、五「ミリメートル」より〇、五七「ミリメートル」巾〇、二二「ミリメートル」にして產卵當時より孵化に至るまで乳白色にして變色することなし。

幼蟲又は幼蛆

（第四、五、六、七、九、圖を見る可し）

幼蟲即ち幼蛆は卵の蠶の皮膚に附着せる部分即ち卵の腹面の前部に孔（第四、五の〇）を穿て發生し、直に蠶體內に侵入す同時に卵の背面の前部に圓孔（第四、五圖〇）を開く之れ蛆の生育に必要なる呼吸作用に便ならしむる爲なる可し。

第四圖は卵と產出せる蛆とを顯微鏡下に見たる平面圖にして蛆は蠶の皮膚を透して認めらる卵の前部に孔（〇）夫と重なりて橢圓形のものは孔（o'）あり、（〇）は卵の腹面にありて蛆の卵より出て蠶體に入りし孔なり、圖に於て蛆は蠶皮を透して一部分卵と重り少し其前方にあり、寄生蠶の生活せる時には蛆は一見寄生蠶皮上に半透明の班點を生ず、此時代に於て蛆の長さ平均〇、六「ミリメートル」なり。

第五圖に示すものは上記の時代に於ける卵と蠶體內に侵入せる蛆の縱斷面にして（E）は皮膚に產附せられたる卵（M）は產出せる蛆なり、卵の右部にある孔（〇）（o'）は第四圖に示せ

るものと等しく其由來は前記の如し。

腹面の孔（○）は蛆の生存せる囊に連續せり、此蛆囊は一部分は表皮細胞組織より、一部分は皮膚組織より、成り囊壁の孔に近き部分は灰色なり、此部は時を經るに隨て次第に黑變し遂に皮膚に黑點第二圖を生ずるに至る、故に此種の黑點の有無に依て蠶體に蛆の寄生しあるや否やを斷じ得べきなり。

此黑點は圓形、梨形其他不規則なる形をなして、其の形大さ並に位置は一定せざれども、點の中央部又は周圍に緣の平滑ならざる孔ありて其の周圍少しく隆起せることは通有也稀に兩端に孔ありて蠶蟲狀の黑點をなすことあり、之れ二卵相並びて產下せられたる場合なる可し、黑點の直徑は一乃至一、五「ミリメートル」を普通大とすれども、一層大なる場合あり、蠶蟲狀黑點に至ては長さ三「ミリ」巾〇、四「ミリ」に及ぶことあり。

幼蛆の體內に入りたる時蛆囊を構成せる皮膜組織に附着せる夥多の遊離細胞は其後漸次外膜に沿て併列し、蛆の生長に隨て袋擴大し囊壁の薄くなりし時安全に蛆を保護す、第六圖は長さ三「ミリ」巾一、〇「ミリ」以上に生長せる蛆を示す、爲めに囊の一部を破りて表皮に固着し脂肪細胞を破りて支氣管に達し、此時に至れば寄主の被害部は腐敗分解して蛆の中屬見る所なり、他の部分は鎖生活をなす蛆の數は一自至二又は一自至二囊內にて生熟する蛆の數は一自至二又は一自至三囊內に生存せる蛆は黃白色にして前端尖り後部は廣くして急に圓形となり終る長さ九自至十二「ミリ」巾三、五自至四「ミリ」なり、體は十二節より成り各節前部には褐色小粗毛よりなる橫條あり。

第七圖（A）に示す如く第一圓節の前端少しく腹部に面して二對の突起あり、其腹側には一對の黑色上腮あり、上腮の外側に各一本の管狀突起あり。

第二節後緣の側線上にある突起（第七圖C）の上面には三ケの圓孔（第九圖A）あり之れ即ち氣門にして直徑〇、〇二自至〇、〇二四「ミリ」にして其周緣は薄き褐色「きちん」質の環より成る、第五圓節の後緣の側線上に示すものも亦た氣門にして前者より大にして平均〇、〇九「ミリ」の直徑を有する圓孔あり、其周邊に數列の粗毛あり。

肛門は第七圖（B）に示す如く第十一節の腹部中線上に開き規律正しき數列の粗毛にて圍まる。

末節半圓部の頂點に二黑點あり、之を顯微鏡下に檢せば簡單なる點にあらずして寸圖に示すが如き複雜なる構造を有する二ケの小盤なり、此小盤は黑色「きちん」質の平盤上にある構造複雜なる蟠蟲狀の薄き部分より成る、此平盤の複面には孔ある圓形膜質部あり。

○二以上なることありて一定せず。

幼蛆成熟すれば所謂蛆となりて寄生囊の皮膚を破て外に出づ。

老成幼蟲即ち蛆（第十一圖）

十分成長せる蛆は黃白色にして前端尖り後部は廣くして急に圓形となり終る長さ九自至十二「ミリ」巾三、五自至四「ミリ」なり、體は十二節より成り各節前部には褐色小粗毛よりなる橫條あり。

第七圖（A）に示す如く第一圓節の前端少しく腹部に面して二對の突起あり、其腹側には一對の黑色上腮あり、上腮の外側に各一本の管狀突起あり。

第二節後緣の側線上にある突起（第七圖C）の上面には三ケの圓孔（第九圖A）あり之れ即ち氣門にして直徑〇、〇二自至〇、〇二四「ミリ」にして其周緣は薄き褐色「きちん」質の環より成る、第五圓節の後緣の側線上に示すものも亦た氣門にして前者より大にして平均〇、〇九「ミリ」の直徑を有する圓孔あり、其周邊に數列の粗毛あり。

肛門は第七圖（B）に示す如く第十一節の腹部中線上に開き規律正しき數列の粗毛にて圍まる。

末節半圓部の頂點に二黑點あり、之を顯微鏡下に檢せば簡單なる點にあらずして寸圖に示すが如き複雜なる構造を有する二ケの小盤なり、此小盤は黑色「きちん」質の平盤上にある構造複雜なる蟠蟲狀の薄き部分より成る、此平盤の複面には孔ある圓形膜質部あり。

蛆が蠶者しくは繭を解するときは、囊蠶室床の隙目又は板の間に等しく如き細孔を通過して新黑の場所殊に暗黑湿潤の地を求ひ併し寄生を辭して約十時間を經ば、其恰好の場所を得て直ちに化蛹す故に蛆の黑色圓錐形の蛹となる。其後數時間にして蛆は黑色圓錐形の蛹となる。

蛹（第十二圖を見る可し）

蛹は平均長さ七、七「ミリ」徑三「ミリ」の兩端圓き圓錐形にして暗褐色又は黑色なり、體は幼蟲と同じく十一節よりなれども第一圓節は著しく短縮せらる第二第五節の氣孔は黑點として第十一節の腹部中線上にあるに肛門は少しく隆起せる着色點として認められ、末節にある特別の二孔は其の外觀幼蟲に於けるものと異ることなし。

成蟲又は蠅（第十三、十四圖）

體は灰色にして粗毛を以て覆はる、元來蠅の大さは蛹並に幼蟲のと共に寄生の大さに依て定まるものなれども、平均雌蠅は體長十「ミリ」翅の開張十九「ミリ」にして雄蠅は體長十一、五「ミリ」開張二十「ミリ」なり。

頭部は稻三角形にして暗赤褐色の複眼二あり、標本によりては眼面に短毛を有するものと否とあり。

口器及複眼間の部分は銀白色なれども、背面に至るに隨て次第に淡褐色を帶ぶ。

赤褐色の三個の單眼は頭部背面に三方に分立す。

觸角は（第十六圖）は灰黑色棍棒狀にして三節より成る　未節最大にして少しく扁平、其背面に生ぜる剛毛は二節より成り長さ此節節に二倍し一端尖りて錐狀をなす、其第一節は其短くして第二節長し觸角の端節及襞毛は更に密毛を以て蓋はれ觸角第二節の背面も亦短粗毛を有す。

下腮鬚も亦褐色の棍棒狀にして黑色剛毛を以て覆はる。

胸部の背面は灰褐色にして前楯板より楯板に渡れる四條の黑色縱線紋あり內二條は前楯板より楯板の中部に至り外二條は楯板の後緣に及べり、此外唯楯板の中線に沿て前緣より後緣に走れる黑色線紋あり、此縱線紋間の間隔には各剛毛の一列あり。

楯板は殆ど半圓形にして其前部は前胸節と同色なれども後部は褐色にして後緣に及ぶに隨て發濃し且つ剛毛を生ず、翅大鏡下に於ては胸部全面は上記の剛毛外別に密毛を以て覆はる。

第十四圖　蠅の遷移　二の澤小出岡は大こゝを見に上陸てしに同文ドタクリコ

翅淡灰色透明にして其形狀幷に翅脈の有樣は第十五圖に示せるが如し、前縁翅脈は前縁に黑色短毛を有す、半經翅脈は其基部に黑色短毛あり、第一後縁翅室は翅尖に近く延びて爽長となれり、中央翅脈は第一後縁翅室の一邊をなせども發達不完全にして外緣に達せず、第五翅脈は發達不十分にして後横翅脈に至て止る、其端より外緣に達する部は擬翅脈にして眞の翅脈にあらず、第六、第七翅脈は基部の外發達十分ならず「ポスコヲヲルロブ」(postcoxo lobe)は能く發達し「アルレ」(alula)は灰白色なり、脚は黑毛にて蓋はる、大腿節端灰色にして他は凡て黑色なり、雛稚は褐色物より成る。

腹部は長卵形にして雄の雌のより長し、之を背腹兩面よりも見るに四圓節より成る、第一節は黑色なれども第二節以下は各節の前部灰白色にして後部黑色なる爲め横紋をなす、腹部の腹面は灰黑色にして黑毛あり、腹部の全面は短毛にて蓋はる、殊に背部中線上のもの及第三第四節の後縁に生ぜる毛は剛くして長し。

習性

養蠶室にありては運動極めて活潑にして蠶籠内此所彼所に社交翻り舞ひ、定所に靜止することなく、自體の隱るゝに足る場所を蠶體又は桑葉の蔭に發見して自らら衛ること其巧妙にして其跡を潛むることに妙を得たり、蠶の注意を拔ざる如き所に隱れて其跡を潛むることに妙を得たり、蠶の來襲を避ける爲め縱分蠶期より蛻殼期に蔽ては、蠶室内に設ける蔟にも親時間の後には已に人知られぬ穴を求て入り來たるものなり。

十六日午後一時　蠶は何れも熟死し中には繭の形出ずしるものあり。
同　三時　繭は繭化か始り多方に墨で次第に淡褐色となる。
十　九　日　早朝繭二分程出ず。
同　午前十時半　繭の色に變化始る。
同　午後五時　殆過色となる。
十月二十九日　前月來繭の色は著しく黑褐色に變じ已に昨夜頃の發生ぜしものあり
三十日　全部繭となる。

故に(一)蠶は三十日全部四十時間にて繭化せること　(二)幼蟲は寄生蠅なるを以て治ると日間にて寄生蠅は約十時間黑繭に孔を穿すること(三)繭化してより約十日間にして成蟲となること(四)一代は約十八九日なること等實驗せり

蛾は十二月一月の如き最寒の期節に於て非情に依て二三週日を經過することあり、此場合一代は二十五日自至三十日となる。

繭は多化性にして、余の實驗に依れば確に八九化性以上也。此繭は他の蟲類にも寄生する故に養蠶業なき地方にも猖生活繁殖せるが如し、余の始めて鎌谷に養蠶を試みし時、其附近二三十里の間絶へて飼蠶を營む者なかりしに拘らず、猶此繭は創しく余を苦しめたり。

繭は繭若しくは他の器具と共に遠く輸送せらるゝことは余が運羅に於て各地方より繭を集合せし時に經驗せし所なり。

運羅王國養蠶局附屬養蠶室は周圍稻田にして蠶室を距ること僅に三千米自至四千米の地なれば繭の來襲を除却せしに二年に渡れる余の實驗中、コヲ、ト、産繭の次輸送の際輸入せられたりと信ぜらるゝ唯一回の被害の外非て其來襲なかりしは實に注意すべき事實にして此繭は決して、遠隔の地に漂泊するものにあらざることを證するに足れり。

繭の分布

此繭は廣く全印度支那半島に分布せらる、運羅に於ては養蠶行はるゝ地にして之の住まざる所なし東部北緯十四、五度より十五度に跨れる運羅耕の主產出地たる「コラート」高原に於て甚だ多く爲に地方養蠶家は年々多大の損害を被ると現に余の該地方視察中之が寄生の爲め飼育蠶の七自至八割を失ふの悲境に陷りし土人に遭遇せしこと一再ならず。

又清人より聞く所によれば「カンボチヤ」國境幷に「カンボチヤ」に於ても蠶體に黑點を生じ、同樣の病徵を呈せる蠶病其の勢を逞ふすると、更に運羅「ビルマ」の國境山脈に沿て位せる「マントンラカブリ」に於て土人の養蠶室とせる小屋は繭の重圍の内にあるを實驗せり。

北緯十七自至二十度に位せる「マントンビアスロク」の如き山岳地に於ても猶此種を免れず。

安南に於て聞く所によれば安南の養蠶も亦た此の害を受くと云ふ。

清書致富新書は廣東南清地方に於て一種の繭は養蠶業に大損害を與ふることを記載せり、余は未だ此種の繭を見ざれども、其北清地方にも產し蠶室に出入して蠶體に產卵する性質より推察して、之は必ず運羅產と同種なる可きを確信す、且清產繭を輸亦た此種に屬せしめられたり。

朝鮮にも亦た此種の繭存在す。

千九百三年十一月余は遠羅外務大臣「デパランス」殿王殿下農務次官「ピアスサンドン」の好意に依て「ピルマ」産生繭の標本を受け之より上記の種に屬する寄生繭を得たり。要之此寄生繭の分布區域は其だ廣く印度支那半島の全部より東は北清西は「ピルマ」に及べり而して余の識信せしと承するは印度産寄生繭は在來より注意せられたる Cathoeus Mylitta の外に本種も亦た必ず存在するならん。

防 禦 法

遠羅人は一般に綿布を以て籠龍を覆ひ清人は又別に養蠶室に侵入する蟻を防ぐ爲め養蠶室の入口及窓に紗帳を張り、後者は一良法なり、併し此法に從ふ場合には能ふ限り床窓丼に戶の胴目に密なる網を極め注意の周なるを要す、何となれば特性の部に於て記せし如く蟻は彼等の養蠶室への入口なる細隙を發見すること極めて巧妙なればなり。

縱令籠龍を覆ふに細目の金網を以てするも兩者接面の細隙を求めて侵入するなり、實に養蠶家は此性質に就て慎重なる注意を拂はざる可らず。

闘 の 説 明

第一圖　第三第六第九節上に産卵せられたる繭（二倍大）

第二圖　背部を受けし繭第五圖節上に黑點を認む

第三圖　蟻の卵（×Zeiss Zeiss）

第四圖　卵及産出ずし幼虫の半面圖し幼虫に卵の殼面孔

第五圖　繭の皮膚上の卵と皮膚の幼蟲との縦斷面圖と卵の殼V第一圖×Zeiss

第六圖　孵卵に慣れる幼蟲を示す爲め袋の一部を破りしもの

第七圖　幼蟲擬大せるもの八四々の間隔を有する第一圖節、Ⅱ紅門に第二圖節の紋門

第八圖　第七節の紋門

第九圖　第二節の紋門A全面B二々の紋門

第十圖　幼蟲の未部の圓端にして其の上の二々の紋門を示す

第十一圖　成熟蛹殼面自然大。

第十二圖　蛹の背面圖自然大

第十三圖　蛹殼二倍大

第十四圖　蛹殼の腹面圖二倍大

第十五圖　蛹の左腹

第十六圖　蛹の觸角

繭 産 出 額

農商務省で調査せられたるのに依ると昨年の全國産繭高は骨蠶百七十七萬千百五十四石夏蠶三十六萬七千三百七十三石秋蠶九十八萬三千九百六石合計二百七十二萬三千三百三十三石であつて一昨年に比し十萬二千三百五十三石の減額であつたさうです

繭質の改善に就て（承前）

特別會員　横田長太郎

吾々の今日飼育して居る蠶の繭は、決して立派なるものではなく、從來の飼育人の過失なるものである、日本は蠶絲を以て世界に鳴て居るにも拘らず、從來なぜ繭には繭其物に甚だ立派なるものが支那人の飼育したるに、伊佛は勿論、吾々の劣等國に比して居る處の下風に立たなければならぬのであるか、此事実を以て考へても、吾々蠶業に從事する者は、恥を抱して起たなければならぬ所である、況んや今申す如く、是れ丈け光を發見すること極めて巧妙なれば、繭の價を高くし、利益を增して行かなければならぬ必要あるに於てをやである。處が之れは諸君も御承知であるけれども、近年の此の養蠶界の實況を視察するに、此繭質と云ふもの、蠶絲業の進歩に伴ふて益々改良されて往かなければならぬ、益々善くならなければならぬ筈であるが、實際は中々善くならぬ、寧に善くならぬのみならず、却て反對に惡るくなる傾向が多い、こちらの地方は長く御無沙汰をして居りましたから、近年の狀況は存じませぬが、一般の機樣を見せますると、繭の產額の增加すると同時に、其反比例に此品質と云ふものが粗惡劣等に趨きつつある樣である、此事に關しましても吾々は澤山の事實を有して居る色々の例證を擧げて御話しすることが出來るのである、併し之れも今私が細說するまでもなく、既に御承知の方も澤山あるであらうと信じますから、之の事に關する細論は之を措きますが、兎に角此繭の品質が進歩をせずして、却て益々惡くなるとか假令現部にても退歩の傾きがあるとか云ふことは、之れは何の爲めであらうか、吾々は繭質の改良と云ふことは、養蠶上甚だ重要であつて又其價値あること丶信ずるが故に、此界を開却するとが出來ぬのであります、試みに今氣付きたる所の點を擧げますれば。

第一には蠶種種類の一定論、即ち養蠶家は可成品種の一定せる繭を取なければならぬと云ふ議論。

第二には良き繭を造る蠶は飼育に困難であり、夫であるから養蠶業の發達全部とするには、先づ強健なる蠶を育成しなければならぬと云ふ議論と、

第三には曾て明治以後初めて養蠶業の行はれた多くの地方に於ては、一時所謂實驗的養蠶の熱が起つた、其反動として今度は極端なる悲觀的となり排斥せらるゝ所の養蠶法の流行せること。

第四には從來本邦では繭の品位論ずるに、外觀即ち形狀だとか、ナヂラだとか云ふ外見上に重き為置き、却て其實質を軽んじたるの弊ありしこと等。

此等數個のものは餘程大なる問題を持つて居ることゝ信ずるのである、此等の議論は勿論間違つて居ることゝ信ずるのである、此等の議論は云はぬ、又一面に於ては慣かに其理で、又有要の議論である、併しながら他の一面寒の緊要なる一面に於て閑却する所があつたのである、面已ならず此間には又間違つた所の思想も多く含まれ且つ行はれたのであると信じます。

種類の一定不可なるにあらず、けれども其一定なるものゝ標的を定むるに方り、現在の中等品以上に出づる能はざりしことや、若くは幼種なる時代のものを採用して以て、之れを總ての養蠶家に强行せんとせるが如きことは則ち進歩の主義

を沒却せるものではあるまいか、吾輩は從來の不用意なる種類一定論は繭質改良の思想及實行を沮止せることと少なくないと信ずるのである、種類の一定は可なり、然れども活動する一定でなければならぬ、進歩する一定でなければならぬ、死せる活動せざる一定論は、要するに害ありて益なしと云はなければならぬ。

次きに良き繭を造くる蠶は虛弱である、飼育に困難であると云ふて、一々排斥するものがある、けれども之れも亦考へなければならぬことである、良き繭を造くる蠶の飼育上幾分六ケ敷き點あるは之れは事實である、併し之れが事實であると同時に、其反面より之れを云へば、強き蠶、飼育に易き蠶は即ち惡き繭を結ぶ蠶であると云ふことも亦事實であると認めなければならぬ、又若し果して然りとせば、良き繭を得んとせば弱き蠶を飼はなければならぬ、強き蠶を飼はんとせば惡るき繭を得て滿足せなければならぬと云ふことになる、故に如何なる品種の蠶を飼育すべきやと云ふ實際の問題に至りては、各自の飼育の技術とか其他種々なる事情によりて定むべきことで、決して一遍の理屈を以て論ずべきものでない併しながら其主義と其目的とする所に於ては則ち萬人一樣でなければならぬ、曰く進歩曰く改良之れである、良き繭を造る蠶を飼ふことの出來ぬ程、技術が幼稚だとか、不適當なる事情があるとか云ふことならば、益是を練磨し或は之を改良して以て益々良き繭を得るの途に向つて進むのが本當である況んや前述べた如く良き繭を造る蠶は飼育に困難なりとするが如きは、要するに幼稚なる時代の思想であつて、苟も養蠶上一般の智見と技術とを有する者に在りては、敢て顧慮するに足らぬ事であるに於てをやである。

京都蠶業講習所員の松茸狩

夫れからモー一つ重大なることは、勞力の騰貴其他の經濟事情よりして、漸次蠶業の利益を薄からしむるに至りたるが爲めに、成る丈資本を省減する樣になつて來たことである之れは一時徒らに優秀なる繭を得んが爲めに、勞力資本を浪費した所の、所謂美術的養蠶なるもの、行はれた反動が餘程大なる關係を持つて居る、勿論損得を無視して良き繭を得んとするが如き淺薄なる所爲は、繭なる粗製品を作る生産業としては何等の價値もないことである、然れども利益の增進を計る途は資本を省減するの外ないものゝ樣に考へて、無暗に手間を減らしたり取扱ひを粗末にしたり或は多くの蠶兒を密集して飼育したり、或は給桑量を節減したりして、そうして繭質の劣惡に趨くことを省みない樣なことは、所謂角を矯めんとして牛を殺すものである、將來益發展し進歩すべき養蠶業の方針とすべきものではないのである、勞銀の節減桑葉の儉約固より必要である、然れども之れは必ず繭質の改良上進を阻止せざる範圍内に於てせなければならぬ、少なくも繭質を劣惡ならしめざる限りに於てせなければならぬことである。

然るに、近年の狀況を觀るに、此不良なる傾向が益甚だしく、中には條飼だとか棚飼とか稱する極端なる方法が、一部の當業者間に行はるゝ樣であるが、此等は斯業の先覺者卒先者の大に省慮を要することであらうと信ずるのである。

夫れから第四の從來繭質の良否を論ずるに方り餘り外見上にのみ重きを置き過ぎたことも一つの原因になつて居る、縊れ目がどうだとか、或は縮皺が縦だとか横だとか、或は一升の粒數が何百粒前後でなければならぬとか云ふ樣な枝葉のことに力が這入り過ぎて、爲めに却て其實質、即ち繭として最も緊要なる絲量又は絲長等の點に於て、比較的輕視された傾きが多かつたのである。

現今の處にては四百回の絲長を有する繭は先づ普通のものと見做されて居るが、六百回や七百回の絲長を有する繭を造る蠶も從來より決して少なくはないのである、今日でも澤山ある、今假りに茲に四百回の繭と六百回の繭とがあるとしてそうして之の兩者を比較するに其能力は四と六との比例即ち五割の大差がある譯である、然るに此の兩者の繭を得る爲めに費やす所の資本を比較し來るときは、決して此の如き大差を見ないのである、精細なる試驗成績を持ち出す迄もなく均しく一頭の蠶を飼育するに其蠶室蠶具に於て若くは勞力飼料に於て決して三割とか五割とか云ふが如き大差ある筈のないことは明かである。

左れば若し單純に此點より立論すれば、生産する絹絲量の多きもの程、經濟上得策なりと云はなければならぬのである。

之を要するに蠶絲業の發展進歩を計るべき一般方針の上より之を論ずるも、現在に於ける斯業界の時弊より之を觀察するも、繭質の改良、即ち善良なる繭を結ぶ蠶の普及若くは善良なる繭を得る樣に改良せる飼育法を採用することは最も重要にして且つ價値ある事柄であると信ずるのであります、然るに現時の蠶業界の實況は前申しました如く此等根本的重要の問題を閑却し去り或は目前の小利の爲めに或は一時的小事情の爲めに、滔々として繭質の粗惡に趨くを省みない、そうして却て徒らに末葉の枝を銜へ、或は枝葉の議論に耽けつて居るの風がある、此の如きは決して斯業の健全なる發達を計る所以の途ではない、是故に吾輩は直接斯業經營の衝に當らるゝ處の當業者諸君は勿論斯業の指導奬勵の任に當らるゝ所の當局者諸君に對しましても、深く此點に留意せられんことを希望する譯であります。

（完）

行秋や手を擴げたる栗の毬　芭蕉

蛆害に對し免疫性の蠶種造成の試驗を望む

學藝委員　中川久知

夫れ蠶絲及其製作品が我國産として既往現在に於て輸出品中最多額を占め、戰後經營の随一として將來に蠶業の大發展を計るは實に策の得たるものと云はざるを得ず、然るに諸種の蠶病と蛆害とは之を排除するの法令發布を見しに係らず尚ほ猖獗を極め、本年の如きは蛆害殊に多く爲に育蠶家は多大の損害を被むり、斯業の發展を阻害するに至るは實に遺憾の至りなりとす、余先年職を東京蠶業講習所に兼ねたる際聊か見る所ありて豫防の方法を設計し、助手丹羽四郎氏に實施せしめしに、不幸にして其後職を解くに至り、終に試驗の結了を見ること能はざりしは甚だ遺憾とする所なり、仍て左に當時の考案と實施せし方法と其時の結果を報じ、全國各地に於て若し同感の士あらば東西相應じ、一擧して試驗に從事し速に其成否を知らんと欲し、余の不肖を顧みず玆に一言することゝせり。

凡そ蠶兒の蛆害に罹るは槪ね三齢已後にあり、これ幾分か蠁蛆の母蠅が盛んに產卵する時期に相當するが爲なるべきも余の考へにては別に主たる原因あるならん、抑も蠶兒の未だ小なる間は顎間にて喫み切る桑葉は小片にして隨て蠅卵は其際壓潰さるゝもの多きに居るならん、而して顎面の凹凸形狀の如きは蠶兒の個體異なれば隨て多少其趣を異にし、桑葉を細密に咀嚼するものと粗雜になすものとの別あるは自然の數にして細密に咀嚼するものは否らざるものよりも蛆害に罹ること比較的少き理なり、故に若し一定數の蠶兒に一定數の蠅卵を付着したる桑葉を食せしめ、其蛆害に罹らずして發育を完ふしたるものゝ子に翌年同樣に蠅卵を食せしめ數年斯くの如く陶汰するときは遺傳性によりて遂に蛆害に罹らざる蠶種を得るに至らん、斯くの如き蠶種に余は蛆害免疫性蠶種なる名稱を下さんとす。

余は此考案により去る明治三十三年に於て、小石丸又昔の二種百頭宛を採り三齢後のものに毎日必ず蠅卵を付着したる桑葉一片宛を食せしめ（果して食したるや否やを檢査して）先づ蛆害に罹らざるものありや否やを試みしに、毎日二百頭の蠶兒に一卵塊づゝを給することゝて蠅卵を捜索するに頗る困難を感じたるも丹羽氏の勵精と講習生の助力とにより當年に於ては幸に此試驗を遂行するを得て、小石丸又昔共に各々五頭の成繭を得、總て各種一雌一雄を生じ常の如く交尾して產卵するに至れり。

右試驗の結果は假令蠶兒に毎日蠅卵を給するも悉く其害に罹るものにあらずして、罕れには無事に成長を遂るものあることを證明せらる、故に此試驗を毎年繼續するときは、前に述べたる如く遂に免疫性の蠶種を得ることも決して望なき事にあらずと信ず、余は來年より再び熊本に於て右の試驗を施行する考へなるも、一ケ所にては助手の數にも限りあるを以て、汎く各地に於ても同樣の試驗を施行せられ出來得るならば一日も早く蛆害を免れ得べき蠶種の造成を遂げられんこと余は會員諸君に希ふて止まざる所なり。

兵庫縣の製絲業（承前）

通常會員　德田實也

兵庫縣の製絲業は是からである、是から大に整理しなければならぬ、且擴張の餘地もないではない、是迄は養蠶地である、養蠶地と云つても北方丹波但馬方面である、但馬は殊に蠶業としては古き歷史を持つて居る、桑園の如きも例の喬木仕立て一見柿の大木を見るが如く古色蒼然たるものがある五六十年を經たる者は幾らもある中には二百年も經たらんかと云はるゝ者もありと聞く、施肥も一般に注意してある樣に見える、此地方は殖林に熱心して山嶽は皆杉檜蔥々として繁茂し、肥料用の雜草木も中々多い、山林に就て瞥見する所に由るに、杉檜を伐りたる跡なる傾斜地に、雜草を燒きて粟を蒔き蕎麥を蒔く、斯くして收穫を得たる後杉檜の苗を栽植し、其間に三椏を植ふ、三椏にて五六年も收穫を得たる頃には、杉檜が繁茂して最早三椏は生育せぬ、そこで杉檜專門の林と爲ると云ふ有樣、其の他或は柳行李の原料たる柳の如き凡て山嶽は禿山がない、最も殖林に注意して居る、肥料用としての雜草も山深く繁茂して居る、桑園肥料にも是等のものを厩肥としたりなどして施して在る、桑園もかゝる老木なるにもかゝわらず葉は蓁々として茂つて居る、桑樹の間に間作を遣つてあるから其間作に施肥する故、桑園も自然肥料の供給を受けて居る、併し希望を云ふと桑樹の老朽せる者は漸次植かへて行き、又は老木朽枝や日光を受ざる重疊したる枝を伐り拂ひて、今少し桑園手入に注意したならば收穫の增進を期することを得やうと思ふ、かゝる事は分り切つた事で申す迄もないが、沿道にて瞥見する處によれば是も〳〵と思ふ所が少ない。

兵庫縣は蠶種改良に就ては非常に熱心であつて隨つて其の成績見るべきものがある、始め同縣下は他府縣より如何はしき蠶種が入込んで隨分養蠶上に弊害を流した、夫故他府縣より入込むものより其の土地に於て精良なるものを製し安價に養蠶家に配布して以て養蠶の改良を計らんと希圖した、其考は頗る善い、先づ土地の製種家を說いて理想的良蠶種を原種と爲して之れを養蠶家に勸め共同購入法を以て斡旋し漸次其の利便を感ぜしめ、遂に多數の他府縣輸入の蠶種を防ぎ止め、今日では京都府より入る良蠶種を輸入するのみにて、他は悉く自縣下の蠶種を以て縣下に供給するに至つた、昨年の製造數は六十五萬蛾本年は百六十五萬蛾、明年は二百五十萬蛾に達する見込との話非常の盛況である、種類は長巢又昔と白綾にして縣下を通じて殆んど一定に近い、就中城崎郡に在りて一層蠶種改良の效績を擧げて居る、此地は彼の岡毅氏が官職を退いて其鄕里に在つて舊藩主の銀行を主宰して居られ餘力を以て其多年經驗の蠶絲業に盡力せられて居る、氏は現に兵庫縣蠶業會頭として、縣下蠶絲業に關係し、就中鄕里城崎郡に於ては、氏が理想を現實とならしめつゝあり、其の斯業に關し當局者に向つて諄々として倦まず、說かるゝ所誠に當年の元氣毫も衰へず熱心なる指導は確に該地方蠶業革新に向つて成效の第一關門に入つて居る、尙此の地の郡長は又蠶絲業に熱心で盡力の結果は頗る見るべきものがある、城崎

郡には蠶種製造家を一致せしめ、生産組合を組織し、組合員の蠶種は一個人の名に由らず、組合名義により販賣の事も斡旋して遣る組合員の製する蠶種は長巣又背として組合員中に於て其年の飼育中の狀況を具さに調査し、蠶作豐裕にして最も繭質佳良なるものは原々種に撰び、其製造せる蠶種を組合員に分ち組合員は是れを掃立て以て蠶種を製するのである原々種を撰定する時は、蠶病豫防吏員郡蠶業巡回教師及製絲家の一人立會し各方面より公平に撰定し、之を舉ぐるのである、組合員の蠶種は二十八蛾付一枚五十三錢賣りとし三錢は組合經費の内に宛て五十錢は手取りである、框製一蛾一錢八九厘に當る、かゝる精良なる蠶種としては安價なる樣なれども五十錢の手取りは内一錢一厘の費用をも要せぬ彼の種紙賣の諸國を驅き行き、又は廣告を爲す等の費用を差引けば、賣價は高くとも實際手に入る額は少くないが、此組合に於ては斯の如く蠶種の精選に注意し、且販路も其筋にて斡旋する故、年々聲價を得て賣切れと爲り、本

宮崎郡元農事講習所生徒桑園開墾の圖

年も早く已に品切れとなり、今續々注文せるものに斷り居る有樣である、昨年は郡下二十五萬蛾を製し、本年は五十萬蛾、明年は七十八萬蛾位に上るであらふ、養蠶家が皆框製蠶種を掃立つると言ふは京都府と共に斯業界の珍とせざるを得ない。

肉岡氏の主宰せらるゝ寶林銀行にては、先年繭乾燥器を据付け、製絲家の爲めに繭の乾燥をして遣り、且繭倉庫も建築し乾繭を抵當として貸出をする、他府縣より入込める蠶絲家は此乾燥器により大に利便を受くると同時に、土地の製絲家も乾燥の依頼と金融上の利便は尠からざる事と思ふ。

八鹿町に縣立蠶業學校があつて縣下に於ける技術指導者を養成して居る、昨年より乙種と爲り現校長藤島益文氏は例の熱心を以て、實業學校として實績を舉げんとし、孜々として盡力中である。

又蠶業會は縣當業者の團體にして蠶業學校と氣脉を通じ、縣蠶業の發進に貢献して居るやうである。

要するに縣下の蠶絲業は前途益々進運に向はなければならぬ、潜勢力があると同時に、養蠶に於ても又進歩の餘地がある、現に秋蠶の如きも今日は未だ幼稚である、其他桑園等に於て明かに縣下の將來は蠶絲業上希望の光明を認めらるゝのである、幸に縣郡當局者及地方先覺者の鋭意盡力しつゝあるは、前途の進歩を確信するに足るのである。（完）

珍らしき貯金法

大日本農務會員秋葉ため子女史は自己の出身地なる府下南多摩郡七生村及び其附近の婦人界にこの趣味を普及せしめんと自ら其支部會長となり同會の一事業として『物品貯蓄規定』なるものを設け間接に貯金法を奬勵せられたさうであるが此方法は貯蓄の品目は、貯蓄せんとする物品其まゝにて納付するも時價に適する代金にて納付するも本人の意のまゝにて同會規定の貯蓄品目は
屑繭、屑絲、繭章に鷄卵、雜穀(米、大麥、小麥、豆)果實及び野菜、工藝品(綴靴、編物、繩、草鞋、莚)
等にて個別すれば鷄卵、五個を一株とし株數は素より一定せず當分一株を十錢となし若し卵の産出少き時は規定の株數代金を納め屑繭と屑絲とは一株を五十錢と見做し毎年春秋二期の養蠶時に自己所有の株數に準し毎年の八月及び九月の二十五日を限り物品(乃至代金)を事務所に納付すべく又常に製絲に從事したる婦人にして屑絲又は生皮苧を得たるもの是れに同じ但し此は一株を二十錢と定む、更に又雜穀の類は夫等の收穫期に株數(一株十錢づゝ)に應する金錢(或は實物)を納付す可くこの部類には米、麥、豆等を置けり此の外柿、李、梅、葡萄、桃等も一株十錢と定めこの類は特に其の出熟期に至りて株主たる會員はそれを賣拂ひ同時に株數だけの代金を納付す工藝品も一株十錢にて前者と同樣なり以上の規定にて約百五十の會員中に來の株主最も多く其の數八百二十株より卵の百二十七株、栗種の五十七株之れにつぎ斯くて秋間女史の下に報告し來れる夫れは會員百四十八人の株數千五百七にて此の年金額六百二十餘圓に達し將來ます／＼會員增加の見込ありと云ふ村落に稀らしき美風と云ふ可きなり

天龍川と諏訪

學藝委員
農學士　中村雅次郎

當今我國に於ける製絲業地として最も盛大なる場處はと問はれたならば誰れしも諏訪と答へぬ者はあるまい、然り諏訪は實に製絲の甚だ盛に行はれて居る地である、約一億萬圓に近き輸出生絲總額の凡そ六分の一は此地の生産である、眞に驚くべき程盛大なりと云はねばなるまい、而も其發達は長速の勢である、諏訪郡役所の調査に依れば去る明治十四年には同地方に於ける釜數は一、三六九個にして、生絲の生産額六、六六一、四五四匁であつたが、昨三十八年には釜數一四、四一五となり、生絲の製産額一八二、九九二、二四二匁に增加したのである、即最近二十五年間に釜數に於ては十倍餘、生絲の製産額に於ては約三十倍に近き增加を見たのである、實に長足の進歩ではあるまいか、何が故に斯かる著しき進歩を來たしたのであらうか、蓋し片倉兼太郎、尾澤金左衛門氏等の孜々黽勉一日も怠らずして斯業の改良發達に熱中せられしことも其一原因たるに相違ない、又自然の地勢人情等が斯業に適して居ることも或は以て其大原因であるかも知れぬ、兎に角之が原因は一二にして止まるまいが、製絲業を經營する上に於て一日も欠くべからざる製絲用水の此地に於ける供給所とも云ふべき天龍川の水豐富にして、而かも其水質が製絲に適することも亦其一原因ではあるまいか、聊か之に就て卑見を述ぶることにせう。

（其一）製絲用水としては如何なる水質のものを選擇すべきや

如何なる水質が製絲上最も良好であるかと云ふに、之れ素より原料繭の種類並に其品質の如何によつても多少の相違があることであるから、之を一々具體的に說明することは、今後幾多の研究を重ねざる後でなければ出來ないが、其大體、クツクヤ、「ペルナルデー」、「フランツゼン」及び「ジルベルマン」氏等の外、人諸名家及び本邦、辻兩農學士等我國當大家の研究、就に不肖の試驗成績より綜合して選ぶれば左の如くである。

水。夾雜物特に石灰、苦土、鐵及アルミナ等を多量に含有せる硬水は製絲用水としては極めて有害である。

後言すれば高度の硬水は製絲用水としては極めて有害であるが、全くの軟水加蒸溜水も亦製絲上却て不利益の點あるが故に、製用水としては石灰、苦土、及鐵等の少き軟水を出來る範圍内に於て改良して使用するが先づ良法であらうと思ふのである。（未完）

後の心の底に思ひ煩ひ乱れ
苦悩は苦くとも甘苦甘し

滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業（承前）

遞常會員　鹽谷清多郎

第九　繰絲、束裝及荷造

古代の繰絲器たる尖刷子を以て繰絲を行ふ方法は煮熟したる繭を破り其の內の蛹を取り出し繭層を反轉して內層を外部に出し、之を一尺餘の棒上に嵌め指頭にて絲條を引き出し、火箸樣なる鐵棒の尖端にある鈎に懸け、撚を施しつつ漸次絲を引き出し、鐵棒の竹を嵌めた部分に卷き付け、恰も薄の如き狀に至らしめ、之を甕に繰り取り總となすなり、撚の强き點に於ては他の柞蠶絲に優る所あれども、絲條太く且細太不齊一なるは大なる劣點とする所なり、足踏器械又は佛國式器械を以て手繰絲又は器械絲を製する方法は、何れも略々同一なるが故に別に之を分たず、序を追つて記述せん。

（一）撰繭　製絲家の多くは撰繭を爲さずして粗惡繭同功繭等を混合せる恆常蒸する者とす、芝罘の製絲家中繭の數を算ふる際多少不良の繭を除去せしむる者あれども、單に外觀に現はれたる汚染繭、薄皮繭を除去するに止まれり、今如斯撰別したるものゝ成績を聞くに、不良繭の數は良繭一千個に付少なきは八十個乃至百個多きは三百個乃至四百個に及ぶと謂ふ。

（二）殺蛹乾繭　滿州地方にありては、主に生繭を絲繰するが故に、殺蛹作繭を爲す。

（三）貯繭　滿州に於ては特に貯繭庫として設備せられたるものを見ず、概ね居宅の一室に薄く堆積し蔬菜を被ふ普通の貯繭法となせり、之に繭を堆積し蔬菜を被ふ普通の貯繭法となせり、芝罘に在りては特に貯繭庫を設け、四壁は悉く鎧窓となし內部に棚を造り棚板を格子張りとし、以て空氣の流通を專要となせることは前に述べたるが如し、而して繭は棚板上に約一尺五六寸の高さに堆積し、時々攪拌するの外別に手數を加へず、又我家蠶繭の貯藏に於ける如く盜紙蔟又は織業蠶等に容れたるものを觀ず。

（四）水質　柞蠶絲は一種固有の色素を有し、且蒸繭に面倒（顏論とも謂ふ）し又洋綿材料等の類似品あり何れも鹼酸及曹達を主成分とする（ソーダ）を用ひられ放解し雜性質に富むを以て水質に依り水質に多少の如き山間を除く外一般に水質不良にして飲料水だも得難き處多し、芝罘は海岸に近き處は稍々善良なる水を出し、地下三丈餘の深さある井戸は、丈四五尺餘の水を湧出するが故に、製絲工場は總て此等の井水を使用し、別に

韓國昌源鎭にて二百五十個の繭を使用する繰糸機械

ふ云とす為の

る鹽分に富み、鹽水多し、鹽水は、市街の東西兩端に稍々善良なる井戸は、丈四五尺餘の水を使用し、別に

年前に在りと稱す。

不自由を感ぜざるのみならず、同地の製絲家は水質の善良なる爲め他に比して絲の色澤良好なりと詩稱せり。

（五）煮繭及蒸繭　釜中に繭を浸積し得べき程度の水と面灰とを入れ沸騰せしめたる後繭を投入し攪拌して一樣に浸水し約二三時間煮沸し水能く繭に浸込み、且つ繭層稍々柔軟に及びたる頃、繭の全部を掬ひ上げ、別に餌ふる籠内に移し能く液汁を滴下し、更に他の釜に少量の水を入れ、釜の底に臺を設け、右の繭を容れたる籠を此の釜内に入れ蒸をなし、三四時間强く火を焚き、釜底の水盡くる頃には時々繭上より水を打ち、或は繭の熟度容易に進まざる場合には、面筋の稀釋汁（前に煮繭に用ゐたるもの）を打ち掛け後十時間乃至十四五時間除々に火然を興へ、繭を蒸すなり、此の間は常に釜内の水量に注意し乾涸せしめざること最も必要なり、面筋は主に滿州製絲家に使用せられ、繭一千個に付約三四兩目を用ゐ、洋城は絲の抱合を惡しからしむと稱し多く用ゐられず、然れども芝罘製絲家は總て之を使用し華泰繰絲廠に於ては生繭一千個に付、一二兩目、乾繭一千個に付三四兩目を用ゆ、煮釜は大抵一回に繭約一萬個乃至一萬二千個を煮蒸し得るものなり。

煮繭は調査當時の如き寒冷なる時候にありては、其の日に煮たる繭を當日に消費し盡さざるべからず、翌日に殘存する氷結の繭は別に繰糸に差支なしと雖、翌日の繭は氷結層粘氣を帶び、夏季にありては內部に蛹腐爛して惡臭を發し、絲層の光澤を減少すること多し、故に煮繭掛は此の點に注意し冬季と雖尚職工の數に應じ、其の日に繰絲し得べき分量の繭を見積

（六）繰絲　繰絲の方法は先づ蒸蒸せし繭の水滴を充分に除去し釜も水氣無からしむ、之が爲め滴下籠の下層部にある繭は特に槓桿を以て壓搾し、或は回轉器に掛け飛散せしむることあり、而して適當に水分を除去し、且つ冷却したる繭は之を挽手室に運び大挽手を挽き出す大挽手は普通家蠶繭にも存する所の繭綿にして、柞蠶繭にありては殆んど外皮に一層を爲せり、之を一々指頭にて剝きつゝ其の絲糸を求め且つ繭數を算して大挽手を付したるまゝ、百個乃至百二十個を繭盆に容れ、之を繰絲場に運び各職工に分配す、此の煮蒸繭は久しく時間を經過するときは、外面乾燥して繰絲に困難となるを以て水を吹きかけ濕ほすことあり、職工は右手に大挽手を取り上げ、絲糸を集結器に通し「ケンネル」に卷き厥手を通して巻に達せしむ「ケンネル」の繊數は頗る少なく、大抵は二三繊多きも十繊を越さず、歪足粒數は大枠絲を繰絲する場合は七八粒より二十四五粒に及び、小枠絲を繰絲する時は七八粒に止む、芝罘にありては概ね六七粒より多きは十粒以內たり、巻の回轉は足踏器械にありては各自の踏足に依るものなれば、其の能率は極めて緩慢なれども、器械製絲にありては概ね一分間八九十回早きも百回轉以內にあり、秋繭一千個に對

する絲量及一職工一日の繰絲繭數は次の如し。

繭一千個に對する絲量　一職工一日の繰絲繭數

滿州（自家繭）	山東（子大枠絲）	八兩目乃至十一兩目	一百八十個乃至一千一百個
三海道（城小枠絲）	山東（小枠絲）	九兩目乃至十一兩目	一百八十個乃至一千二百個
芝罘	華泰繰絲廠（黃絲）	六兩目乃至八兩目	八百四十個乃至一千一百個
	華泰繰絲廠（白絲）	七兩目乃至九兩目	八百四十個乃至九百六十個

大挽手及小挽手の數量は滿州地方の如き大枠絲を產する處にありては間々毎に非常の相違ありて一定ならず、七千個の繭に付大挽手一斤小挽手二挽手とも云ふ半斤を出すと云ふ處あり、或は一千個に付上等繭は大挽手一兩半、二兩下等繭は大挽手二兩二分小挽手二兩五分を出すと云ふ處あり芝罘同泰順紡廠にありては一包の絲を製するに二百千個の繭を要し、之に對する大挽手二十五斤小挽手同量を出す、華泰繰絲廠に於ては、一千個の繭より八兩目の絲を出すと稱せり、要するに屑物量は小枠製絲に多く大枠製絲に少なし、而して小枠絲を製する場合は小挽手と大挽手とは略同量にして、大枠絲を製する場合には小挽手に比して尠なきが如し。

出殼繭は滿州地方にありては多少製絲せらるれども、芝罘に於ては、殆ど製絲に供せず、山東省の僻村にては之を繰絲すと云ふ、其の絲量は普通繭を八兩目とすれば、春扣子は三四兩、秋扣子は五六兩目位なり、絲の品位上に關する華客よりの注文は、滿州地方の製絲家は勿論芝罘の器械製絲家と雖未だ之を受けたることなく、各自が繭の品質と絲の上海相場とに鑑み商意に製造するものなり。

（七）捻造及拈造　繰絲を終りたる絲は芝罘にありては箕の儘特に設けたる場所に入れ、大繰機に依り乾燥する所あれども多くは之を施さず、手繰、器械繰共に其の箕幅概ね一尺以上ありて繭百個乃至百二十個を一掛とし、四掛にて一壓を上ぐることゝし、何れも一口取なるを以て全部即ち四掛の繰絲を終る迄には、室內の溫度に依り枠上の絲層を乾燥せしむること、爲せり。

絲層の充分乾燥せる要は之れを捻造室に移し捻造を行ふ普通一掛を一捻となせども、場合に依り二掛を一捻となす所あり、捻造器は芝罘にありては互絲車と稱し、角柱の上部に柄を有する鈎を備へたるものにして、其の鈎に綣の一端を掛け柄を回轉して捻を施し、6字形に造り堆積し置き、全部の捻を終りたる後、指頭を以て輪形の一端を引き、家蠶絲の捻造に似たる糾長き形に正すなり、其の長さは大枠絲と小枠絲とに依り異なれり、拈造法は前に述べたる拈造器に正しく絲を納め、機にて之を壓縮し、一夜間放置し後括絲にて縛束するなり、芝罘に於ては從來括造に繰旋を用ひて壓縮を行ひたるのみにて、家蠶絲に比し絲條粗固なるを以て單に一回の繰旋を加へたるのみにては、絲に充分の癖を付する能はざるに依り、近來は悉く機を用ゆるに至れりと云ふ。

大枠絲は二十五括を以て一包となし、三十、二綣を以て一括と、爲す、括の重量約六十五兩目あり、但し安東繭より日本に輸出するものは、括の重量六十四兩目と云ふ、小枠絲は二十括を以て一箱となし、四十綣前後より七十四綣位を以て一括とす、總て滿州の小枠絲は芝罘の小枠絲に比し一

總の量目少きを以て、一括の總數も隨て多きを常とす、然れども何れも一括の量は八十兩目内外なり、而して小枠絲の一箱も大枠絲の一包も等しく一千六百兩目即ち百斤にして英の百三十三磅七五に相當せり。

（八）荷造　荷造の方法は大枠絲は内部を紙及木綿にて包み外部を麻布及苧麻にて包み、麻繩にて結束す、一包に付約一兩前後の費用を要す、小枠絲は内部は等しく紙と木綿布に包み外部は木箱とす一個に付二兩銀前後を要す。（未完）

人造絹絲と天然絹絲

佛國の商業新評論に依ると、伊國勉業顧問の商業會議所に於て近頃發人造絹絲と天然絹絲との比較調査なせられたるうで正、其結果人造絹絲は到底天然絹絲と競爭し得べきものでなければならぬと云ふことを證明したそうで、元來天然絹絲は蚕豆狀類で柔軟及輕に且重量を有して居るに、人造絹絲は之に反し者の諸要素に於て遙かに之に劣れるのみならず、其耐久力に於ても之れに如かずと云ふ極めて遠く、殊に人造絹絲なるは化學的製されたる稀薄硝水分に對し類る脆弱にして一部の水分にも溶され易いから、人造絹絲製の機物は到底天然絹絲の敵にあらざるのみならず、其用途は極めて狹隘なる區域に制限さるゝに過ぎずと云ふ、とである。

臨時總會錄事

緒言

日露の戰爭は日本帝國をして世界一等國の位地に入らしめたりと謂す、然れども世界一等國とは單に武力の優勝を意味するにあらず、即ち國家の富力も亦た高度に進みたることを標示するものたり、然るに我國の武威今や四海に赫々たるものありと雖も、退て其富力の如何を顧みれば、之れを歐米諸國に比して尚ほ遙色あるを免れざるなり、去れば富力の增進を企圖するは戰後經營上最大急務に屬すること論を待たざる處にして而して本會は實に其富源の涵養に最も適切なる蠶絲業の改善發達を圖るを以て主義本領と爲すもの、易き時勢の趨向に鑑みて會運の一大發展を期し、更に斯業の爲めに一進境を啓くの措置なくして可ならんや、左は本會は這際其目的を達するが爲に、根本的組織の一大革新を斷行するの極めて急要なるを認め、曩に擴張方法調査委員として船越、加賀山、羽田、九鬼、角田の五氏を擧げ、慎重なる調査を遂げたるの結果、一の擴張案を立て之れを評議員會の議に附したり、然るに同會は一人の異議者もなく可決したるを以て愈々之れを總會の議に附せざる可らざることとなり、遂に臨時總會の開催を見るに至れり、而して其開會地に就ては、中央都府の豫定なりしも、偶々山梨支會より我甲府市には一府九縣聯合共進會の開催せらるゝあり、而かも聯合府縣は本邦の重なる蠶絲業國を網羅して除さず、即ち單に蠶絲の上より見るも、該共進會は本邦蠶絲業の發達如何を現實に示す處の蠶絲業共進會なりと云ふも敢て過言にあらず、如此き共進會の開催せられんとする我甲府市なれば、是非此際蠶絲業の代表機關たる本會の臨時總會を開かれたし云々との切なる要求來れるを以て、本會は組織變更の件と共に之を評議員會の議に附し、去十月二十八日をトして以て甲府市縣會議事堂に臨時總會を開催することとはなしたるなり。

準備委員の囑託

愈々本會臨時總會を甲府市に於て開會することに確定するや、松平會頭には總裁殿下の御台臨を仰ぎたき旨恒願せられたり、平素斯業の振興に御潛思あらせらゝ殿下には、御嘉納あらせられたるを以て、此旨を山梨支會に通じ諮般の準備を爲すべく、左の諸氏に臨時總會準備委員を囑託せり。

委員長　武田千代三郎　委員副長　今井保一郎　張田敬一郎
委　員　早川文太郎　内田文四郎　青木寛
代永金太郎　八田建也　内田重道　雨宮五郎　黄中
小野元兵衛　大脇正諒　矢島榮助
若尾逸平　藤運太郎　松村英平
鄉佐七　大木善左衛門
小林小六　土屋保喬
鈴木勢次郎　古屋久昌　古山富太郎　佐野三郎兵衛

尉來委員の諸氏は東奔西奔の勞を取り、銳意之れが準備の衝に當られ、本會亦た期日及會場等を會報に掲げて汎く天下に告げ、會員諸氏に來會を促すと同時に斯業關係官廳各團體等の當局者數百人に夫々案内狀を發して臨席を覓め一面來會者の便宜を圖るの目的を以て鐵道作業局及日本鐵道會社に交渉して賃銀の割引を請求する等、其他本支會相聯じて其準備に着手したるが、十月二十四日に至り本會よりは澁谷香記甲府市に出張して會務の協定應援を爲したり。

沿道の光景と甲府市の奉迎

總裁殿下には十月二十六日午前七時、麹町區紀尾井町の御殿を御出發あらせられ、甲府市に向はせらゝの御豫定なりしを以て、當日午前六時三十分松平會頭本多吉池の兩理事御殿へ伺候し奉り、夫れより四ッ谷停車場に至りて殿下の御來潮を待ち受けられたり、殿下には薄霜降の「モーニングコート」の上に濃茶色の「オーバコート」を召させられ小豆色の手袋黑山高の御帽子に編上げの深靴を穿ち給ひ、御附武官砲兵少佐東乙彦、家令御牧基賢、家從三木善賀磨、原黑崎源吉、家丁齋藤清五氏供奉し參らせ、午前七時三十分四ッ谷驛に御着あらせられ、鐵道作業局より差廻はしたる特別列車に御搭乘し給へり、而して本會よりは松平會頭本多吉池の兩理事、小池加藤の兩書記、農商務省よりは和田次官豐原農商務屬、大日本農會よりは田中錦鶴間祇候、池田農會參事及御出迎ひとして出

京せられたる武田山梨縣知事、羽塚同縣第四部長の諸氏と共に陪乘せられたるが、汽車は豫定の時間に汽笛一聲「プラットホーム」を放れたり。

時や纔れ秋末だ深からずして、萬山の樹葉未だ十二分の紅を呈せざれども、天澄み渡りて氣清く、小春日和の麗風小鬟を送て溫和快適、晴秋の風光眞に掬すべきものあり、殊に汽車の沿道は関谷の景幽邃の勝に富み、車窓より左訊右顧屢々恍惚仙境に入るかの如き感ありたるが、總裁殿下を載せ奉りたる汽車は、臨時に仕立てられたる特別列車のとゝて、各驛の停車は大概一二分間に止め、若くは殊ぎつゝ速力を早めて進行し、音に名高き笹子の隧道を始め四十有餘の隧道を事なく通過し、上野原、鳥澤、猿橋、大月、笹子、初鹿野、韮山、日下部、石和等の各驛に公私各團體及各學校生徒の熱心なる奉迎を受け、午後二時二十一分甲府驛に安着せり此時祝砲轟然として天地に響き、萬歳の聲、耳を聾せん計りなりき殿下には長途更に御疲勞遊ばされたる樣子もなく、御機嫌最とも麗はしく「プラットホーム」に出でさせ給ひ、此處に當岡中佐、保田地方裁判所長、山梨縣第一部長、其他の各高等官及本會々員を始め、官民百數十名の奉迎を受けさせられ、縣廳より差廻はされたる三人曳の御車に召させ給ひて、第一羽塚第四部長、第二武田知事を御先導とし、御旅館望仙閣に入らせ給へり、停車場構内より御旅館迄の御通路各町の兩側には師範學校、中學校、高等女學校、工業、農林、商業の三校、市立小學校、私立各學校市の名譽職員、愛國婦人會員其他の諸團體整列して奉迎最も壯麗を極めたるが、中にも各驛に於ける各小學校及市内小學校生徒の、手に〳〵小旗を翳して男しく萬歳を唱したるは、殿下も終始御滿足の御樣子なりし而して市内にては停車場前を始めとし、殿下御通過の町々入口の數ヶ所に綵門を建て、之に奉迎又は萬歳と書したる扁額を掲げ、大國旗を交叉し、且つ每戸に國旗及行燈を掲げて、御通路に盛砂を爲し城内高處の石垣に殿下萬歳の装飾電燈を點ずる等、遺憾なく奉迎の準備は行き屆きたり。

殿下共進會場へ御成

總裁殿下には御着候の翌日即ち十月二十七日、大日本農會大集會に御臨後當時開催中なる一府九縣聯合共進會場へ御成の上、武田山梨縣知事の御先導にて、第一競館より順次御台覽あらせられたり、農産物其他日常用の工藝品に至る迄御目を注がせられ、殊に蠶絲に關する出品及輸出織物等には一層の御着眼ありて、種々なる御下問もありたる次第なるが、御案内を申上げたる紫藤審査長より、今回の聯合府縣は何れも蠶業の樞要地なるを以て、蠶絲に關する出品物の如きは、第五回内國勸業博覽會の時よりも、其數量遙に多き旨申上げられたるに、殿下には我國産中一億圓の海外輸出品あるは、獨り蠶絲あるのみなれば、戰後の國力充實を要するの秋、當業者の奮勵を望む旨の御諚あり、又富士風穴の模型を御覽ありては八田蓮也氏に向はせられ、斯かる處に蠶種を貯藏する今迄聞かざる處なりしと仰せられ、御巡覽一時三十分の長きに亘りて些しの御倦色もなく御歸館遊ばされたり、嗚呼誰か之を聞きて感奮せざる者あらん、一府九縣の出品者殊に蠶絲に關する出品者の知きは、無上の光榮として永く感銘すると共に一段の奮勵を爲し、着々斯業改善の實を果げ、以て殿下の台旨に報ひ奉る處なくして可ならんや。

式場の光景

本會臨時總會々場は山梨縣會議事堂を以て之に充てらる構内頗る廣濶、建築亦宏壯にして、敢て特殊の裝飾を施さゝるも總會々場として極めて好適たり斯くて開會當日即ち十月二十八日となるや、門柱には筆々に大日本蠶絲會臨時總會々場と張札せられ、大國旗は翻々として門上に交叉せられたり、正門は〆切りて通常人の入るを許さず、來賓の出入口を北方に、會員の出入口を西方に設け、殿下の御通路たる正門より御座所迄は下に白布を敷き詰め、左右を白幕を以て掩ひ、階上に御休憩所を設けたり、而して式場に於ては殿下の御座所を場の東方に西面して一段高く作り、金屏風を背後に廻はし、其上部に紫の幔幕を張り、御座所の右方を役員席、左方を來賓席、正面を會員席と定め、其天井には各國の國旗を縱横に張り廻らし、其準備殘る隈なく整ひたるが例に依りて蠶絲會日和は前日にも彌增して晴れ渡り天愈高く氣愈清く、流石は蠶絲業先進國を以て任ずる丈け會員の陸續來會するに連れて若引きも切らず、奔々と場内に詰入りたる者一千餘人と稱し、遲れて到る者は遂に入るを得ずして空しく歸りたる者の多かりしは頗る遺憾に堪へざる所なりし。

「ヤシナヒ」「イヽロヒ」傳
桑葉をたべる養蚕に方氏「ル」

當日來賓の重なる者は、和田農商務次官、東御附武官、御牧家令、松平侯爵、船越男爵、田中鉱鶏間祇候、酒勾農務局長、武田山梨縣知事、内田總領事、本多蠶業講習所長、柴藤生絲檢査所長、星野南條工藤の各代議士、其他貴族院議員水井蠶業講習所技師、浜田山梨縣第一部長、池田農會參事、北海道、東京、京都、新潟、長野、岐阜、愛知、茨城、宮城、福島、栃木、群馬、山梨、三重、山形、埼玉、兵庫、大分、石川、島根、靜岡、熊本等一道二府十九縣の技師、若尾甲府市長、山梨縣郡會議員各町村長、本會特別會員各新聞記者等三百餘名にして、時鐘十點を報ずるの時、總裁殿下には「カーキ」色の陸軍大將服を召し大勲位の勲章を佩びせ給ひたるを以て、松平侯爵以下委員並に來賓一同正門前に整列して迎い奉り、酒勾副會頭の御先導にて階上なる御休憩所に入らせられ先以て本會正副會頭理事及評議員に拜謁を賜はり、次に武田

支會長以下準備委員一同に拜謁を賜はりたり、斯くて鋪々たる一鈴二鈴の響きと共に、來賓及會員の席定るや、殿下には松平會頭の御先導にて式場に臨ませ給へり、君か代の奏樂に依りて總員起立し敬禮を行ひ、殿下の御着席あらせるゝを待ちて、松平會頭には端然場の中央に進み、總裁殿下の御台臨を仰ぎ、無上の光榮を擔ひたる本會は茲に臨時總會を開催すと宣言せらる、尋で御附武官は進んで令旨を殿下に献し奉れば、殿下には玉音朗かに左の如く之れを讀み上げ賜へり。

令旨

現時蠶絲業界ノ趨勢ハ大ニ本會ノ發奮ヲ要スルモノアリ此時ニ方リ有數ノ蠶絲業地タル山梨縣ニ於テ本會ノ臨時總會ヲ開キ組織ヲ改メテ以テ其基礎ヲ堅フシ規模ヲ擴メテ以テ之レカ進運ヲ啓カントス洵ニ機宜ニ適セルノ措置ナリト謂フヘシ

今ヤ我邦ハ富力ノ增殖益急ヲ告グルモノアリ故ニ輸出品中ノ巨擘タル蠶絲ノ生產ニ從事スル者ノ責任特ニ重且大ナルヲ覺ユ會員諸子能ク愼重ノ協議ヲ遂ケ本會ノ根抵ヲ確立シ斯業ノ改善發達ヲ努メ以テ國力ノ進捗ニ資スルコトヲ期セヨ

明治三十九年十月二十八日

大日本蠶絲會總裁
大勳位功三級貞愛親王

右の御令旨に對し奉り、松平會頭には謹嚴の態度を以て御前に進み、左の如く奉答の辭を朗讀せられたり。

奉答

茲ニ蠶絲ノ生產ヲ以テ著名ナル山梨縣ニ於テ本會臨時總會ヲ開クニ當リ總裁殿下ノ台臨ヲ辱フシ且優渥ナル令旨ヲ賜ハル洵ニ感激ニ堪ヘス

本會曩ニ其組織ヲ改メ之ヲ社團法人ト爲シタルモ駸々タル蠶絲業界ノ進運ハ更ニ本會ヲシテ規模ノ擴張ヲ促シ定欵ヲ改正スルノ已ムヲ得サルニ至ラシム是レ今日本會ヲ開キタル所以ナリ 正直等多數ノ會員ト共ニ胸襟ヲ披テ審議協定シ益本會ノ基礎ヲ鞏固ニシ內大ニ蠶絲ノ改良增殖ヲ企テ外汎ク販路ヲ海外ニ求メ以テ國富ノ增進ヲ圖リ台旨ニ副ハンコトヲ期スヘシ會員一同ニ代リ謹テ答辭ヲ奉ル

明治三十九年十月二十八日

大日本蠶絲會頭男爵　松平正直

次に和田農商務次官は農商務大臣の代理として、左の祝辭を朗讀せられたり。

祝詞

貿易ヲ發達セシメ以テ國富ノ充實ヲ企圖スルハ今日ノ一大急務ナリ而シテ我邦物產中能ク此目的ニ適合スルモノヲ擧クレハ先ツ指ヲ蠶絲ニ屈セサルヲ得ス故ニ蠶業ノ發展ヲ規畫シ蠶絲ノ輸出ヲ增加セシムルハ國家經濟上最モ努ムヘキノコトナリトス然レトモ斯業ノ改良發達ハ獨リ政府及當業者ノ施設經營ノミヲ以テ足レリトセス又民間有力ナル機關ノ汎ク製品ヲ世界ニ紹介シ其販路ヲ擴張シ並ニ當業者ノ智識ヲ啓發スルニアラスンハ能ハス大日本蠶絲會ハ多數ノ會員ヲ有シ斯業上ニ貢献スルコト茲ニ年アリ今又一府九縣聯合共進會ノ開催ヲ機トシ總會ヲ甲府市ニ開キ其規模ノ擴張組織ノ改革ヲ行ヒ今後更ラニ發展ノ實ヲ擧ケントス寔ニ能ク時宜ニ適スルノ施措ナリト謂フヘシ顧フニ世界ニ於ケル生絲ノ處要ハ漸次多キヲ加フルノ趨勢ナルヲ以テ本邦ノ蠶絲業ハ前途頗ル多望ナルモノアルト共ニ國家經濟ノ發達カ之レニ待ツ所亦極メテ多大ナルモノアリ翼クハ會員諸子益奮勵協力從來ニ倍蓰スルノ功績ヲ擧ケ以テ國富ノ增進ニ努メラレンコトヲ聊カ一言ヲ述ヘテ以テ祝辭ト爲ス

明治三十九年十月二十八日

農商務大臣正三位勳一等　松岡康毅

次に武田山梨縣知事は山梨支會長として、左の祝辭を述へられたり。

祝詞

大日本蠶絲會ハ總裁殿下御親宰ノ下ニ茲ニ本日ヲ以テ當市ニ臨時總會ヲ開キ遠近ヨリ來リ會スルモノ會堂ニ溢ル盛ナル哉惟フニ國力ノ充實ヲ圖ルハ實ニ帝國今日ノ急務ニシテ而シテ之ヲ我邦ノ風土ニ稽ヘ之ヲ農家ノ狀態ニ照ラスニ民ヲ富マシ國ヲ强フスルノ道養蠶製絲ノ奬メ易クシテ利潤ノ大ナルニ若クハナシ

我蠶絲會ハ創立以來既ニ十有五年ヲ經會員ノ數壹萬一千ヲ超ヘ戮力一致學理ノ研鑽ニ技術ノ習練ニ斯業ノ改進ヲ資ケタルモノ尠ナシトセス今ヤ進ンテ其ノ組織ヲ革メ規模ヲ擴張ス一層ノ活動ヲ試ミントス洵ニ時勢ノ要求ニ應シ頗ル機宜ヲ得タルモノト謂フヘシ

千代三郎偶々山梨支會ニ長トシテ此盛典ニ列スルノ榮ヲ得本會勃興ノ瑞兆ヲ見テ欣喜措ク能ハス謹ンテ無辭ヲ陳ヘテ祝意ヲ表ス

明治三十九年十月二十八日

大日本蠶絲會山梨支會長
從四位勳四等　武田千代三郎

次に本會へ送られたる祝電左の如し。

謹テ蠶絲會ノ隆盛ヲ祝ス　福島縣　淺野德三
總會ヲ祝ス　宮城縣　弘步館
盛會ヲ祝ス　石川縣　村田榮文
盛會ヲ祝シ且ツ貴會ノ發展ヲ祈ル　新潟縣　山田政嗣
大會ヲ祝ス　同　本間宏
大會ヲ祝シ併セテ本會ノ隆盛ヲ祈ル　宮城縣　八巻雄三郎
盛會ヲ祝ス　長野縣　中島多壽太
大會ヲ祝ス　福島縣　車田定次郎
貴會臨時大會ヲ祝ス　滋賀縣　田中惣兵衛

大會ヲ祝ス

熊本縣　細谷久一郎

議　事

右にて式終りたるを以て、松平會頭には之れより定欵改正の議事を開くべし、議事案の朗讀は專任理事に爲さしめ、其說明は副會頭に爲さしむべしと宣告せらる、於是平吉池理事は起つて左の議案を朗讀せられたり。

定欵改正議案

第二欵

第六條

二　會員間ノ交際ヲ親密ナラシムルコトヲ圖ルコト

（「九」ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ次ノ「十」ヲ「十一」トス）

十　會報ヲ發行スルコト

第五欵

第十三條　名譽會員ニハ皇族ヲ推戴ス

第十四條　特別會員ニハ本會ノ主旨ヲ贊成シテ入會シ一時ニ金十圓以上又ハ四年間每年金參圓以上ヲ出スモノトス

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特ニ本會ヨリ特別會員ニ推舉ス

一　本會ニ對シテ功勞アル者

二　蠶絲業ニ關スル學術技藝ニ達シタル者

第十五條　通常會員ハ本會ノ主旨ヲ贊成シテ入會シ一時ニ金壹圓五拾錢以上ヲ出スモノトス

第十六條　本會ハ前三條ノ會員ニ對シテ徽章ヲ交付ス

本會ノ爲特殊ノ功勞アル者及巨額ノ金員ヲ寄附シタル者ニハ有功章ヲ授與ス

第十七條　會員退會セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ本人ヲリ死亡シタルトキハ相續者ヨリ徽章ヲ添ヘ本會ヘ屆ヘシ

第十八條　會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損スルトキハ之ヲ除名シ徽章ヲ返納セシムルモノトス

第三十四條　總會ノ招集及會議ノ目的タル案件其他決議事項ノ通知ハ會報及特ニ指定シタル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

附　則

第三十九條　本定欵改正實施以前ニ入會セル特別會員及通常會員ハ第十四條第一項又ハ第十五條規定ノ出金ヲ爲セルモノト看做ス　但シ第十六條ニ依リ交附スル徽章ノ代價ハ之ヲ納付スヘシ

第四十條　本定欵ノ改正條項ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ實施スルモノトス

參　照

大日本蠶絲會報發行規程案

第一條　本會ハ定欵第六條第十號ニ依リ會報ヲ發行シ會員及廣ク希望者ノ間ニ應ス

第二條　會報ノ發行期日ハ每月一回二十日トス　但シ急案ノ事項アルトキハ臨時增刊ヲ爲スコトアルヘシ

第三條　會報ハ前金ニアラサレハ之ヲ送付セス

第四條　會報ノ代價ハ次表ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第五條　會員ニシテ證書ノ紛失又ハ定欵ニ依リ一時ニ金十五圓以上ヲ納付シタル者ニハ鉄身會報ヲ無代送付ス

第六條　本會定欵改正前ノ第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ納付シタル金ハ第三條ノ前金ト看做シ會報ヲ送付ス

種別	一費代	一ヶ年分
會員	十三錢	一圓五十錢
會員外	十五錢	一圓七十錢

一ヶ年分未滿の一費分ノ割合ヲ以テ計算ス

尋で酒勾副會頭には左の如く議案の說明をせられたり。

私は只今會頭より宣告せられたる最重要なる問題、即ち定欵改正の趣旨を說明するの光榮を擔ひまする、素と大日本蠶絲會は其の規則に依て事務を處理して居りましたが、會の發達の上よりして定欵を制定し社團法人となるの必要を認めました、則ち現定欵でありまして主務省の認可を得ました、明治三十八年八月十四日でありまする、而して其定欵に於て、皇族を推戴して、總裁とするの條を設けまして猶豫なく會頭は本會を代表して當宮殿下に請願し奉りましたる所、畏くも御嘉納あらせられまして、而して同年十月十日は會員の眼膚致すべき深く厚き御思召の旨を賜はりました、爾來會員は仝旨を奉戴して奮勵致しまして會頭松平男爵は東奔西走本會の目的を擴充することを勉めました、茲に於て本會は現に會員一萬一千五百人を算するの盛況を呈するに至りまして、其內本年に入りて增加したるもの二千七百名の多きに達して居ります、乍去廣く宇內の大勢と帝國國力の形勢とを併せ考へまする時は、決して現狀に安んずることは出來ません、則ち戰後の經營として大に且速に國家富力の增進を圖るべき必要が有りまして然して其富力の增進に對して最も重要の位置を占むるものは、蠶絲業に在ること何人も首肯する所でありまする、又我帝國より產出する生絲は世界の貿易市場に於て、實に首位を占めて居りまする、往時は我生產の生絲は綿絲にはなし得べきも經絲には用ふべからずと云ふ說もありましたが、今日は經絲にも綿絲にも用ひまする、總べての種類の絹織物に適しまする、我生產の生絲なくしては世界の絹織物業は成立し得難いのでありまする、如此狀勢である以上は大に我國內の蠶絲業の發達を圖らねばならぬのでありまして、世界の各種類の材料を蒐集しまして、世界的の觀察世界的の經營をなさんければ成りませぬ、此の重任に當るべき機關は我大日本蠶絲會を外にしてより適當なる、より信用ある、より便利なる機關は隨じてありません、斯くて本會は定欵制定後未だ一年ならずして更に大發展をなすべきの必要を感じまして則ち會務擴張の調査委員を設くることゝなり、船越男爵外四名の人其委員に選任せられまして、理事と熟議を遂げ其の案成るに及びて、會頭は之を評議員會に提出致しました所、評議員會に於ても一致これを可決致しまして、即ち本日の臨時總會に提出せられたる所の定欵改正案でありまする其の最も主要なる點は從來は本會々員は永遠に每年會費を醵出する組織でありましたのを、今回の改正案は出金を一回に止めて而して會員の資格を永遠に保たしむるの方針に改めまして、之に依て近き將來に數十萬の會員を得、追て

は敵百萬の會員を得んとするの目的を有して居ります、會員の多きは則ち資金の裕かなる所以にして、前段に述べましたる所の抱負を現實にせんには、第一に資金の充實を圖るべき必要を認めたのであります、且會員の多きは資金の豊なる所以であるのみならず、則ち多數の同情者多數の同心協力者を得る所以にして、會の勢力は實にこの人と及び金とを基礎と致すのであります、併し斯く改めました上は會報は無代で配布することは出來ませんから、會報を望むものには別に其代價を徴する都合に致しまして、則ち參照の為めに置きました其他は名譽會員には皇族の御方のみを推戴すること、會員間の交際を親密ならしむることとを圖ること、事業の一に加へましたること、會員に徽章を交付し特殊の功勞あるもの及び巨額の金員を寄附したるものに有功章を授與する規程を設けたる事であります、勿論斯く定款を改正致しましても現在の會員は其後永遠に會員たるのであります、以上定款の改正は將に明年の一月一日より之を實施するの目的であります、則ち改正案の要旨は大要如斯次第であります。

右定款改正案の說明終るを待ちて、松平會頭は議事の進行を圖る爲め、議案の全部を議題に附せんと欲すと述べ、滿場異議なしと應へ、夫れより第二款第五款及附則の三つに區別して、更に可否を問はれたるが、一人の異議者もなく極めて圓滿の間に議了したるを以て、松平會頭には朗々たる音吐にて、

總會が、無事に其重大なる議案を解決し得たるは、斯業の爲め慶賀の至に堪へざるなり、願くば會員諸君多々益々勉誡を以て、本會の爲めに努力せられ、又來賓各位に於ても一層の聲援を與へられたし。

と宣べられ、茲に議事は全く終局を告げたるを以て、殿下には臨院たる奏樂の間に御退場あらせられ、階上に於て暫時御休憩の後ち、正門前に於て松平會頭以下委員の奉迎を受けさせ給ひて、午前十時四十分御歸館遊ばされたり。

來賓の演說

殿下御退場あらせられたる後ち、式場は一轉して演說會場となりたるが、勝頭錦鷄間紙候田中芳男氏登壇せられ、養蠶と製絲との關係に就てと題し、養蠶と製絲との二者相調和して之れが改良を圖るにあらざれば其の進歩は期し難しとの趣旨にて諄々之れを說き、導て男爵船越衛氏は何れの國にも特殊の物產ありて、夫れに依て一國の經濟を維持し其名聲を博しつゝあれば、我邦の如きも蠶絲業を特殊の產物として名聲を博し國家の經濟を維持すべく、大に之が進歩改善を促さゞるべからずと論じ、農學博士酒勾常明氏は人造絹絲に就てと題し最近に送付し來れる人造絹絲の見本なりとて、實物を一般總衆に示し、將來大に戾るべきものなれば天然絹絲の產出に從ふ者は、一大覺悟を要すと警告し、祖を下られたるが、時既に正午となりしを以て來賓及來會者一同に午餐を供し、午後一時再び開會せり、松平會頭は會員將來の覺悟と題して、組織變更後に於ける本會々員は、如何にして其双肩に擔る大責

任を完ふすべきか、非常の決心と覺悟とを以て之れに當るを要すと說き、總領事内田定槌氏は米國生絲市場に於ける日本生絲と題して、米國機業の狀態より生絲取引の方法等に就て本邦製絲業者の注意すべき要點を述べ、頗る總衆に感動を與へられたるが、之れにて閉會を告げ一同散會したるは午後四時なりし。

殿下草薙社へ御成

我邦に大製は絲場の數多しと雖も其能く一工場内に千名に近き多數の工女を收容して、年々多大の生絲を製造しつゝあるもの幾何ぞや、甲府市に於ける草薙合名會社の如きは恐らく全國に於て多く其比を見ざる處ならん、去ればにや總裁殿下には特に一覽すべしとて本會臨時總會の式了後、二十餘名の隨行員を從ひ同社へ御成あらせられ工場内の廣場に於て同社專務取締役代表者若尾千代次郎氏及社員に拜謁を賜はり、夫れより浜田山梨縣第一部長今井技師の御案内にて、「工女就業の實況を御覽あらせらるゝ其後、御休憩所に於て若尾氏は工場内部の機械を上申し且つ茶菓を献上せられたるが殿下には殊に御滿足に思召され午後零時十分御退社ならせられたり同社は之を其光榮と爲し所謂記念として生絲五本を献上し奉れり。

總裁殿下の御覽あらせられ給ふの上に照れる光榮と爲したる所信谷内の林絲製絲

慰勞の盛宴

是より先き十月二十七日午後五時八田達也氏には本會及大日本農會有志總代として本會々頭松平男爵の一行、及大日本農會々頭松平侯爵の一行を、甲府市魚町松本亭へ招待し、盛大なる慰勞の饗應をせられたり、席上八田氏は起て今回我甲府市に、兩會の總會を開かれ、特に殿下の台臨を仰ぎ奉りしは、吾等の以て一大名譽と爲す處にして、我縣農蠶業の發達史上特筆大書すべきの異例となす想ふに當業者の神益や大にして今後の發達や大に見るべきのあらん而して農會は本日無事に終りを告げたり、蠶絲會も亦た明日圓滿に終局すべし、各位の勞や眞に多とせざるべからず云々の挨拶を爲し、松平侯爵の謝辭に亞で、會頭松平男爵には本會臨時總會を開催するに當り、本縣官民諸氏の容易ならざる盡力を得、吾等ごと盡勞申上べきに、却て反對に之れを受

く、何を以てか謝辭とならさん、唯深く有志諸氏の勞と厚意とを感謝するの外なし云々の意味にて謝辭を述べられ、夫れより宴に移りたるが紅裙能く餘興を盡し和氣藹々歡語暢々主客陶然として醉ひ、一同散會したるは午後九時なりき。

大園遊會の光景

總裁殿下を正賓とし和田農商務次官以下八百餘名を陪賓としたる大園遊會は十月二十八日老松營倉城壘依然として雀觀を存し四圍の眺望絶佳なるの地即ち甲府城一名舞鶴城内本丸に於て開かれたり、今其概況を述べんに、本會總會結了後即ち午後四時半、一發の煙火を以て開園を報じ、亞て一發殿下の御臨會を祝し一周遊繞橋上の兩側より正門の前に連りて迎ひ奉れり、殿下には武田知事の御先導にて暫時協賛會接待所に於て御小憩あらせられ軈て園遊會場に入らせ給ふ、乃ち知事は謹て臨場の辱なきを拜謝し開宴の辭を述べ、若尾市長亦進んで奉迎の辭を述ぶ、一同食卓に就くや劇曲なる洋樂起り憂々として古餘興の幕明き無数の甲斐の四季及扇踊の二曲演せられ此間烟火亦絶えず打上られたり殿下宴を受けさせ給ふこと約一時間頗る打ち寛らがせ給ひ六時前席を立たせ給へば一同

天皇陛下と總裁殿下の萬歳を三唱し奉り其聲天地を震撼したり此時既に滿街の燈光榮として不夜城を現し模造天主閣の輪郭に無數の裝飾電燈を點じたるさまさては石垣を利用して寫し出したる殿下萬歳の裝飾電燈などチカ〳〵に美觀を添へ中にも城内の各所に一時に燃へ上りたる色花火の如きは紅綠爛々として御還路を照し其壯觀到底筆舌の及ぶ處にあらざるなり、斯くて奉會者一同十二分の歡を盡して散會したるは午後六時過ぎなりし。

抑も此園遊會は武田知事若尾甲府市長の主催に係るものにして、本會の一行は之れが優待を受たり、茲に深く其厚意を謝す。

總裁殿下信濃支會總會へ御台臨

殿下岡谷へ御成

總裁殿下には十月二十九日武總會總會に臨ませ給ひ、其翌三十日甲府市を御出發あらせらる、官民幾千の人々は奉迎の時の夫れの如く、御旅館より停車場迄御道筋の兩側に整列して奉送したり、而して殿下には午前七時四十五分なる臨時特別列車に御乘車あらせられ、沿道各停車場に於て公私各團體各學校生徒の盛なる奉送迎を受けさせ給ひつゝ、午前十時五十一分本邦第一の製絲業地なる岡谷停車場に御到着あらせられたり、山梨縣よりは添田第一部長、八田、今井、内田、小野の諸氏岡谷迄御見送り奉り、成田山室の高丘に至りて御暇乞申上げられたるが、長野縣よりは大山知事甲府迄、工藤、南條羽田、尾澤の四氏富士見駅迄、片倉氏外十數名の諸氏岡谷驛「プラットホーム」に御出迎ひ奉り、柵外には各學校生徒各團體其他遠近より集まれる有志者、嚴肅に整列して奉迎し參らせたり、停車場前には練門を建て萬國々旗を吊し砂を敷て御

通路を清められたるが、御召列車の着驛するや、一發の煙火を合圖に各製絲場は一齊に汽笛を鳴らして、奉迎の誠意を表し、殿下には驛長の御先導にて、「プラットホーム」を出でさせ給ひ、神西警部大山知事を先驅とし、御附武官、家令、家侍、松平會頭、其他の隨員二十餘名と共に岡谷製絲の實況を御台覽あらせらるべく、先づ第一に。

尾澤製絲工場　に向はせられたり御案内にて工場の就業狀況を御覽あり、別室に於て尾澤金左衛門同福太郎の兩氏に拜謁を賜はり、暫時御休憩の後ち御退出遊ばされ、豫ねて用意の御休憩所たる。

成田山室の高丘　へ徒歩にて御登りあらせられたり、此地道路より高きこと六十間餘にして、一眸の下諏訪湖の全景を集むるを得べく、山水悉く懷ろに入るてふ眺望絶佳の好適地たり、殿下には右天龍橋、左釜口湖上に扁舟の浮び、東西一帶天龍川の兩岸に、煙突林立の狀を御眺望あらせられつゝ、御畫餐を召され、約一時間御休憩の後ち。

總裁殿下の御臨會の先発の警笛の響のなりたる後ち林立の製絲場

片倉組製絲工場　を御觀察あらせらるべく、川岸村に向ひて御車を進めさせられたり、須臾にして同工場に着かせ給ひ御休憩室に於て片倉兼太郎同佐一の兩氏に拜謁を賜はり、夫れより繰絲場、揚返場、檢査室、荷造所等の實況を御覽遊され、本多蠶業講習所長御説明申上げられたるが、一々頷かせ給ひ、夫れより目下工事中なる。

川岸小學校　に成らせらる、同校庭前には川岸在郷軍人團、愛國婦人會川岸青年會及同校生徒等整列して奉迎したり、殿下には少時御休憩の上茶菓の御饗應を受けさせられ、校長北澤和一郎氏に拜謁を賜はる、軈て御退出に際し川岸青年軍人團中にたる、中村政一、横口秀次郎の二氏加はり居たるを御目に附けさせられ特に御車を駐めさせ給ひイゾコを負傷したるか、マダ痛みはせぬか、手は後ろへ廻はるか、大事にせよなど難有き御言葉をかけさせられ、二氏は言ふも更なり、傍に在りたる人々迄、殿下の軍人を痛はり賜ふ御心の最と厚きに感泣したり夫れより。

岡谷製絲場に立寄らせ給ひ、同事務所に於て小口金三郎氏に拜謁を賜はり、且つ生絲を御覽あらせられ同場は之れを無林製絲工場に入らせ給へり林倪氏に拜謁を賜はりたる後ち同樣生絲の御覽ありて、更に同場横手の天龍川に近く、漁夫の釣打の狀況を御覽ぜられ、午後二時岡谷停車場へ御歸着遊ばされ、此處にて同地出身陸軍歩兵中尉濱愛之助氏に特に拜謁を賜はり、種々の御言葉さへありたるが、同二時十一分發の上り列車にて、同驛及下諏訪驛に盛なる奉迎を受けさせ給ひつゝ、上諏訪驛に向はせ給へり。

上諏訪驛の奉迎

殿下御召列車の午後二時三十分、上諏訪驛に着するや、煙火轟々として響き亘り、樂隊は喇叭なる樂を奏し、學校生徒の萬歳を三唱する等奉迎頗る盛なり、御道筋の兩側には、縣郡會議員、各官衙吏員、町村名譽職員、在郷軍人團、中小學校生徒、赤十字社員、愛國婦人會員、新聞記者其他有志等盡然として整列し歓迎し奉れり、殿下には「プラットホーム」を出でさせ給ひ、直に腕車に召させられて、御旅館壮丹屋に入らせ給へり。

信濃支會第一回總會の光景

定らぬ秋日和の前日には些しく降るも、準備に餘念なかりし、委員諸氏を始め、多くの人々に少からず氣を揉ませけるが、開會當日となれば跡なく霽れ薄雲のみ空に懸りて、殷々たる煙火は曉天より絶えず打揚られ、其壯快言はん方なし、會員の隊々として來會する者無慮六百餘名、流石に廣大なる講堂も立錐の餘地なき盛況を極めたり、斯くて午前十時となるや、總裁殿下には御附武官、案令、案從、其他供奉員二十餘名を從ひさせられ、大久保警部に次て神西警部長を御先導とし、會場中學校に成らせ給ふ、第一鈴にて會員の着席するを待ち、工藤副會長は同會の顧末及來會者の注意すべき要項に就て述ぶる所あり、第二鈴にて來賓着席す、此時進行の曲は奏せられ、殿下御臨場あらせらる、喇叭なる君が代の奏樂に滿場起立禮を正みし最敬禮を爲したり、續て大山支會長は恭しく起て、本春北信下伊那の二支會を合し、信濃支會と改稱したる當會が、本日茲に第一回總會を開會するに當り、特に總裁の宮殿下の御臨臨を辱したるは、深く名譽とする處なり云々と述べ、亞て御附武官は令旨を殿下に捧げ參らせ、殿下は御聲朗らかに讀み下し賜ひ之を大山支會長に授け賜へり。

令旨

信州ハ本邦蠶絲業ニ於ケル著名ノ地ニシテ諏訪ノ製絲業ハ其名汎ク全國ニ知ラル而シテ此地ニ信濃支會第一回總會ヲ開設シ親ク其隆運ヲ目睹スルヲ得ルハ深ク滿足スル所ナリ抑モ蠶絲業ハ國家富强ノ源泉ニシテ其ノ一盛一衰ノ影響スル處決シテ鮮少ニアラザルナリ殊ニ戰後經營急ナルノ秋大ニ其發達ヲ要スルモノアレハ本縣會員諸子夫レ之ヲ忘レス協力一致堅忍自彊以テ益改善進歩ノ實ヲ擧ケ今日得タル名聲ヲシテ更ニ一段ノ高キヲ加ヘ以テ國富增殖ノ資ニ供センコトヲ望ム

明治三十九年十一月三十一日

大日本蠶絲會總裁 大勳位功三級貞愛親王

次に大山支會長は左の奉答文を朗讀ぜらる。

奉 答

謹ヨテ明治三十九年十月三十一日當支會第一回總會ヲ開設スルニ當リ 總裁殿下御台臨アッセラレ賜フニ優渥ナル令旨ヲ以テセラルル是各支會ニ於テ未タ曾テ其例アラサルノ盛事タリ當支會ノ光榮何物カ之ニ如カンヤ

顧フニ本邦輸出品ノ首班ヲ占メ其消長盛衰ノ直ニ國家經濟ニ關係ヲ及ホスモノ他ニ之ヲ需ムヘカラス而シテ吾長野縣ハ養蠶ニ製絲ニ其產額風ニ一頭地ヲ拔クモノアリト雖モ時運ノ趨勢ハ更ニ當業者ノ結合集團ノ力ヲ增大シテ改良增進ヲ要スルモノアルヲ以テ本春北信下伊那ノ二支會ヲ合シテ信濃支會ト改稱シ今ヤ漸ク其基礎成リ將ニ大ニ進歩ノ圖ラント欲スニ際シ殿下特ニ台臨ヲ下シテ督勵アセラルル洵ニ感激ノ至リニ堪ヘサルナリ顧ミ寸毫不敏ト雖モ台諭ヲ遵奉シ忍耐以テ艱難ヲ凌キ勇斷以テ障碍ヲ退ケ敢ヘテシテ斯業ノ改善發展ヲ期シ國力充實ノ責務ヲ完ウセントスル在ニ會員一同ニ代リ謹テ答辭ヲ奉ル

明治三十九年十月三十一日

大日本蠶絲會信濃支會長

從四位勳四等 大山綱昌

右奉答文の了るや大平の曲は再び樂手に依て奏せられ亞て松平會頭は左の告辭を朗讀ぜらる。

告 辭

本邦ハ夙ニ世界ノ蠶絲國トシテ名聲ヲ博セリ然シテ長野縣ノ蠶絲ハ實ニ其標軸タリ殊ニ諏訪製絲ノ旺盛ニシテ其產額ノ多大ナル蓋シ全國ニ卓絕ス果シテ然ラハ諏訪ノ製絲ハ其產額ニ於テ世界無比ト稱スルモ敢テ過言ニアラサルヘシ今此地ニ於テ大日本蠶絲會信濃支會ヲ開設スルモノ豈偶然ナランヤ然シテ此總會ヲ開クニ當リ特ニ總裁殿下ノ台臨ヲ辱フシ且優渥ナル令旨ヲ賜ハル洵ニ當支會ノ一大光榮ナルノミナラス又本會無上ノ面目ナリ今ヤ此空前ノ殊遇ヲ辱フス會員タルモノ感奮興起之ニ酬ヒ奉ルモノ無クシテ可ナランヤ顧フニ現今國富ノ充實ハ蠶絲業ノ擴張ヲ圖ルヲ以テ最モ捷徑ニシテ且其ノ效果亦確實ナリト信スル故ニ之レカ振興ヲ圖ルハ誠ニ急務中ノ急ナリトス冀クハ會員諸氏自今一層奮勵以テ斯業ノ發展ヲ圖ルト共ニ益本會ノ擴張ニ務メタ台旨ニ報ヒ奉リ以テ大ニ國家ニ貢献センコトヲ一言陳ヘテ告辭トナス

明治三十九年十月三十一日

大日本蠶絲會會頭

正三位勳一等男爵 松平正直

次に和田次官は農商務大臣代理として左の祝辭を朗讀せらる。

祝　辭

大日本蠶絲會ハ多年蠶絲業ノ振興ニ努力シ國家ニ貢獻スル處少ナカラス本月二十八日更ニ其總會ヲ開キ以テ今後ニ於ケル活動ノ方策ヲ講シ其信農支會モ亦本日ヲ以テ總會ヲ當地ニ開キ本會ト相呼應シテ以テ大ニ爲ス處アラントス蠶絲會ノ斯業ニ於ケル夙ニ勤ニタリタリ謂フヘシ然リト雖モ斯業ノ前途ハ尚遼遠ナリ當業者一層ノ奮勵ヲ要スルト共ニ蠶絲會又更ニ一大飛躍ヲ爲ス殊ニ長野縣ハ夙ニ蠶麻ノ主産地ニシテ其一ヲ稱セラレ然シテ諏訪地方ノ製絲ハ其産額海内ニ秀タルヲ以テ當支會モ亦之ニ對シテ銳意規劃ス處アリ以テ他ノ支會ノ模範タルコトヲ期セサルヘカラス望ムクハハ本會員諸子自今以後益勵精事ニ此ニ從ヒ其製品ヲ改良シ其産額ヲ增加シ以テ大ニ國富ノ充實ヲ企圖センコトヲ一言希望ト爲ス

明治三十九年十月三十一日

農商務大臣正三位勳一等　松岡康毅

而して本多東京蠶業講習所長の祝辭左の如し。

祝　辭

本縣蠶絲業者諸君は時勢の趨向に鑑み前さに北信下伊那兩支會を解散して信農支會を新設し斯業の爲めに一大發展を企圖する處あり今又殿下の台臨を仰き第一回總會を製絲の中樞たる此地に開きて以て益其歩武を進めんとす寔に時宜に適したるの措置なりと云ふべし由來本縣の製絲は數量の多きを以て稱せられ蠶種亦頗る名ありと雖も尚改良發展を圖るべきもの一にして足らず今や國家富源の涵養急なるの秋驚くば會員益奮勵黽勉其聲價の發揚に努められんことを一言以て祝辭となす

東京蠶業講習所長從五位　本多岩次郎

茲に於て式は全く嚴肅の間に了れり、殿下は玆朗たる君が代の泰爾と共に御退場あらせられ、御休憩所に於て準備委員の諸氏に拜謁を賜はり、午前十一時三十分御歸前遊ばされたり、正午茶菓及一般來會者に午餐の饗應ありて、午後一時講話會となる、新鋪朝者峰村喜蔵氏は伊藤の蠶絲業に就て東京蠶業講習所技師永井米蔵氏は汽罐に就て之を題し、共に有益なる講演を試み、頗る聽衆に感動を與へられ、午後四時目出度閉會を告げたり。

大名行列の御覽

此日圓谷及下諏訪の有志者は、殿下の御旅情を慰め奉るべく、午後二時上諏訪町北本町より角間に至る間、大名行列を行ひたるが、殿下には御旅舘の階上より、最と面白く御覽遊ばされたり。

夜會の光景

總裁殿下が常に我蠶絲業に御心を注がせ給へるは難有き極みにして、只々感泣し奉るより外なき次第なれど、三十一日午後四時、上諏訪町鶏鳴館に開かれたる夜會に台臨を給はりしが如きは、寔に是れ空前の異例にして、此破格の光榮を荷ふこと偖り信農支會の名譽に止せらず、實に本會の名譽

にして感激措く能はざる處なり、今其夜會に於ける光景を記さんに、夜會ゑ場は鶏鳴館樓上にして、午後四時半に開會せられ、發會者一百餘名の席既に定りて虚然たるの時、殿下には大山知事の御先導にて御臨場あらせられ、豫ねて設けの御席に御着座ありて、膳部を薦め奉るや、大山知事は遙に末席に下りて殿下に一揖し奉る。

大日本蠶絲會信農支會第一回總會を開くに當り、總裁殿下の御臨場を仰ぎたるさへ無上の光榮なるに、今夕玆に會員の熱誠凝結して會合を開くに際し、殿下特に台臨を給ふ、感泣措く能はざる處なり、山間僻陬の地何の用意もなく、其だ恐縮に堪へざれども、何卒御寛ろぎ遊ばされ、御召上り給はんことを會員一同に代りて願ひ奉る云々、と述べられたるが、殿下には同知事に向け

今夕一同の熱誠なる會合に臨み滿足に思ふ、此旨代はりて一同に傳へよ

との御辭を賜はり、知事は乃ち起て之れを一同に傳へられたり、夫れより御附武官松平會頭和田次官の間に種々御雜談あり又御附武官には殿下が平素健康を重んぜさせ給ひ、日本酒及麦酒は召上らず、佛國より毎年純良の葡萄酒を取寄せ、四ヶ年を經たるものより順次御召料と遊ばさるゝなどの御話をせられ、殿下には頗る御滿悦の態にて御親談數十分に渡らせ給ひ、更に大山知事を招き

銘々に盃を取らする筈なれど、多人數のことなれば知事代理して回はすやうに

との有難き仰せとり、知事は御盃を捧じ戴き、列席者一同に之を回はされたるが、其御思召の彌高く又深く渡らせらるゝに、皆々感激し涙に咽びたる者の多かりしも道理なりけり斯くて知事は殿下の御許しを得たれば、諸君起て殿下の萬歳を三唱せらるべしと呼び來皆之に和せり、而して殿下には間もなく御退出あらせられたるが、其際知事に對して

皆の者は着席の儘にてあるべし、決して立つに及ばず

との旨を傳へさせられ、何ぞ其御心を用ひさせ給ふことの周到なるや、實に畏れ多き次第にぞありける、而して松平會頭以下工藤、羽田、尾澤、片倉の諸氏玄關迄御見送り申上げられたるが、殿下には殊に松平會頭に向はせられ

本夕は主に蠶絲業の人々の集まれるものならん、蠶絲會の爲めに斯く優遇を受けたるを深く喜ぶ、今後益斯業の發展に努め國本培養に盡すやう、此旨會員一同に傳へよ。

との厚き御詔あり、

會頭は此旨を會員に報告し併せて國家が蠶絲業の爲めに國債を悉く償還するにあらざれば、蠶絲業を國家的事業なりとは云はざるなり、宜しく國家の經濟を蠶絲業が其雙肩に擔へる覺悟を以て精勤盡瘁し殿下の御仝旨を奉ず服膺し、以て其厚き御思召に報ひ奉る處なかるべからず云々と述べて席に復せられ、歌舞互に胸襟を開き、談笑交々歓を盡し、片倉象太郎氏の發聲にて、松平會頭の萬歳を三唱し散會したるは午後六時半なりし。

殿下の御歸京

明れば十一月一日午前七時四十分、殿下には臨時特別列車

に御乘り遊ばされ、上諏訪町を御出發あらせらる、各官衙公私各團體、各學校職員生徒及有志の奉迎頗る盛んにして、煙火轟々仲天に轟きたり、工藤、羽田、尾澤、片倉の諸氏、富士見驛迄、大山知事甲府驛迄、共に御見送り申上げらる、午前十時十五分甲府驛に着す、官民有志の人々「プラットホーム」に整列して奉送せられ、造花其他の献上物あり、武田知事第四部長本驛より陪乘し上野原驛迄、神西長野縣第四部長は紀尾井町の御殿迄御見送り奉られたり、此日朝少雨ありしも暫時にして愁雲一掃し天空開濶小春日和の暖暖に其快や言ふべからず、汽車は黒煙を吐きつゝ東都に向ひて疾走したるが、各驛共奉迎盛んに萬歳の聲天地を聾せり、午後二時三十九分四ッ谷驛に安着す、殿下には御機嫌麗はしく御出迎の馬車に御移乘あらせられ、午後三時劍町區紀尾井町なる御殿に御飯京遊ばされたり。

結尾

總裁殿下貴顔の御身にあらせられ、加ふるに幾多重要の御職に當らせ賜ふにも拘らず、今回特に本會臨時總會及信濃支會に御を枉げ賜ふ、實絲が國家事業たるにあらずんば易ぞ此光榮を辱ふするを得ん、洵に恐懼感激に堪へざる次第にして今は只粉骨碎身以て斯業の振興を謀り台旨に酬ひ奉るの外あるべからず、會員齋氏長へに之を記憶せられんことを。

而して本會及信濃支會の兩總會が極めて盛大に極めて嚴肅に、無事圓滿に終了するを得たるは、全く山梨長野の兩縣當局者と支會役員並準備委員の諸氏とが、熱心以て盡力せられたる結果にして、頗る其勞を多とせざるべからず、殊に本會の一行に對し至誠以て優待せられたるは、謹謝措く能はざる處なり。

又殿下の御一行に對しては鐵道作業局より、特に甲府驛出張所運輸課長平岡錦作氏を派して、終始御召列車に陪乘せしめ周到なる注意を施されたると、甲府市及上諏訪の兩警察署に於て、非常巡査を召集する等、嚴重なる警戒をせられたるとに依り、何等の錯誤もなく些少の障害だもなかりしは、其に感謝に堪へざるなり。

ロングフェラー

多數の人は苦し野心を以て心を
慎はさずんば小事に成功せしならん

一府九縣聯合共進會に就て

學藝委員
農學士　紫藤　章

編者本會總會臨時會に臨む可く甲府へ出掛けたるの際一日農商務省長官の都に於ける共進會に對する意見を聞いたのである當省長には新聞非常に多忙で居られたものだあれど光分之れを聞くの餘裕がなかつたのであるが先づ其概要丈け聞られ且つ話をさうとて物語られし談話を綴り左に掲げ會員諸君の清覽を乞ふことゝした

共進會としての成功

共進會に就ての話ですが、此度の共進會では、一府九縣より出品したる總ての種類を五部四十二類に區別してあるが其出品點數の多きこと、從來の共進會に於て未だ曾て例を見ざる處で、出品人員の總數が二萬五千人餘、總出品點數が四萬餘點とは太いしたものです、此四萬餘點の出品は十六棟の建物に陳列されてあるが、日々の來觀者も非常に多い先づ共進會としては成功したものと謂はねばなるまい。

審査期間は三十日

從來の共進會には農商務省より直接派遣せらるゝ審査官は多くも十五六名で遣つたのである、けれども出品點數が甚だ多いものだから、今回の審査官は三十名である、斯う云ふことも未だ曾て其例のないことですが、開會期間は四十日間ですけれど、審査は三十日間で遣つて仕舞はねばならぬから隨分忙はしいのである。

全國に於ける進歩の程度

四萬餘點の出品中其主要物産とも云ふべきは、實絲類と織物類とであつて、之れに亞ぐものは穀菽類である、此聯合府縣は關東北陸の一部ではあるが、實絲類といひ織物類といひ特又穀菽類といひ、何れも其産額に於ては天下有數の地のみであるから、此三つのものを能く觀れば夫れで全國に於ける進歩の程度を略ぼ推察することが出來るのである。

農産物の進歩は如何

尤も穀菽類中米の如きは本年のものでなく、殆んど作に終し昨年のものを出品してある、爲めに其點數も比較的に多からず陸稻水稻合せて約千點に達して居るけれども何れも見るべきものが甚だ稀い、麥の如きも亦た甚だ良品に乏しいのですが、千葉縣のものには稍々見べきものがある、山梨縣の

麥は御承知の如く、之れまで品質の良いのを以て知られて居たので、之れが大切な收穫時期に於て雨天續きであつたから其品質を害して居る、大豆や小豆の穀類も亦た米や麥と同じく見るに足るの良品が少ないのです、佛と之等は天候の影響に依ることゝ麻とが著しく退歩の狀を呈して居るのである、藍は印度藍の爲めに一大打撃をうけて數年前開港の恩運に相つゝあつたのは事實であるけれど、しかる八王子に於ける共進會の時には マダ見るべきものがあつた、然るに夫がモー今回に至つては藍製藍とも仕方がまないやうになつて仕舞つたのです、此度の出品を見ると感心するやうなものであつたのである、が此度の出品は有名なものであつたのである、が此度の出品を見ると感心するやうな品物の少ないのである、斯くて茶はドーであるかといへば現狀維持の有樣で改良の跡が少しも見んのである、併し乍ら卿も薬草は流石英城、神奈川等は有名な產地を有して居る丈あつて良品が多くない、栃木縣は近來煙草栽培業著しく增加し、彼の有名なる干瓢も良好專賣局でも非常に喜んで居るとのことである。

水產業の進歩は如何

次に水產業の出品に就ては新潟茨城千葉神奈川等海岸の諸縣より隨分出品もしてあるけれど、之れは決して大なる進歩を認めない、經驗其他のものの凡てが乾燥不充分であつて、面かも其出品の種類を見れば鰹節は流石に沒落の如き先に開港の新國の共進會に矢張蕃査長をして居つたから能く譯のあるが、其時に比較をして見れば雲泥の差ありて著しく進歩したのが認られるのである、併し器械蕃査をしてみれば、稍れには八百回以上の赫長のものもあるけれど、平均先づ六百回位であるから、故に赫長稍短きの缺點あるを免れないのである。

蠶種は山梨、長野、群馬等、何れも本場を以て聞ゆる縣が勵み合して居る丈數程競爭して出品したらしい、特に注意を重ねて出品したる間は、之れ迄の形跡は、眼に見て明かである。

蠶絲業の進歩は如何

次には蠶絲業に關する出品である、流石は主産地の山梨縣を始め勵み合せる長野、群馬、埼玉等が何れも有數の出品數は實に多いのである、前開かれた第五回博覽會の時ては多數の出品は五千點を算するに過ぎざるもしが、今回は六千點の出品は五千點を以て居る、之れを以ても其盛況を知らるゝのである、更に人が此度の共進會に出品は僅に其數が多い計りでなく良品も亦た多數を占め、乃至青熟であるとか云ふ假令附されてある繭の形狀の如何に依て自然に生ずる現象であつて、尤も繭の形狀の如何に係らず、人目を引く爲めに造つた方が宜しいと云ふ考へのあるために、逐次造るやうになるのであらうが、久しき以前より此點が行はれて今に尚ほ矯正されんのは甚だ遺憾の次第であるのです。

群馬縣福島郡北倉會社於ける蚕繭

生絲の出品數は八百點餘であるが、此多數の出品數の中に於て、未だ嘗て見ざる出品は只だ横濱生絲檢査所に於て器械的檢査を遂したのであるが、再び繰試驗は非常に良好であつて、切節の如きは殆んど皆無の如きも細太の差違が深山あつた、纖度の如きも多數ありて檢査所側立以來いまだ嘗て見ざる出品を示して居るのである、之れ普通の賣品などは、纖度の差一番酷いので「デニール」平乃至三「デニール」は必ずあつたのである、然るに一「デニール」平乃至二「デニール」の者とゝふに至ては誰れか其成蹟の優良なるに驚かざるを得ないのであるが、先づ今回の出品生絲のやうな良品は賣品に於ては決して多く見ざる處であつたのである、之れは製絲家にはナンボも精良の品を作る腕を持つて居るのであるけれど、生產費等の點から承知し乍らワザと夫れを作らんのであると云ふ方が適評であらう。

去れば製絲家にはナンボも精良の品を作る腕を持つて居るのであるけれど、生產費等の點から承知し乍らワザと夫れを作らんのであると云ふ方が適評であらう。

して褒むべきことではない、何れの土地でも必ず特殊の產物のあるものであるから、寧ろ其特徴をして進歩發達せしむるの方針を取る地方の長所を充分に發揮せしめたいのである。

次に水產業の出品に就ては新潟茨城千葉神奈川等海岸の諸縣より隨分出品もしてあるけれど、之れは決して大なる進歩を認めない、經驗其他のものの凡てが乾燥不充分であつて、面かも其出品の種類を見れば鰹節は流石に沒落の如き先に開港の新國の共進會に矢張蕃査長をして居つたから能く譯のあるが、其時に比較をして見れば雲泥の差ありて著しく進歩したのが認られるのである、併し器械蕃査をしてみれば、稍れには八百回以上の赫長のものもあるけれど、平均先づ六百回位であるから、故に赫長稍短きの缺點あるを免れないのである。

農蠶具の進歩は如何

次に農蠶具である、現在の農蠶業をして、今一歩進歩せしむるには、是非農具の改良を圖らねばならぬと云ふことは何人も認むる處であるけれども、之迄學者も餘り之れが研究をせず、實業家も左程工風を凝らして居らなかつたから、統一した立派のものが出來て居ない、併し之れと云つて纏つた品がないのです今回などもイロンな品が出品されてあるけれど、之は上云ふ品が見當らない、一口にいへば、農蠶具は凡て混雜の時代であつて、決して整理の時代ではないから、將來大に研究し工風を凝して立派のものを案出するやうにしたいのである。

織物類の進歩は如何

次には織物類である、綿生、足利、伊勢崎、八王子其他織物の產地より出品したる其數は、甚だ多いことであつて、先づ大體に於ては進歩の狀況ありと云はねばならぬ、年併ら概して出品に向きの品が多く出品されて居る、之れは畢竟博覽會などゝ謙ソて、地方的の共進會であると云ふ處から、出品に向きのみの重きを置きたるためもあらうが、現に角當業者方に己れの力一杯を注いで居らんのであるから、此出品に依て當業者の實際の技術の存する處を知ることが出來ないのである、尤も輸出向き織物の出品は割合に多くなつて來たのであるが、之れ即ち羽二重は勿論のこと、洋服の裏地や乘地（レース）類（ドロンウォーク）等の產額の年一年に增しつゝあると云ふことを證據立つることが出來るので寔に良き現象であると思ふ、併し大抵は無地物であつて、未だ流行を追ふ編物を捧へるなどゝ云ふ處へは至らんから、此上一層の奮勵を以て之れが進歩發達を切に希望する次第である。

輸出向き製作品は如何

金石製品、雜工作品の出品も澤山あるが、これは多くは日用品なるも其數は內に於て近來輸出向きの製作物が多くを加へ海外の借用も次第に高まりつゝあるは喜ぶべきことである、其他詳細に亘つて批評をすれば、際限のないことになるから、マー此位にして止めて置かう。

殿下特に蠶絲類に御目をつけさせらる

終りに一言したいのは、伏見宮殿下が今回大日本蠶絲會臨時總會に御來臨あらせられ、其御序を以て此進會場を御巡覽あらせられし中、特に蠶や生絲に御目をつけさせられ、御熱心に種々御下問あらせられたる次第であるが、御先導を申上げ一々其御下問に答へ奉つて居つた自分は只感泣するの外なかつたのである、ドーか業に蠶絲に從人る人々は、殿下の御心のほどを推し奉りて勤勉努力之れが改善進歩の實を擧げ、國富增進の資に供するやう心掛けられたいものです。

――――――――――――――――

生絲貿易の旺盛は絲價の低廉に在り

學藝委員　丹羽敬太郎

當蠶業試驗所として製絲改良の重任を負はれ蠶業界に大なる功績を收められつゝある處の丹羽氏には蠶糸販賣斡旋會第五回總會に於て本年度の買入方針に關する講演をなされたから編者は一夜氏の日本橋區數寄屋町なる自宅を訪ひ、氏の講演を筆記して其原稿を乞ひたのである、氏は快諾の意見を開陳されたる講演を本誌の讀者に供することゝしたのである

絲價の高きを望む勿れ

本年の蠶糸相場は一石平均五圓と云ふ高値分高とまでありました、去れば斯かる高價の原料を仕入れたる製絲家は果して利益を得ることが出來るであらうか、又以前のやうに損失を招き失敗をするやうなことになりはせぬかと氣遣つたこともありましたが、本來現今米國の需筋の不振であつたことと筋の買ひ進めるため、横濱市場は常に活氣を呈して平均百斤の絲價一千百五十圓以上と云ふ有樣、殊に昨今の如きは信州上一番格が一千百五十圓と云ふ呼聲であるから、先づ近年に無い高い相場であると云はねばなりません。隨て此れ製絲家も皆相當の利益を得たりとなりますが、併し退て考へて見ますれば、此絲價の高いと云ふことは決して喜ぶべきことではない、將來本邦蠶絲業の大發展を期する上に於ては絲價の高きを望む勿れであります。

如何にせば生絲を低廉に賣應ずるを得べきか

彼の伊佛の製絲は由來精良を以て宇內に鳴るものである、然るに伊佛の蠶絲業は漸次不振の狀態に陷ゐるを免れないのである、之れに反して清國の生絲は粗惡劣等なりとの惡評を受け、殆ら厭來市場に於て傳るべからざる勢力を有して居るのです、之れは畢竟如何なる原因に依るであらうか、多言を要する迄もなく、前者は生產費の嵩む結果として絲價常に高きに亦、後者は之と反對に低廉に賣り應ずるが爲めであります、凡て物價は需要供給の關係に依り一概に云はれませんけれども、現今に於ける日本生絲の價格は支那は勿論伊佛に比して決して低廉なりと云ふことが出來ないのである、之れ本邦の蠶絲業家が如何にして生產費を減少するか、如何にして精良なる生絲を低廉に賣り應ずることが出來るであらうかと云ふことを講究して置かなければ、此上更に一段の發達を期すると云ふことは容易に望み得られぬことであらう。

赤毛布の實例に徵せよ

今こゝに赤毛布の名は田舍漢の代名詞、イヤー冷評語となつて、誰れも珍重どころか寧ろ之れを用ゆるのを愧ぢるやうに考へて、能く〳〵の田舍漢でもなければ着てゐる者などは一人もないけれも、其初めて流行して來た時分には、「フラン

ケット」と云つてナカ〳〵に珍重されたものであります、慶應元年の頃でした、私の親類が大阪の邊から一枚の青毛布を買つて來たことがある、私の處で近所近邊の者や出入の者などが寄り集つて、何んとアレが「フランケット」と云ふものであるさうな結構のものではないか、一遍アノ上へ上つてみたいものであると云ふ者もあれば、氣物などゝは勿體ないと云ふ者もあり、上へ上るにもコワ〳〵乍ら上ると云ふ風でありました、夫れも其等一枚の青毛布が四兩今の金にすれば二十四圓と云ふ値打ちであつて而かも夫れが都會でもなければ容易に買はれないと來て居るから珍重されたも當然のことですが其後其毛布が段々下落して今では並物なれば一圓二三十錢で買はれ、陸軍省で使ふ目方五斤以上の品でも僅に四圓も出せば買へるのであるから、下層社會の者迄が皆使用するやうになつたのであります、此一例に徴して見ても生絲の販路を擴張するには、是非其價格を低廉にせなければならんと云ふことが分るのであります。

生絲の需要高を增加するは絲價の低廉に在り

昔は王公の貴きを以てして尚且つ容易に絹布を用ゆることが出來ない云ふ位高貴な品物として取扱はれたのであつて隨つて普通の人民などは輕蔑なる絹布の妙味に浴することは思ひも寄らぬことであつた、夫れが今では我國の如き假令軍を挽く者でも、少し金でも持つて居りや一枚や二枚、絹布の外着を持つて居ると云ふ有樣である、ツマリ之れが產額の增加と共に其價格の低廉になつた結果であります、而して此の米諸國に於てはモウ云ふ譯にはゆきませんが、併し米諸國に於ては年々歲々年一年に其需要高を增しつゝあると云ふ事實である、然れども中流社會に迄廣く用ひらるゝと云ふ譯けではない、而かも毛織物などの爲めに壓迫せらるゝ場合が多いのであります、若しも其價格を現在よりも低廉にして何れの饑爭品にも打ち勝ち、下層社會に迄も用ひらるゝやうになりましたならば、其需要高は頗る廣大なものとなるのであります。

誰か無限の惑なからん

今日も農商務省の蠶病豫防事務協議會に列席して、特た無限の感に打たれたことでございます、今の農商務省は十四年に出來たのですが、十六年に全國から製絲家中の重なる者を二十六人召集して、製絲諮詢會を開かれたことがあつた其時私は石川富山の二縣を代表して出席しました、先度死なれた本多なども列席者の一人で横濱の茂木、原、確氷、風間金之祐原茂十郎、其他星野長太郎、朝吹英二、佐野利八、野村長太郎の諸氏も列席せられたのであります、時の農務局長が高橋是清氏で農務局長が最山磨義氏、商務局長が高橋商務局長はそれに次で現在世界の生絲需要高は三億萬圓であるとして、いろ〳〵諮詢案を提出したことがあります、高橋商務局長は、現在世界の生絲需要高は三億萬圓であるに依て、ドーか我日本から輸出する生絲の額を其三分の一位迄に進めたいものであると云はれたのであります、當時日本から輸出する生絲絹織物等の凡てを合算しまして、僅に一千七百萬圓でありましたから、君其の考へてはドーして一億萬圓など〻思ひもぬことであるから、せめて三千萬圓位にすることが出來れば上等と云はねばならぬと思つたのである、然るに今日に至りましては如何であるか生絲絹織物其他を合して上つたのであるが一億三千萬圓と云ふ高に上つたのである、皆譯が無限の感じなきを得んやでありませう、而して如何に長足の進歩を爲したる所以のものの、畢竟絲價の低廉と云ふのが大なる原因であります。

陛下御臨幸あらせらる

この諮詢會に列席せられた人々の多くは殆ん〳〵缺けて只今生き殘つて居る人は殆いが、大抵は皆成功せないて仕舞つたのです、私なども失敗者の一人であるが併し本邦の製絲業が日の如く進歩したのも、是等の人の功績與つて大に力あることゝ云はねばなりますまい、夫れは兎に角此諮詢會が、イロ〳〵なものが生れて來て、或は「生絲檢査所」の設立となり、或は蠶絲檢査法の同製組合の前身者とも云ふべき蠶絲業組合の發布となり、今日の蠶絲檢査所の設立となり、中央本部なども賜はれたのでありますが、此事に就て最も異例とし何時思ひ出しても愉快に感ずへんのは、諮詢會開會中に天皇陛下の御臨幸あらせられたことであります、慶應義塾の塾生が出來て始めて、御臨幸でありましたが、殊に會議の席を御通過あらせられたのです、親しく私共は其前に天皇陛下の眞の姿を拜し、此は永久の記念にしたいと思ひ、中の眞例に遊ばされる大御心のほども何ひ奉ることが出來るのであります、……

引續き蠶絲業組合製絲業者の實況

イヤー之れは話が脱線して仕舞つたが、マー橋氏の希望せられた、一萬圓も通り過ぎて、此上は現在の二倍乃至三倍に進めやうと云ふ希望であるから隨分奮發を要することであります。

銀貨相場の變動と生絲の賣行

慶應の末明治の初めに渡きましては、生絲百斤の價格が倫敦相場にして二千七百圓もしたのである、夫れが十六年の頃には横濱濱しが七百圓位へ今日の金に直引き直して一千二百圓位へ今日の金に直して）としかゝ當らんやうになり、二十年の暮には日本の銀貨百圓の賣買ふことの出來ると云ふやうな銀貨相場に大變めが行はれたゝめに、二十一年の春には日本の銀貨百圓の賣買が金九十三圓迄賣買ふことの出來ると云ふやうな銀貨相場に大變

動を起して來ましたから、此影響を受けて破產の悲境に沈める製絲家は尠くなかつたのである、私も當時百二十人繰の製絲場を持て盛んに經營して居つたのですが、矢張之れが致命傷となつて倒るゝやうな始末で想ひ出して見れば實に酸鼻の話柄であるのです斯くて二十三年の春から二十四年の春に亘つて「レンジケート」が破れ、銀が澤山に出て來たのですから二十五年の春には銀百圓は金四十三圓迄下落したものですから當年の絲價が橫濱渡し千圓であつたけれども、米國の金にして僅に四百三十圓位にさへ當らんから、夫れより日本の生絲は非常に賣れ出しましたのであります、尤も米國の機織る器械が餘程進步して、十四中以下の生絲でも構はずドシ〜〜使ふやうになつたのが、日本生絲の賣行きを幇助する一原因たるに相違なきも、絲價の低廉其者が主大原因であることは爭はれぬ事實であります。

繭價の四十圓と絲價の九百圓

斯う云ふ關係を知てみれば、絲價は餘り高きを望まずに割にさへ合つたならば出來得る丈け安くしたいと思ふのでありますが、先づ私の考へては桑葉は一貫目壹圓、繭は一石四十圓、生絲は百斤九百圓、此の位の處で蠶絲業家も相當利益があり、外國人も亦進んで買ふことゝなるであらうと思ふ一反步の桑園から二百貫乃至二百五十貫目の收葉量があるとすれば、二十圓乃至二十五圓の收入があることになるから農家も桑を作つて相當割に合ふことになり、蠶を飼つて一石四十圓で賣れるとすれば、養蠶を遣つても之れ亦相當の利が得らるゝ、そこで一石四十圓の原繭を仕入れたる製絲家は一升の繭から十匁の生絲を引くものとして、百斤を製造するには六百四十圓の原繭代を支拂ひば宜しいのであるから、百斤の賣上九百圓の內より此六百四十圓を引き尚繰絲貸銀や、石炭其他の諸入費を引去つても、七八十圓の純益を見ることが出來る譯けであります、此九百圓と云ふ相場は歐米市場に於て決して高い相場ではないに依て、必らずや其需要を增加して來るに相違ない、今や本邦生絲の品質は伊佛生絲の夫れに比し、左程遜色のない位置に迄進んで來たのであるから、更に此上價格を低廉にするの方法を講じて、生絲貿易の旺盛を期し、以て世界蠶絲業の覇權を實際に於て握るやうにしたいものであります。

思出のまゝ

學藝委員 農學士 石渡繁胤

本篇は蠶學の聞え高き石渡學士の談話である頗る興味があるから掲げて以て讀者諸君の一粲に供することゝしたのである。

ジヤカードの像カレーに建つ

「ジヤカード」は紋織器械の發見者である、里昴の人である里昴の機業の盛なる此發見の御蔭を被て居ることは少なくないのである、里昴の「クロアルース」の廣場には氏の銅像が建て居る、毎年「ジヤカード」の祭は盛に行はれる、里昴の日本人は多くは蠶絲業に關するもの、又は機業に關するもの、其祭日には其典に列するを常とすると云ふてある、然るに今や又氏の像は「カレー」市に建設せられんとし「カレー」市民は之が爲めに二萬八千四百五十法（一萬一千三百圓）を投ずると云ふとてあるが、內五千法は「カレー」商業會議所の支出、二千法は網織及薄紗製造組合の支出、三千法は會議所幷に組合頭取なる「ヘロン」氏の支出なりとのことてある、日本でも今日「ジヤカード」器機の御蔭を被むつて居る機業地西陣の如きは氏の像を建てもよいのてある、西陣の管善三郞氏が歸朝した當時其噂があつたが其後どうなつたか聞かぬのてある。

二十二日本日少しく溫度高し、午前十時「クロアルースサヒス」町一番の管氏か誘ひ同氏の案內にて機屋二軒を見る、一は手機にて小しの動力（電氣）を加へたるもの、一は全くの手機なり、何れも絞織にして裝飾用のものてある、手機には「ジヤカード」を用ひ、器械には「ベルドー」を用ひて居つた。此處の機業の仕組は、町にある資本主から經絲を卷きたるものを受取り、之れを織りて返すのてある、經をへる橫絲を卷く、何れも分業てある、一日八「メートル」位を織る、又婦人の裝飾布を織るのを見た。

これは余が旅行日記の一節である、里昴機業の一斑を知ることが出來るてあらう、「クロアルース」の高地の一帶にチヤン〜〜と機の音の聞へる中に建て居る像は如何に滿足てあるてあらうと思はれる、「カレー」市は英佛の交通上樞要の地てある、余は機業地とは心付かず通過したのてある、同地は網織、薄紗の織場てある、今度此市に「ジヤカード」の像の建つのは決して偶然てないのてある。

佛の蠶業家ローランド、ラルブーセー氏

「ローランド、ラルブーセー」氏は蠶種製造家で又製絲場をも持つて居られる、其黑蟻種は氏の精選によりて得たる良種である、氏は萬國農業會議蠶業部の委員として働かれた、千九百三年に於ける萬國農業會議に於ける氏の演說は生絲の將來に對する意見と、歐羅巴南部に桑樹を栽植するの意見とてあつた、養蠶製絲、の獎勵金に對する運動其他蠶絲業の公共事業に盡した人てある、其發行に係る佛國蠶業雜誌は小なるものてあるが常に氏の意見と蠶絲業に關する重要事項を掲載して本會の記事も屢々轉載されて居る、余の蠶兒雌雄の鑑別及配付蠶種に就ての記事も亦轉載せられた。

氏は去る七月十九日死去せられたと云ふ、其報が傳へられのてた、實に哀悼に堪へぬのてある、本會報にも氏の訃を傳ふると共に其傳が詳しく載つて居つた、余が日記は「カレー」市に氏が宅を訪問せる一事は「アルブーセー」氏に會す、同氏の製絲場を一見すと記すのみてある、然しながら訪問の際聞き得たる事實は有益なること少なからすてあつた。

又余は此頃第八回萬國農業會議の通告を受取た、萬國農業會議は一千八百八十九年巴里に開かれ、次て一千八百九十一年「ハイエ」、一千八百九十五年「ブルッセル」千八百九十六年「ブダペスト」、千八百九十八年「ローザンヌ」、千九百年巴里、千九百三年羅馬に開かれた、羅馬に於ける會議は余が歐洲へ出張の命を拜した時てある、それて間に合つたならば出

廉すべくあつた、故に余は政府よりの委員として會議錢には記名されて居るけれども、出發の時日が運れた爲め出席し得なかつたのである、第八回は昨年維也納に開かるべきのであつたが、二年間延期して來年五月墺國帝國大學内に開かれることになつた。

此會議の通告を得て、亦「ローラン」氏の事を想起すること深くあるのである。

歐羅巴の條桑育

此方法は亞細亞土耳古邊で行はるゝ方法で其地で此飼育法で出來る繭が千五百萬基程あるそうだ、此法の佛蘭西國のセベンヌー地方に試みられた事は餘程古い事である、凡そ四十五年前であると云ふことだ、其方法は如何なるや精しい事は明かでないが、三眠起から條桑で飼育するのであることは確かである、歐羅巴殊に佛蘭西では、蠶業は他の農業に比して經濟的なりとして之れを避ける傾かある程だかも、期の如き方法が就ては迎ざるいものである、然し眞の蠶業者は排斥して居るやうだ、先づ此法の利益を說くものは曰く、一、飼育の面積を要すること少なく、二、給桑遂かなり、三、除沙の方法易し、之れによりて人力を要すること極めて少なく、蠶兒は常に新鮮なる食物を得、且空氣の流通宜しく蠶の衛生に適せりと、不利を唱ふるものは曰く、之れ進歩せざる飼育の方法にして失敗の危險極めて多し、取起を一齊になすを得ず、この間に於て遺失を生ずること少なからず現に此法の起原地たる「トルキスタン」波斯では大した成效がない、或る報告によれば「オンス」の蠶卵から十基の繭しか取れて居ないではないかと云つて居る、「普通歐羅巴では一「オンス」三十「グラム」の蠶卵から七八十基である、即ち蟻量一匁に對し二貫六百匁乃至三貫三百匁である一「オンス」に十基では蟻量一匁に百七十匁にしか當つて居らぬ。

伊太利では鞍飼と云ふのがある、桑育である、あり行はれて居らないやうであるが、其方法としては鞍狀の蠶架を用ひて飼育するのである、興へた枝が段々重なつて來ると桑條の上に横たへる棒を置て其上に新しい桑を與へるのである蠶兒が新しい枝に移つたのを見て以前に用ひた下側にある横支への棒を除くのである、そうすると古枝はみな鞍狀架の間に落して了ふ、之れを集めて桑てるのである。

我日本で安蚕飼或ひは掃飼などが大分誰方で流行して居る今日掃蘭西で條桑育が試みられて居るとは妙な一致ではないか、此飼育法は多くの害惡に就ては未だ何とも云へぬ京都蠶業講習所では別に簡易の條桑育と云ふのが試驗されて居る、比較的成績によりて此飼育法の害惡は推れると思ふが、見る角一般に普及するには餘程考へものと思ふ。

はつ雪や夫の上かく爪の跡

講筵

製絲のことゝも

通常會員　金厚つた

（一）索緒帶の取扱方

索緒帶の取扱方如何は、絲量の多少に勝からぬ關係を有して居ますから、可成巧妙に手際よく取扱ひ、繭を索緒帶に移せばなりませんが、先づ右手の拇指と食指とにて帶の束ねたる部分を撮て中指は輕く其下部に當て、繭か繭層の間に觸れつゝ、靜かに撫づるが如く打つが如く繰糸は全繭數の三分の二位を得たらば、之を取て鍋の二箇に寄せ更に其殘繭に就て繭の如くに帶を扱ふのであります、如斯すること凡二三回位にして索緒を終るのであります、手際は誠に敏捷に短時間に繰糸を索緒得られないみならず、繭層を損傷し且つ折角求め得たる絲糸を無駄きの爲に引き亂されて遂に絲量を減ずるのであります。

第三、整緒のこと

正しき絲緒を求むる爲に緒絲をすぐり抄るのでありますが其方法及巧拙によりて、又絲量に大なる影響を及ぼすものであります、故に注意して熟練せねばなりません、其方法に二種あります、即ち分け抄り及廻し抄りのことであります、分け抄りとは各部の緒絲を二つ若くは三つに分ちて各別に整緒を行ふのであります、廻し抄りとは手前の方の隅より緒絲を抄り初めて正整を求め得たる部分は之を向こうの方へ廻はし、順次手前の方に來りたる部分を抄りて廻はし、如斯する事三四回にして以て全部の整緒を終るのであります、此法は分け抄りの方法に比すれば絲量の點に於て劣る事なく、成幾分か良よく存じます、之れは分け抄りの方法を以て優良と存じます。

第四、繰絲湯につきて

（イ）繰絲湯の溫度の高低及其交換の方法如何は、製絲の工程上及生絲の品位上に大なる關係を有するものであります、から一通り心得て置かねばなりません。

繰絲湯の溫度、煮繭湯の溫度の如く繭の種類及品質乾燥の程度の如何によりて之を異にする必要があります、とりわけ煮繭を誤りて煮過ぎたる時の如きは、繰絲湯の溫度は普通のものより低くしなければなりません、若し之を高き溫度にて繰りもしたならば、絲量を減じ色澤を惡くし、糸節を多くし

実に粗末な生絲となりますから能く注意せねばなりませんが面白して若蚕のものは繭絲湯の温度を可成高温に保つの必要があります。

（ロ）繰絲湯の変換　繰絲湯の清濁程度如何は製絲工程の上に又生絲の品位の上に大なる影響を及ぼすものでありますから可成其適度を得る様に且又常に一定の度に保つ様にせねば爲めに生絲の色沢がひらが出来て誠に粗雑な生絲となるのであります、而して濁り方甚だしきに過ぐる時は色沢落しく不良なり且つ蒸絲量を多く生じて索絲量を減じ又除りに湯を換へ過ぎて清きに失する時は損失が多く且つ絲量を減ずる等の損失があります所謂あめ色に少しく濁りたる位に常に一定の度を保つ様にせねばなりません、而して繰絲湯を交換するには繰鍋の上面より流出せしめ、又は漏杓にて汲み取るのは出来ぬ様にして良法と致します。（未完）

此下に全なし

一廟人あり、旅に金袋置き忘れて来た旅宿地に客が拾はんと欲見に於はれんことを恐れ、沈思し熟考して遂に之を施主に渡むと雖も強不要に堪へず、其上に標して目く此下に全なし此復原に遂に謹る。（大笑者題）

桑樹の肥料に就ての質問

静岡縣
通常會員　和泉徳太郎

（一）青刈草を堆肥となすに、本年七月頃刈入れしものを、翌年三月迄堆置いても、効力に關係はないか、又其間の取扱法はドーすれば良いでせう。

（二）青刈草十貫目を堆肥とすれば、目方は増すでありませうが、其割合はドーでせうか。

（三）米糠は其儘桑樹に施肥するも効力に關係のないものでせうか。

（四）會報第百五十七號問答欄内永伍作氏の高木作仕方は植付の次年より五年目に至る收穫の割合は年毎に別に伺ひたい。

答

學藝委員
農學士　川島勝二郎

（一）青刈草を堆肥とするには百貫目に枚につき、約一「ツトル」（五合五勺）の容積を要し、從て四百枚を入るるに適するものは、其容積甚大なるべく、運搬其他に不便が少なくないから家百枚を入れ若くは二百枚を一戸とするが宜しい、其大要を本誌質問應答欄内に詳しく記述せんに箱は二重箱とし、内箱は桐、外箱は適宜の材を用ゐて之を造り、内外雨箱の中間には乾燥せる鋸屑を填め以て内外温度の激変を防ぎ、箱の内に籠は種を設け架を張り蓋の中央には棒狀蓋を置くべき穴を設けねばならぬ。

貯蔵箱を挿入するには土蔵が宜しく、一間四方位の廣さに蓋は不十分なるを免れないから、出来得るだけ廣くし、且蔵には二重にするが得策である、然れども特に之を設けざるも温度は低くして且変化甚しからざる室に前記二重箱を置く時は大なる影響を受くることはないであらう。

産卵せざる母蛾に就ての質問

和歌山縣
通常委員　山本司呂吉

蠶種製造の際優等美麗大にして見栄無類なるものは、あつて毫も産卵せないもの、産卵しても其数僅少であつて到底蛾屑を保ち難いもの等往々ありますが、是れは如何なる原因ですか。

答

學藝委員
農學士　川島勝二郎

蠶種を貯蔵するには百蛾に枚につき、約一「リツトル」（五合五勺）の容積を要し、從て四百枚を入るるに適するものは、其容積甚大なるべく、運搬其他に不便が少なくないから家百枚を入れ若くは二百枚を一戸とするが宜しい、其大要を本誌質問應答欄内に詳しく記述せんに箱は二重箱とし、内箱は桐、外箱は適宜の材を用ゐて之を造り、内外雨箱の中間には乾燥せる鋸屑を填め以て内外温度の激変を防ぎ、箱の内に籠は種を設け架を張り蓋の中央には棒狀蓋を置くべき穴を設けねばならぬ。

貯蔵箱を挿入するには土蔵が宜しく、一間四方位の廣さに蓋は不十分なるを免れないから、出来得るだけ廣くし、且蔵には二重にするが得策である、然れども特に之を設けざるも温度は低くして且変化甚しからざる室に前記二重箱を置く時は大なる影響を受くることはないであらう。

（一）変なし、（此際変分離激しきたる時は見込み結束して上より強く絞りて発分を防ぐ雨露を防ぐ為め施設を要することは勿論である。

（二）青刈の種類、堆肥に際しての混用物及び其の用量、堆肥時日の長短、其の他種々の狀況にありて大なる差異を生ずるから一概に於て最初用ゐた青草の重量が増加するが如きことは時期に於て最初用ゐた青草の重量が減ずるが普通である。

（三）米糠は脂油を含有するから、其まゝ使用するは肥料として不利であるから、故に一度他に轉用して後施用すれば却て効果を大ならしめ、一暴雨得て大なる差異を生ずるものである。

（四）桑樹の種類及施肥量等に依りて大なる差異を生ずるものであるから、一概に断言することは出来ぬが、先づ三ケ年間は收葉なれども伐採無ければならず、京都蠶業試験場に請ひ構内の試驗園の收葉成績を聞くに左の通りである。（一反歩二百五十本植込み）一反歩の收蠶業

四年目	三三、九		三四八、五
五年目	五七、五	繭七	四二八、七
六年目	三一七、五		蠶桑

蠶種貯蔵箱に就ての質問

宮崎縣
通常會員　野瀬溜二

蠶種四百枚の最も安全なる貯蔵法を製造容易なる法を御解説して戴ひたい、而して該箱は四方（一天井は板張密閉するのは如何）十畳にて一間四方位の小室に置き度きものです。

理に因るものでせう、又之を豫防するの方法がありますか。

答　學藝委員　農學博士　外山龜太郎

蟲物でも植物でも栄養器管が餘り發達するときは、生殖器管は發育不充分となるか、又は其作用不充分のことのあるは多くある例である、蠶も其一例であらう。

豫防法は飼育法を適宜にして蠶體の甚しく發育せざるようするが宜しい。

乾燥繭に就ての質問

山梨縣　通常會員　窪田昌平

同一の繭を殺蛹の上、同時に一は多管式蒸汽乾燥室（旋風器附乾燥室、花上）にて乾燥し、一は火力乾燥室（旋風器分離一重、同前花上）にて乾燥して何れも繰糸を遂つた所左の結果を得たのです。

	繭量	結果
蒸汽乾燥繭	一斗に付	百〇五匁
火力乾燥繭	同	百十五匁

右は如何なる關係から斯る結果を生じたでせう、又繰量の減少した繭は十月以後來春繰糸するも火力乾燥繭と同等の繰量を得ることが出來るでせうか、兎も角如何したならば宜敷か良法を御明示ありたい。

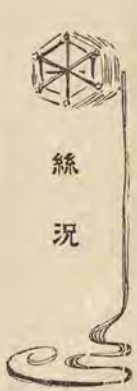
答　學藝委員　農學士　中村雅次郎

（一）乾繭器の構造及乾繭方法を明示なきを以て、其原因を知るに頼いけれども、多管式蒸汽乾燥の不結果なりしは蓋通風作用不充分なりしため、繭質を不良に陥らしめたによるのであらう、若し然らずとせば、室内の湿度甚しく不平均にして乾燥に過不及を生ぜしめたる結果であらう。

（二）乾燥方法を過りたる繭は何れの季節に繰るも決して繰糸量を増加し解舒佳良なるが如きことはない、若し過乾に失したる場合には繭を一二晝夜多湿の室内に放置し、後繰すれば多少解舒を佳良ならしむることが出來る。

蛾冒の豫防

之れは通常蛾冒に罹り易い時期になります、蛾冒は遺伝の原因となりますから大に恐れねばなりません。蛾冒を防ぐには第一に皮膚を健康にせねばなりません、皮膚から抵抗するのが一番眞いのです。此背慣をつけた上更に厚着をしてはなりません、厚着は皮膚を弱かにします、又外へ出る時には湿き徳屑から、急に冷いと感じ風に触れるやうなことは絶へず注意をしてゐます。又運動して汗の出た時、直に着物を脱いで冷やしてはなりません、少しでも油断大敵ですから、油断をせぬやうにする点が蛾冒豫防の秘訣であります。



絲況

横濱市場

前月来に於て稍不味不振の狀態に陥りたる横濱生絲市場は、十月に入りて以來欧洲向きの景氣と、米國筋の活動とに依り終始順調を持續しつゝ、一日の手合高一千二三百個乃至二千個以上を算したることさへありて、全月に於ける總輸出數量は實に一萬八千〇十一個の多きに達せり、而して價格の知きも五圓又十圓と歩一歩高直を報じ、本稿を草するの頃は遂に信器上一番格一千百三十圓迄暴騰し、近年稀有の現象を呈したり。

抑も生絲市場が如此盛況を示したる所以のもの、畢竟（一）米國機業家が新絲以來同地金融の緊縮農作物の前途を懸念し餘りに買控へたる結果原料の缺乏を感じ、殊に農作物豊收の見込み立ち益々生絲の取入れを感ずるに至りし事（二）銀塊は益々騰貴の色あり爲めに支那絲は絶望となり東洋生絲の供給は本邦絲を措て他に求むべからざるに至りたる事（三）絹織物の需要は曾に欧米の好況なるのみならず、近來印度南貿向等一時高直の爲め見送り居たるもの、餘儀なく貴進むに至りし事（四）輸出の旺盛は内地向きの活動を促し前週以來地遺絲の賣行稍々引立ち、殊に機業家は來春原料の拂底を見越し、思惑買を爲し置くの止むなき事情あるに至りたる事等其主大原因なりとの說最も眞に近きが如し、兎に角絲價は三十二年以來の高直にして、其賣行の盛なること一昨三十八年の夫れにも増し本年一月以降十月迄の累計額八千二百八十七萬九千七百七十五圓となり、之れを昨年の同期に比し二千六百十三萬五千八百七十四圓の増額たり、若夫れ此趨勢を以て進みたらんには、或は本年に於ける生絲の輸出總額一億圓を起ゆるに至らんか、國富の增進急を要するの秋、此快聞を耳にす寔に國家の爲め慶賀の至りに堪へざるなり。

而して本月中に於て最も高價に賣行きたるは山梨縣矢島組金太の手百五拾圓にして、最も低價なりしは福島縣共同三馬折の九百七拾圓なりとす、今一月以來の高價を前年の夫れと比較對照すれば左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治三十九年		明治三十八年		價格之差
一月	愛知縣	河野製絲太	一〇九〇	愛媛縣三河製絲太	一〇五〇
二月	岐阜縣	兄弟社製絲	一〇九〇	島根縣東製絲太	一〇一〇
三月	京都府	島田製絲太	一一二〇	山梨縣矢島組太	九八〇
	愛知縣	共同製絲太	一一二〇		一四〇
四月	山梨縣	矢島組太	一一二〇	愛媛縣三重製絲太	九九〇
	埼玉縣	埼玉製絲太	一一二〇		一三〇
五月	愛知縣	國實社製絲	一〇八〇	埼玉縣埼玉製絲太	一〇一〇
					七〇

六月	愛知縣	國寶社新組	一、一〇〇	静岡縣	宮野製絲新組	一、〇二〇	八〇
七月	愛知縣 埼玉縣	源寶社組 廣瀬製絲組	一、〇八〇 一、〇〇〇	山梨縣	草薙社太	一、〇五五	二五
八月	山梨縣	矢島組太	一、〇九七半	愛知縣	三榮社組	一、一〇〇	二五〇
九月	静岡縣	川津生絲組 城南社組	一、一一五	山梨縣	矢島組太	一、一三〇	一五
十月	山梨縣	矢島組金太	一、一五〇	静岡縣	兄弟社太	一、〇八〇	七〇

今左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十九年十月（自一日至三十一日）生絲集散表

	持越	入荷	賣了	地方積戻	繰越
器械	一三、七〇九梱	二〇、二〇九梱	二四、〇五〇梱	六五九梱	九、二〇九梱
座繰	四、五六二	四、二四七半	五、一三一半	一四七	三、五三一
折返	一、五二〇	二、五一二	二、三七六	一五	一、六四一
雑絲	一二九	九八	—	三五	一九二
合計	一九、九二〇	二七、〇六六半	三一、五五七半	八五六	一四、五七三

備考

一、表中單位價は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査

三、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしに依る

四、繰越以外に商談中のものありと知るべし

五、賣了中米國に輸出せるものは一萬千三百五十一俵にして歐洲に輸出せるものは三千六百六十俵なりとす

但一俵は拾六貫目なり

尚左に生絲集散日別表を示すべし

明治三十九年十月（自一日至三十一日）生絲集散日別表

折返 +　座繰 ×　同細 〇　同中 △　器械太 □

日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	種別	最高直／最低直	摘要
一日	一、四一二俵	一六〇俵	一、一〇三俵	—俵	—俵	七俵	信濃／武藏	俊明社金／改伸社銀	〇／×	一、〇八五／一、〇二〇	染みたる商談なく前週より十圓乃至十五圓安なりき
二日	一、三三七	一、一七三	九六九半	—	—	四九半	信濃／岩代	天佑社／共同一馬	〇／+	一、〇七五／一、〇一〇	多少新規注文達したる向ありて市場活氣を呈したり
三日	一、〇八四	一、〇九九	七一〇半	一三	八六六	三	信濃／岩代	東行社／共同二馬	〇／+	一、〇七五／九九〇	前日の大賣行に續へて商ひ出來し相場も五圓方盛返せり
四日	八八六	一、四一六	七四八	五九	一、八四二	六	相模／岩代	川口製絲／共同三馬	〇／+	一、〇九〇／九七〇	三井物産會社を始め其他兩三館買進み多數の商ひ出來し相場も五圓方押上げたり
五日	七九〇	四四六半	八〇二	六四	—	一八	甲斐／信濃	大龍館上／得信優社	□／□	一、〇八〇／一、〇二五	手合高は多からされど相場は幾分か高直に出來せり
六日	六九四	五〇九	一、一五八	四六	七三八	九	美濃／信濃	白藤水社／金山社	〇／□	一、〇八五／一、〇二五	手堅く持合へるも一般に入電待ち風情にて新規手合薄し
七日	—	—	—	—	—	—	—			—	日曜日
八日		六二〇	八四四	三〇	一八九	二九	甲斐／信濃	矢島組金／小口組	△／□	一、一〇〇／一、〇二五	引續き兩三館へ商ひ出來し相場五圓方高直なりし
九日	二、二〇六	五四九	一、八八〇半	一三〇	—	—	信濃／岩代	俊明社金／共同三馬	〇／+	一、〇九〇／九八〇	前日同様保合にて當用口は弗々商ひ出來せり
十日	一、一〇七半	八〇九	一、〇五五	四四	—	六一半	羽後／岩代	角館／共同姉タルマ	□／+	一、〇九五／一、〇三〇	補充口へ弗々取入れありて相應の買氣を有し相場に變なし
十一日	八三一半	一、六〇九	一、〇五一半	六七	—	一五	信濃／仝	俊明社金／信府組	〇／□	一、〇九五／一、〇三五	座繰は太物を多數の手合あり相場も五圓方高直を告げたり
十二日	三七二	五九八半	八二九半	三八	—	八	甲斐／信濃	甲南社／博工社	〇／□	一、一〇〇／一、〇三〇	前日同様商ひ出來せざれど兩三館買氣を續け居り相場幾分高直なりき
十三日	一、〇九八	一、四六六	一、四六三半	九五	二、八八九	三七	甲斐／上野	矢島組金／碓水社金紅葉	□／×	一、一一〇／一、〇四〇	新注文達したる風情にて互に買進み多數の手合出來し相場約五圓方押上げたりし
十四日	—	—	—	—	—	—	—			—	日曜日
十五日	一、九七六	三〇三	一、一七二半	一八八	—	一八	甲斐／信濃	廣盛社／精業社	□／□	一、一〇〇／一、〇三五	當用口へ弗々商ひ出來し相場も品により何分か高直なりし
十六日	八八三半	七一五	一、三四三	六八	二、七四一	—	信濃／岩代	俊明社金／共同二馬	〇／+	一、一〇五／一、〇一〇	引續き一兩館へ商ひ出來し氣配は前日同様保合なりし
十七日	—	—	—	—	—	—	—			—	大祭日
十八日	一、九〇二	一、〇三八	一、二二三	七〇	—	七〇	遠江／岩代	天龍川社／共同一馬	〇／+	一、一一二／一、〇三〇半	續へて兩三館へ商ひ出來し相場も小堅く保合の成行なり
十九日	八八三半	一、六一四	八六九半	三九	—	—	三河／信濃	日登社／諸水製絲	〇／□	一、一〇〇／一、〇四〇	新注文達したる向にて多數の手合出來し相場は午後に至り五圓乃至十圓方高直を告げ一般に氣配手堅し

二十日	六九三半	二、四二九	七六三	—	一、〇一九	二五	信濃 全	松尾製絲 令組	□□	一、一一五 一、〇五五	相場はザラザラ高にて近來になき大手合なりし
廿一日	—	—	—	—	—	—	—	—		—	日曜日
廿二日	二、一四一	一、三六二	二、五八四	一一五	—	二六	周防 上野	岩國製絲 甘樂社黑字	×〇	一、一一五 一、〇三〇	米州向は一寸氣乘り薄の風情なれども絲倉社其他兩三館へ相應に商ひ出來相場も前日乃至十圓方高直なりし
廿三日	八三三	四八三	一、八五〇	三一	二、二一三	二〇	羽前 岩代	群山社 共同三馬	+〇	一、一一〇 一、〇〇〇	前日程の商ひ出來ず大體の氣配は先保合なりし
廿四日	六八七	一四六	六五九半	二七	—	三九	甲斐 岩代	廣盛社 共同二馬	+□	一、一二五 一、〇二〇	一時に相場の進みし爲めか本日は諸とも氣乘り薄にて捗々しき商ひ出來せざりし
廿五日	七一一半	五四六	二、〇〇七	三四	—	五一	上野 同	甘樂社揚手 同黑字	×□	一、一二五 一、〇四〇	折返し絲の商ひ出來せし外は目星しき取組なく前日同樣の成行なりし
廿六日	九四五半	四八三	一、五九三	二三	—	一四一	伊豆 岩代	正木製絲 共同二馬	+〇	一、一一五 一、〇三五	上州座繰其他注文口へ商ひ出來し氣配は先づ手堅く保合なりし
廿七日	一、一二五半	三四七	一、一七八	一九	一、七六六	二〇	甲斐 岩代	甲盛社 共同一馬	+□	一、一三〇 一、〇五〇	前日同樣變りなく當用口へ夫々賣行ありし
廿八日	—	—	—	—	—	—	—	—		—	日曜日
廿九日	三三四	二、一五一	八〇一	一九	—	三六	信濃 上野	天佑社 下仁田社金字	×〇	一、一二〇 一、〇五〇	直輸筋は米向新注文逢したると見へ多數の商ひ出來し座繰及折返絲は前直より五圓方高直を示したり
三十日	一、〇二六半	八〇二	一、九〇四半	一二三	二、〇二〇	九六	甲斐 岩代	矢島組金 共同三馬	+□	一、一五〇 一、〇二〇	相場は五圓方高めたるも大勢は變りなく保合の成行なりし
卅一日	一、一四六半	一、四七一半	九九四半	八三	一、七二八	七一	信濃 岩代	使明社金 福馬製絲金	□〇	一、一三〇 一、〇七〇	又々新注文逢したると見へ太篙座繰大多數の取組出來し相場も更に五七圓方高直を告げ一ト際引締りたり
合計	二七、〇六六半	二四、四四五半	三一、五五七半	一、四二五	一八、〇一一	八五六					

尙左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明らかならしめん爲め月別表を示すべし。

生絲集散前年對照表

年月日	持越	入荷	賣了	發戻	繰越	輸出 數量	輸出 價額
三十九年一月	三四、九五五半	七、六一二半	一四、六二六半	一、二一二半	二六、七二七半	七九一、〇二二斤	七、八〇三、〇二〇圓
三十九年二月	二八、二二四	二、九六三	一四、七五四半	二、一〇七	一三、七〇一半	七五〇、六二二	七、三四三、七三七
三十九年三月	一三、七〇一半	五、四九五	九、五八三	一、九〇一	七、七一一半	七九五、七八七	八、二九四、九〇三
三十九年四月	六、四一五	七、一六三	四、三九六半	六九四半	八、四八七半	三七一、四三七	三、七〇八、八六七
三十九年五月	七、〇九二	五、〇六四	七、二一一半	一、五三五半	三、四〇九	四四四、八五五	四、五三四、五八七
三十九年六月	二、六九八	五、六〇五	二、八〇一半	一、〇九一半	四、四一一	二一〇、八三六	二、一九〇、七一四
三十九年七月	三、八八六	一九、五一八半	一三、一三九半	五七六半	九、六八九	六六四、〇二五	六、八一七、〇六二
三十九年八月	九、五〇四半	二五、〇二二半	二〇、〇六六半	三四六	一四、一一三	一、一八六、八九六	一二、三三六、四四六
三十九年九月	一五、七五九半	一九、四五三	一八、一一九半	二六五	一六、八二七半	九九八、三三五	一〇、四三二、六六六
三十九年十月	一九、九二〇	二七、〇六六	三一、五五七半	八五六	一四、五七三	一、八一六、六九四	一九、四一七、七七三
計	—	一二六、九六二半	一三六、二五六半	一〇五、八四五	—	六、八五二、九一五	八二、八七九、七七五
三十八年同上	—	一一五、二二六半	九四、八二六	八、三六四	—	五、七〇〇、一〇〇	五六、六八三、九〇一

里昂市場 (九月十五日發)

米國が最近數十年來占有し來れる重要の位置は、近來に至り大に其價値を落したるやの感あり。

元來該國の市場は其機業家の膨脹に從ひて、一時は非常の發達を示し、世界各生絲市場の指導者を以て目せられ、相場の高下共紐育市場より出て全世界の市場に方針を示し、延ひて其餘響は直接に橫濱市場に及ぼし其餘波は常に米蘭市場に影響するを常とせり。

然るに近來は紐育の市場も漸く其重威の勢力を失ひ、稍第二位に下れるの如き觀あり、左れば歐州の各地市場も今は紐育の市況に對しては重きを置かずして、各自歐洲の市場の形勢を專ら注意するに至れり、斯は生絲世界一般の爲めに寧ろ祝すべきことならずや、如何となれば紐育市場に於るが如き、突飛の激増は最早生絲の市價に見ることを絕つべき理由のあればなり。

總て當歐洲市場の目下の市況は、歐洲生絲を始め東歐乃至日支の蠶絲共に相變らず、其在荷高拂底を告る有樣なり。

伊太里にては製造注文に客筋の爲と本年末迄に作業者の爲に、製絲する製絲家多數あるが故に、是又市場への出荷は小數に止れる姿なり。

佛國に於る撚絲の製造は河水涸渇し、爲に撚製不自由にして自然產額に減小を來たし、市中の在荷高も拂底の方なり、又東歐の生絲は入荷每に漸く賣行きて需要さる、亞細亞生絲は賣人の強氣なる上に爲替高直なるが爲に、旁取引大に澁滯の姿なり。

馬港國の市場は底堂手堅く取引も相應にあり。

亞細亞生絲は今週特に市場不振にして、相場墜貿せし上に、爲替相場上進せし爲に、旁手合も圓滑を欠く處ありたり。

日本生絲は賣人高直を唱へ、手堅く持堪ゆるより賣買容易ならず、僅の差違にて賣人買人間に破談を生したるを見たり。

又同地駐在山田領事よりの電報左の如し。

生絲相場一般に昇騰五十二乃至五十二法中(十月二十日着電)

生絲商況は活動本邦絲も好況相場依然手堅し羽二重商況活氣なきも氣配強し

〔十月二十九日發電〕

生絲商況は福業の好況に伴ひ次に騰貴あるに加ふるに投機取引あり一層活氣を示せり殊に本邦絲は夫に區別せらるゝと同時に相場昇騰日本機械絲一番中九乃至十一フランを〔十四乃至十四半〕物五十四乃至五十四半〔十一月九日發電〕

紐育市場

紐育に於ける生絲市況に就き在同地總領事館事務代理領事補水井氏よりの電報左の如し。

生絲市況依然手堅く著荷次第實需に移り本日機械一番四弗三九仙見當〔十月十七日發電〕

生絲市況は引續き好況にて相場上向き、器械一番四弗四十七仙より五十五仙見當〔十月廿四日發電〕

生絲市況依然活潑當事期機物實行の好況根強在荷の移送支部絲の需供なと一層本邦絲の需請なるものゝ如し機械一番四弗五十仙より五十五仙見候好く出荷多し〔十月一日發電〕

機屋買進み生絲市況活潑機械一番四弗七十二仙氣配強し〔十月九日〕

生絲市況堅調物取引相應、現物拂底相場手堅し機械一番四弗二十七仙より三十五仙〔十月十日〕

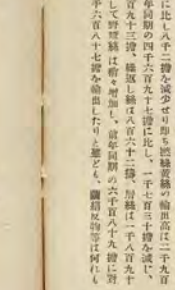
上海市場

上海發國領事の報告に曰く、本年四月より六月に亘る上海第二期間の貿易品中にて、輸出蠶絲及び製品類は著しき不況なる甚し其輸出總高は二萬七千二十六擔にして、前年同期に比し八千三擔を減少せり想ふ所高は二千九百六十七擔にして、前年同期の四千六百九十七擔に比し、一千七百十三擔を減じ、其他機械絲は二千九百九十三擔、繰返し絲は八百六十二擔、屑絲は一千八百九十四擔を減少せり、而して野蠶絲は稍々增加し、前年同期の六千百八十九擔に對し、當期に於ては六千六百八十七擔を輸出したりと雖ども、鑛物及物等は何れも減少を示さゞるはなし、即ち其輸出失國別表は左の如し。

	三十八年自四月至六月	三十九年同上
巴絲及絹製品	四、六九七	二、九六七
二ツ繭絲	五、一九九	二、二〇六
機械絲	三、三九一	二、四二九
繰返絲	六、一八九	六、六八七
屑絲	一、八八〇	八五四
野蠶絲	一四〇	五一一
繭	二一二	三〇
蛹	一九三	七九六
絹反物	四、九三一	四、一四四
精麻	八、九九六	七、一〇二
屑麻		

ポイング

名聲と最早は現遇より起らず勢く次の項分を要せば名聲は穩て其中に在り



滿洲の養蠶業

通信委員 小田宗孝

在清國山東省住吉氏が東京蠶業講習所より寄贈蠶種の下附を受けて飼育し其成績を本多同所長に寄報ありたるものを本誌第百七十一號及第百七十三號に掲載し讀者の參考に供する所為ありしが新に滿洲東州民政署にて今春東京蠶業講習所より寄贈蠶の寄附を受けたる由にて小田通信委員より本會宛左の報導ありたるを其儘掲げて讀者の參考に供するこゝはなしか

關東州民政署は本年春期に於て東京蠶業講習所より寄贈せられたる一化性蠶種を五月四日に撥立て飼業の際とて極めて不完全なる設備の下に飼育したり即ち蠶具なきを以て最初は新聞紙を用ゆ壯蠶に至て蔟(絲綿)を廣げ之れに蠶兒を收容したるが固より又蠶室の設けとても別に有るに非ざれば例の西洋造なる農事試驗場宿舍の一隅に於て飼育し其飼育者の如きも亦た實に經驗なき素人其任に當れり而して室内溫度は更に火力を用ゆることなく所謂清涼育とも云ふべきに至て粗末なる放任飼育なりしにも拘はらず經過頗る宜しく飼育中は一頭の病蠶だも見ざる位にして六月十七日桑苗上簇したり成繭の品質亦た稍良好なりし

桑葉は當治時代に經營せる西公園(俗に虎公園と云ふ)内に點々散在せる喬木仕立の桑葉を以て飼育の料に供したり。其收繭は一部分は製年の飼育用として製種に供し、他の一部は標本として民政署に備付け、他の一部は製絲試驗の爲め東京蠶業講習所に之を依頼せり。

更に「滿洲は降雨至て少なく、晴天多く、最も大切なる養蠶期は寒乾燥に過ぐる位なれば蠶業に好適の地なるやに思はるゝ乎去現今桑樹の澤山あるにあらざれば、假に養蠶を經營するが如きは不可能に屬するは勿論なるも、着々桑園の設備をなして模範を示し、漸次發揚、保護の道を講じ發展の策を取らんには將來益有利有望の業となり、一面國人が貧弱なる殖風を矯正するの一手段となり又他の一面に於て富源を開くの一端ともならん。

而して滿洲の蛆害に就て之れを述べんに本年夏期に於ても春期同樣西ケ原東京蠶業講習所の寄贈に係る蠶種を六月二十七日に撥立て春蠶同樣の設備の下に飼育し、其經過頗る良好大に望みを屬せり上簇は七月廿一日なりしと云ふ然るに壯蠶期に至り南滿洲の名物と聞きつる寄生蠅の被害甚しく上簇結繭したるものも蔟中に於て續々出蛆し(蠶體に鏇産卵し上簇後四五日より續々出づるなり)爲めに不結果に終りたり、其被害の割合は總收繭一斗四升餘の内、上繭二升、中繭八升、多數は蛆害に罹り穴明きとなりたるものと其少許の薄皮繭とを

誤入す）層繭三升玉繭一升にして、内一升は製種用に供し他の一升は機本となせり。

内地に於ける蚕害は、尤も試驗的として良法なきに於ては、其良法なきが如し、尤も試驗的として良法なきにあらざるも、其實際普通一般當業者の出來得る實用的としては良方法たるを知らざるなり。

春蠶には稀に見る所のものにして、夏蠶に類する多きは、恰も夏期は彼等の產卵期に相當せるが爲めならん、然れども夏蠶は現下の所望みなきが如し。

將來斯業に從事するものゝ大に注意を要する處なり。

之に依て見れば當滿洲に於ける養蠶は春秋蠶は蚕害を受くること少かるべきを以て（尤も秋蠶は本年に於ては試育せずと雖ども）春、秋の二期に之れが飼育を爲して十二分の見込みあらんも夏蠶は現下の所望みなきが如し。

千九百五年度の露西亞に於ける生絲の輸入及消費高

在モスコー佛國總領事「ローラン、ヨシユレー」氏の報告に據るに、千九百五年度に於ける露西亞の生絲輸入額は、其前年度に比して二萬六千二百五十五基を增加し、消費高は反つて五萬〇六百四十五基を減ぜり。

由是觀之露國に於ける客年の擾亂は思ひし程の影響を生絲貿易に與へざりしが如し。

左に最近二年間の輸入高及消費高を示すべし。

輸入高

	一九〇五年	一九〇四年
生絲	七六、九、九〇〇	六四〇、四七六
紬紡糸	二二、三〇〇	三二五、九七一
繭	三、三〇〇	四、九一四
絲	二四、六〇〇	二九、四九四
染絲	一九〇五年	一九〇四年
消費高	一八〇、二九〇	二四五、七〇〇
甲加索絲の消費高	九、九〇〇	二一、三〇〇
土耳其所產絲の消費高「アダナ」「キプロス」及「トレビゾンド」カーシス絲の消費高	一、〇二七、一〇〇	一、〇〇〇、八四五
輸入絲の消費高	一、二二七、二〇〇	一、二六七、八四五
合計		

千九百五年間に於て新に創立したる米國織物工場

米國紐織物工場は客年の下半期に至て多少の恐慌を來したるも、而かも米國に於ては依然として工場の發達を見た、夫れも其筈である、米國に於ては歐洲大陸の人の如き若干つて居らぬ、米國にては「雨天の後は晴天なり」と云へる金言を墨守し、事物此の金言に國て事の處を處るのである、惡日あれば決して失望することなく、反て其惡日を利用して他日幸福の日の來るを待つのである。

米國の際しては分かり利益を享受するを以て人口益々增加するに從て、人の增加するに從て、衣服も益々驕奢に流るゝが爲めに、人口益々增加するに從て、紐織の需要は日々に增加し、紐織物工場は月々に發達するのである、米國に於

て、假令一時消費高を減少することあるも、忽ちにして再び其高を增加して、以前より以上の需要を見るに至ることある。

故に數年間を通じて發達の跡を顧みれば恰も階段不同の伸びる段を登るが如く、或る時は狹く登ることあるも、或る時は非常に廣く登りて終に頂上に達するが如き觀がある、然れども階段を登るときは悠然として敢て無心らず、次に來るべき廣き階段を登る爲めに力を養ふのである、乞ふ左の事實に就て此の言の虛ならざるを知れ。

千九百五年中に米國に於ては五十三の新たなる紐織物工場及び「リボン」製造所が設立せられた、其内大部分は紐織物工場にして、二十個は「ニユー、ゼルシー」に、十七個は「ペンシルヴァニア」に、五個は「コンネクチクト」に、五個は「ニユー、ヨーク」州に、一個は「マサチセット」に、二個は「ロード、アイランド」に、一個は「デラワレ」に、及一個は「ジヨールジー」に設立せられたのである。

更に前三年前に遡つて見るに、千九百四年中には四十九工場、千九百三年中には四十五工場、千九百二年中には四十三工場が新たに設立せられた、余の前言の虛ならざること推して知るべきではないか。

會務錄事

大分支會役員の就任

大分支會長は久しく缺員の處今回同縣知事なる千葉氏を推し本會之が認可を爲し、幹事長には高野氏當選したり。

大分支會長　千葉　貞幹　　幹事長　高野　文彌

下野支會品評會

大日本蠶絲會下野支會第七回品評會褒賞授與式は天高く氣清く秋風颯々たる好時季十月二十二日を以て小山小學校内に開かれたり、今其概況を揭げんに、午前九時三十分本會々頭松平男爵には加藤書記を隨ひ小山驛に着せらる、此時煙火轟々沖天に轟きけるが、會頭には暫時角屋旅館に休憩せられ午前十時縣高等官支會役員等の出迎に依り、腕車を列ねて式場に臨せる、沿道各戸には旭旗を揭げ式場門前には大綠門を設け日章旗を交叉し、會會場には萬國々旗を吊るすなど體裁頗る整へり、聽て定刻に至るや第一號鐘にて出品人、第二號

鐘にて來賓一同着席し、第三號鐘にて松平會頭臨場せられ木下支會長の舉式申請に尋て、井上審査長の申告、次に褒賞授與の式あり、夫れより會頭の式辭、知事代理の祝演、田村縣農會副會長、下都賀郡長、田村郡農會長、春日小學校長等の祝辭あり、終りに受賞者惣代高橋正氏の答辭ありて式を閉ず、來賓幷に出品人に折詰等を頒ちて小憩す、此間來賓出品人等は陳列場、教育品展覽會、町内有志の催に係る書畫盆栽生花等の陳列場等各自隨意に縱覽せられたり、而して松平會頭には小憩の後蠶絲上に關する有益なる講話をせられ、全く散會を告げしは午後五時なりし。

申　請

大日本蠶絲會下野支會第七回品評會を開催せらるゝに當り不肖審査長の重任を負ひ熱誠なる審査委員諸氏の補佐に依り玆に其審査の終了を告げたるは深く光榮とする處なり

今回の出品區域は一道一府十四縣に亘り其總點數は三百六十三點にして蠶種一百二十四點繭二百十五點生絲二十四點なり之を前回に比すれば總點數に於て三十點の増加を示せり而して其出品物は概ね品質優良なるは寔に喜ぶべきの現象なりとす

蠶種の出品は從來製絲用種其大部を止めたりしに證取に於て原種用種の多きを見るは根本的無毒蠶種の改良を期待する當業者の意嚮を察知するに足る出品中に外觀を飾らんとして糊を用ゐ卵粒を塡補ぜるもののあるは實に遺憾とする處なり

繭にありては形狀色澤共に良好なるもの多く特に前回其缺點として指摘したる乾燥貯藏の如きも稍々完全に行はるゝに至りたるを以て解舒亦佳良なりしは著しく進歩の跡を認むるを得べし然れども名稱の雜多なるが爲めに形狀の齊一を缺けるは改良上尚ほ一層の注意を要する處なり

生絲は品質優良なるもの多し前回に於ては「アトロ」の差一綛中「八、〇」乃至「二四、〇」を示したるものありしに今回に於ては多きも「二、五」に過ぎずして殆んど齊一なるを得たるは殊に喜ぶべき現象なりとす然れども纇節の較々多かりしは繰絲改良上着眼すべきの點ありとす

審査成績の概要前述の如し而して審査委員諸士と最も嚴正に最も精細に考覈し優品蠶種六十二點繭一百點生絲二十三點を撰拔して賞を擬す希くは褒賞授與あらんことを

明治三十九年十月二十二日

大日本蠶絲會下野支會第七回品評會
審査委員長　井　上　伍　鹿

式　辭

大日本蠶絲會下野支會は本日を卜して第七回品評會褒賞授與の式典を舉行す斯業の爲め慶賀の至りに堪へざるなり惟ふに貿易の振興は戰後の經營に於て頗る緊要の問題に屬せり而て輸出品の首腦たる蠶絲業の改善發達は實に緊顯の急務となす而して之れが改善發達の策一にして足らずと雖も當業者各自の生産品を一堂に蒐めて互に其技を鬪はし其優劣を判し以て他の長所を取て自己の短所を補ふに如かず是れ即ち各地に品評會又は共進會等の開催せらるゝ所以なりとす當支會與に玆に見るあり去三十三年以降毎歳品評會を開催し來りて會を重ぬること七回一回は一回よりも進歩の跡歴然たるものあり殊に今回に於ける成蹟顯著にして其總出品點數三百四十又九點中受賞の榮を擔へたるもの一百八十有五點の多きに達せりと云ふ洵に是れ會員諸氏が銳意奮勵の致す所ならずんばあらず然れども本縣蠶絲は斯業擴張の餘地十二分に存し又殺蛹養蠶製絲の方法に於て其經營と技術とに改良を加ふれば收利を増進するの餘裕綽々たるものあり冀くは諸子一層の熱心を以て斯業の泉源を涵養し根帶に肥培し其産額を倍蓰して國力の充實に資せられんことを一言以て式辭となす

明治三十九年十月二十三日

大日本蠶絲會々頭　正三位勳一等男爵　松　平　正　直

審査員氏名

審査委員長　井上伍鹿　　審査委員　碓井要作
審査委員　田村清吉　　同　大橋庸太郎

審査委員　荒槇善太郎
同　井面清藏
同　永島禮七
同　薄井作十郎
同　服部昌松
同　鈴木今四郎
審査委員　遠地貞三
同　野澤實吉
同　荒井林次郎
同　宮澤傳次郎
同　菅野勇吉
同　日高慶藏

受賞者氏名

蠶種一等賞
埼玉縣　根本秀作

繭一等賞
群馬縣　松井邦治
栃木縣　篠崎與吉

生絲一等賞
栃木縣　薄井作十郎

蠶種二等賞
栃木縣　古澤恒
同　武井國太郎
長野縣　上田幸次郎
山梨縣　鈴木常吉

繭二等賞
福島縣　安田甲子太郎
同　高橋喜次郎
栃木縣　高橋正
同　服部昌松
同　澤田寅三郎

生絲二等賞
茨城縣　結城製絲合資會社

蠶種三等賞
埼玉縣　樋木丹楊
熊本縣　右田義衛
滋賀縣　前川猪兵衛
群馬縣　松井邦治
同　野村要藏
栃木縣　磯井要作
同　大橋代藏
同　荒槇善兵衛
同　田村清吉
群馬縣　佐谷幸三郎
長野縣　松田又吉
山梨縣　凱誠館
宮城縣　八巻雄三郎

繭三等賞
群馬縣　岩下忠七
福島縣　石幡吉之助
山形縣　典玉社
岩手縣　梅津善次郎
栃木縣　關口治三郎
同　野澤一郎
山梨縣　凱誠館
宮城縣　八巻雄三郎
栃木縣　大出鳥吉
栃木縣　增淵熊太郎
同　高松養蠶組合
同　荒川龜吉
福島縣　石幡吉四郎
同　松本治作
茨城縣　栗原龜吉
滋賀縣　中村治輔
栃木縣　新井幾太郎
同　富田常太郎
同　遠水喜八郎
同　篠原善四郎

生絲三等賞
栃木縣　鈴木金四郎
同　須藤善次郎
同　五十畑寅吉
同　新井元之助
同　都賀社

蠶種四等賞
栃木縣　野澤龜吉
熊本縣　弘盛社
群馬縣　代田代藏
愛知縣　村田信治
北海道　五十嵐庄作
群馬縣　清水恒太郎
福島縣　高田子之吉
栃木縣　金子金次郎
同　腰野富藏
同　澤田惣一郎
同　大橋清四郎
栃木縣　五十畑嘉吉郎
同　青木伴三郎
同　青木勘三
同　渡邊彦四郎
同　荒槇角太郎
同　小林常三郎
同　松本寅吉
同　小川庄衛
同　印出井七右衛門
同　猪野三郎右衛門
同　福田小三郎
同　福田覺太郎
同　小野寺長十郎
同　金澤久次郎
同　內田寅右衛門
同　前澤清兵衛
同　遠水善三郎
長野縣　河西秋田
同　松田惣左衛門
同　原忠三郎
同　金子本兵衛
同　小池伊市郎
同　五味竹三郎
同　田中増七
同　藤森知惠藏
同　岡村官次
栃木縣　永島禮七
同　大橋時次郎
同　篠原金吾
長野縣　原彌五郎

栃木縣　渡井常五郎
長野縣　岩波喜兵衛

繭四等賞

福島縣　遠藤金三郎
同　菅野宇兵衛
栃木縣　野澤多吉
同　玉造重一郎
同　小森吉三郎
同　渡邊常作
同　高橋美之
同　高橋餘郎
同　武井清四郎
同　倉井常之丞
同　金田安之丞
同　神山原次
同　青木粂次郎
同　小島清十郎
群馬縣　塚田平入郎
栃木縣　中島梯吉
同　新樂喜代五郎
群馬郡　佐谷孝三郎
同　代田武藏
埼玉縣　三井ナカ
栃木縣　嶺澤政平
同　仁平凱藏
同　黒須陶一郎
同　郷間倉次
同　神山茂入
同　小浦幾太郎

埼玉縣　三井慶次郎
栃木縣　篠原久一郎
同　島田新入
長野縣　岡村官次
栃木縣　篠崎靈次
同　石崎傳一郎
宮城縣　山本丈吉
同　野地嘉吉
栃木縣　小倉方七
同　伊澤長重
同　柳田源三郎
同　福島興平
同　大川幸吉
同　宮木力治
同　荒川新一郎
同　古川勘次郎
同　松森總吉
同　篠原タヶ
同　江田多吉
同　小倉新太郎
同　増山半三郎
山梨縣　福田又左衛門
群馬縣　塚田倉次郎
栃木縣　野澤與三郎
同　野澤イチ
同　増淵靜藏
同　田村捉藏
同　小平重太
同　増田忠次
同　松本福太郎

栃木縣　野澤佐一
同　關市三郎
同　寺島寛次郎
同　松本秀五郎
同　前原眞吉
同　野澤キイ
同　吉見伸三郎
同　茂田井重作
同　小林要作
同　春山國五郎
同　須藤守一
同　遠水幾松

生絲四等賞

群馬縣　下仁田水上組合

福島縣　大竹五入
新潟縣　山田巳太郎
栃木縣　大橋篤三郎
山梨縣　三井滿吉
栃木縣　舶尾製絲所
同　一色安次
同　岡本重吉
同　久保田佐十郎
同　大橋清吉
茨城縣　栗原重吉
栃木縣　岡部豊吉
同　阿久津金次郎
同　杉田喜平
同　石崎米吉
同　松本萬次

會頭及學藝委員の出張（承前）

若松市の歡迎

十月二日　一行山形を發し郡山に至れば、福島より安達技師若松より松本市長共に迎へて同乘せらる、若松驛に着すれば小松北會津郡長、松川市助役、前田市會議長、下山工業學校長其他銀行役員有志者等多數の歡迎を受け、共に腕車を連ねて同地方に有名なる温泉場東山新瀧樓に投ず、是より先き生絲檢査所技師足立元太郎氏本會學藝委員として出張、前日横濱より當地に來り此に相會す、此夜前記出迎の諸氏其他有志者二十餘名、車軸を流す如き降雨を衝て東山に參集し、會頭の爲に歡迎の宴を開かる、前田市會議長は起て會頭遠來の勞を謝し、一席の講演を聽かんことを請ふ、會頭即ち起て簡單なる演說あり、愉快談時を移して散會したるは午後十時頃なりし。

三日午前東山出發二村校長の案内に依りて若松工業學校を參觀し、次て高瀬喜右衞門氏の漆器陳列場の巡覽あり、九時發列車にて喜多方に向ふ、内田總領事、松田農商務技師同列車にあり、内田氏は福島支會の總會に臨まんが爲め外務省より出張し、松田技師又本會學藝委員として同く來れるなり、喜多方に着せば平岡福島縣知事其他縣下各郡長有志者數十名「プラットホーム」に迎へられ、當地の製絲家にして且羽二重機を業とせる矢部善兵衞氏の邸に着す。

福島支會總會

午前十一時開會是より先き支會商議員會を開き、前支會長育田義資、幹事長菊地武一の兩氏轉任後欠員たりしを以て、今回其補欠選擧を爲し、支會長に現知事平岡定太郎氏、幹事長に第一部長西村陸奥夫氏を推薦し、兩氏又承諾せられたり此に於て平岡知事は安達幹事の紹介によりて登檀し、支部長當選の挨拶及松平會頭並に内田總領事臨席の謝辭を述べ、且今後就任の上は本會の趣旨に從ひ會員諸君と共に一致協力本會の爲に盡瘁すべしと陳べて壇を下らる、安達幹事は三十八年度の會務及會計報告を爲し、畢て同幹事の紹介にて會頭は演壇に登り、蠶絲會は何故に擴張せざるべからざるや、大日本蠶絲會は如何なる働きを爲すや、又如何なる抱負を有するやの點に就き約一時間の演說をせらる、終て來賓に午餐を供し暫時休憩の後、左の演題にて順次講演あり。

蠶絲業に於ける希望　　松田昌德
平和の戰爭と蠶絲業　　農學士　足立元太郎
伊佛の栽桑業　　峰村喜藏
紐育生絲市場　　總領事　内田定槌

第一席松田氏は現今蠶絲業上に於ける急務として希望する所は桑園の改良及上蔟の注意なりとし、夏秋蠶の擴張に伴ひ桑葉に對する施肥の不足を訴へ、上蔟中の不注意多くして折角飼育せる蠶兒に良繭を營ましめざるは九仞の功を一簣に欠ぐものなりとて其取扱及心得方を熱心に演べられたり、次て足立氏は生絲は戰爭に於ける軍器なり、生絲善良にして組織完全ならざれば、平和の戰爭場裏に於て伊佛清國と輸贏を決し勝利を得る能はずとて、生絲の改良と共同の必要を述べ共間に滑稽を交へて聽者の頤を解かしめ、製絲家の最も有益なる演說をせらる、次に峰村氏は四年間に於ける伊佛蠶絲業研究の土産話として、伊佛に於ける蠶業地の位置地勢及氣候を述べて本邦のそれに比較し、次て伊佛桑樹の種類、栽桑の狀況、桑苗木の採取法、桑樹の仕立法、桑樹の病害等彼地に於ける栽桑上に關する調査を述べ活氣ある雄辯は大に聽者をして滿足せしめられたり、最後に内田氏は米國に於ける日本生絲の位置よりして生絲の用途を詳述し、生絲の先賣約束を爲すは製絲業の安全を圖るに於て唯一の要訣なりとて先物約定の必要を述べ、轉じて米國に於ける經濟界の振否は全く農作物の豐凶に依る所以を說きて注意を與へられたり氏は明治二十九年以來海外に在り、就中我蠶絲の大需要地たる米國紐育に在勤すること八年、頗る生絲市場の狀況に通曉するものあるを以て、此演說は當業者を裨益する所多かりしならん、此日來會者無慮一千五百餘名、滿場立錐の餘地なく遲れて來る者は入場を得ざるの狀況にして、實業に關する集會としては同地方未曾有の盛會なりしと云ふ。

此夜平岡知事、武井耶麻郡長、原喜多方町長等の發起にて一行に對して慰勞の讌を開かる、平岡知事起て開會の挨拶をなし、松平會頭之に對する謝辭を述べらる、席に列する者百

四十餘名類る盛會なりし。

翌四日午前會頭一行は知事以下に迎られて喜多方驛を出發し、郡役所常設委員君が至る所に於て歡迎せられ、種々斡旋の勞を執られたるは深く一行の感謝する所にして、又各集會が共に盛大圓滿に結了を告げ會務の旺盛に趨くを目睹するを得たるは本會の最も滿足を表する所なり。(完)

會員動靜

○特別會員

福島縣　平岡定太郎　福島支會

○通常會員

入會者　紹介者

東京府　內務省圖書課　直接入會

宮城縣　近藤正善　新井孝太郎

加藤貞作　綾方清

武田由五郎　谷澤嘉助

平野延太郎

森屏之丞

諸江寫吉　島田久次郎

京都府　足立堅太郎　京都支會

飯見金兵衛

脇河常吉

小田熊蔵

吉田孝太郎

田淵嘉市

足立藤太郎

澤田稔蔵

入會者　紹介者

京都　杉本庫太郎　京都支會

舟上勘次郎

市原和三郎

麻田一夫

太田源次郎

中西會之助

加舍魯太郎

中西千賀造

尾地富三郎

勝田藤吉

小林國太郎

上田市之助

田中孫三郎

芳賀太郎　佐藤孝一

飯野重兵衛

澤頭造

高橋平八

齋藤松佐藤長太郎

伊藤金七　菊地助松

上原榮太郎

千葉縣　鈴木政治　町田彦太郎

村越東海雄

鈴木喜十郎

須賀正

茨城縣　宇都野喜三郎　日下部安次郎

國東寅之助

三輪了平　立花鑑

村上譲　茨城地方常員部

原田明誠

佐野叔三郎

野太郎

大平金作　直接入會

五郎八　岡本芳男

小野寺義鉉

中川武郎　駒田太市郎

三重縣　河村勘太郎　河北石松

長谷川信次

松原松三郎

木本恒五郎

西浦芳之助

西原善兵衛

酒井彌五郎　河北石松

堀平治郎

群馬縣　荻原太郎　佐藤孝一

飯野重兵衛

澤頭造

高橋平八

齋藤松佐藤長太郎

伊藤金七　菊地助松

上原榮太郎

千葉縣　鈴木政治　町田彦太郎

村越東海雄

鈴木喜十郎

須賀正

茨城縣　宇都野喜三郎　日下部安次郎

國東寅之助

三輪了平　立花鑑

村上譲　茨城地方常員部

原田明誠

佐野叔三郎

野太郎

大平金作　直接入會

五郎八　岡本芳男

小野寺義鉉

中川武郎　駒田太市郎

三重縣　河村勘太郎　河北石松

長谷川信次

松原松三郎

木本恒五郎

西浦芳之助

西原善兵衛

酒井彌五郎　河北石松

堀平治郎

愛知縣　山田雄三　矢興六

村田製絲合名會社　直接入會

稲垣庫三郎

清水磯治郎

兵藤宇吉

山本太平　鈴木庄太郎

岸本八重太郎　小林二市

山梨縣　橋本治助

降矢信近　中島菊平

金井登作

神座乃武　廣瀬貞平

大村榮太郎

古屋忠平

長野縣　川上張次郎　藤澤嘉次郎

新村義秀

大島源造

石原邦蔵

田中誠一郎

土屋平作

武川音蔵

波邊雄五郎　田中種吉

田中高甫

前島軍太郎　山梨支會

大森英太郎

土屋保蔵

梅宮寛吉　木寛

武藤久藤代永正平

清水政信　中島樵道

伊藤千代太郎

山梨縣　三枝慶作　山口清次郎

石原修次　中村愛知

古屋例吉

諏訪利十郎　川合菊次郎

中澤清記　金太郎

藤原利八　鈴木勢次郎

志村正一

川崎太造　大村左一

岐阜縣　秀雄　町田治助

佐藤水鈴一　直接入會

新村義秀

大島源造

石原邦蔵

田中誠一郎

土屋平作

武川音蔵

波邊雄五郎　田中種吉

田中高甫

前島軍太郎　山梨支會

大森英太郎

土屋保蔵

梅宮寛吉　木寛

武藤久藤代永正平

清水政信　中島樵道

伊藤千代太郎

群馬縣　臼井女子實業補習學校　同

壹岐學堂小學校　高村小文治

外所輝雄

林貞一郎

松原寅吉

星野勝作

藤井德次郎

石塚庄三郎　直接入會

窪樋信好

入江誠一郎

須賀純一

高野操作

猪鼻喜代七

新田鎌太郎

林才作

板本等常高等小學校　同

清水利三郎

岡田英雄

下田平捷

神田重治　山藤岡新太郎

神田喜久一

大谷實代三郎　藤岡大治郎

針谷才一郎

藤越學一郎

金澤治作

藤越源蔵

鍵島勝八

藤越保太郎

群馬縣　臼井女子實業補習學校　同

壹岐學堂小學校　高村小文治

外所輝雄

林貞一郎

松原寅吉

星野勝作

藤井德次郎

石塚庄三郎　直接入會

窪樋信好

入江誠一郎

須賀純一

高野操作

猪鼻喜代七

新田鎌太郎

林才作

板本等常高等小學校　同

清水利三郎

岡田英雄

下田平捷

神田重治　山藤岡新太郎

神田喜久一

大谷實代三郎　藤岡大治郎

針谷才一郎

藤越學一郎

金澤治作

藤越源蔵

鍵島勝八

藤越保太郎

福島縣　田中作太郎　福島支會
同　太郎　同
同　吉田佐九七　同
同　芳賀武吉　同
同　芳賀金四郎　同
同　書藤清作　同
同　伊藤喜三郎　同
同　脇屋隆吉　同
同　西村陽吳夫　同
同　佐藤庄太郎　高橋穂橋
同　渡邊吉之介　同
同　新岡長次　直接入會
宮城縣　小笠原錦藏　同
山形縣　佐藤清次郎　同
同　宮部忠助　山形支會
同　鈴木將吉　直接入會
同　島倉昌吉　伊藤延太郎
同　渡邊忠蔵　同
同　菊池重蔵　同
同　大武忠吉　同
同　相澤伊勢三　同
同　濱田禮蔵　同
同　佐藤深次郎　同
同　佐藤一　同
同　安部榮太郎　同
同　神保清之助　山川金三郎
同　瀧口源吉　戸野泰治
同　遠藤清太郎　村形良次郎
秋田縣　土田庄作　木村瓦讓
秋田縣　佐藤榮太　木村瓦讓
同　富木庄助　横木健造
同　弘山植木定靜
同　土佐常政　直接入會
同　安田大林直　直接入會
同　都田久次郎　松本勘
同　高橋俊夫　直接入會
同　二郎高橋俊夫
同　白井清　同
同　宛川忠治　同
同　坂本覺市　同
同　石金吉太郎　大谷彦一郎
同　島友太郎　東田淺二郎
同　小川清一郎　小川淺一
同　佐藤喜市　同
同　土屋久次郎　同
同　鷲取宏蔵　中込孫馬
同　南島藤　牧山類助　直接入會
同　山口藤　松田タマ　山口支會
同　真弘彌四郎　同
同　濱田勝次郎　同
同　時高キヨ　同
同　綱木幸次郎　同
同　伊藤物雅　同
同　東條秀之助　同
同　鈴木清平　直接入會
同　鈴木清平　直接入會
同　大島幸三郎　同
愛媛縣　赤松忠太　加納陸
同　澤田保太郎　吉永信
同　三宅ミツネ　同
同　都築トキ　同
愛媛縣　芝キチ　吉永信
高知縣　野澤竹藤治五　茨城定鍵
同　長岡資蔵組合　同
同　土佐常政　直接入會
同　上田豊吉　猫
大分縣　笹山源藏　大分支會
同　北海部郡農會　同
同　矢住信道　河瀬弘
同　御手洗常次郎　同
同　長野大造　同
同　安藤覺治　同
同　稲村正年　同
同　稲田彦太郎　同
同　松岡長道　同
同　村上榮二郎　同
同　加賀野榮太郎　田代榮吉
同　木村義賢　同
同　中原行正　同
同　末藤武二　直接入會
同　永山喜内　建部靜
鹿兒島縣　南原萬助　同
同　南立突座　同
同　江藤源七　同
同　中島昌福　種子田淳一
同　吉原鶴次　同
同　幾田サイ　同
同　永島孫太郎　竹内正治郎
熊本縣　坂井信之　友田新八
同　湯草逸馬　同
同　上田豊吉　猫
同　市原助雄　直接入會
同　矢住信道　河瀬弘
同　御手洗常次郎　同
同　長野大造　同
同　稲村正年　同
同　稲田彦太郎　同
同　松岡長道　同
同　村上榮二郎　同
同　加賀野榮太郎　田代榮吉
同　木村義賢　同
同　中原行正　同
同　末藤武二　直接入會
同　永山喜内　建部靜
鹿兒島縣　南原萬助　同
同　南立突座　同
同　江藤源七　同
同　中島昌福　種子田淳一
同　吉原鶴次　同
同　幾田サイ　同
同　永島孫太郎　竹内正治郎
計　三百十八名

又同月中追常會員より特別會員に變更せし者左の如し

新潟縣　宅島林造　三重縣　伊藤勝次郎

又同月中に死亡せられたる者左の如し

○通常會員

島根縣　原田友太

○特別會員

愛媛縣　浦部嘉四郎

本會々員現在數

（明治三十九年十月末日調査）

會員總數　一萬一千五百九十五名

內譯

名譽會員　十三名

特別會員　三百七十七名

通常會員　一萬一千二百〇三名

蠶桑雜觀

蠶病豫防事務協議會答申

豫報の如く去月十九日より五日間、農商務省に於て開會せられたる蠶病豫防事務協議會は、同省の諮問案に對し左の如く議定し答申したり。

蠶組驅除豫防上特に督勵すべき事項

一、諸對調諸等の方法及て二段蠶繭等に蠶組の性狀及之が豫防驅除を施すべきこと

二、蟲蠶毛虫及繭等の驅除を勵行すること

三、四齡以後の病蠶蠶の處理に就ては各蠶室に適當なる穿孔器を備へしむること

四、蔟中の病蠶蠶及繭の處理へ勵行すること

五、蔟撤は使用後焼捨とするか、水田中に埋込ましむるか又は燒殺すること

六、蔟は時間の早き為に於て上蔟室に熱七項の設備なるべしむること

七、蠶組の遺ん防ぐべき密の設備は低溫及又は低溫減減者くは之に相當する厚紙を用ひ蔟入の蔟種を以て日蔟せしむること

八、一般蠶業者の居住の蔟種を以て日蔟せしむる為め約蔟所の設置を普及せしむること

九、製繭用機の設備を適かならしむること

十、蠶種製造者は蠶種の利用を奬勵すること

十一、生蔟取扱室の床下及周囲は消次卵土に改めしむること

十二、公敵衛生室の床下を周囲は消次卵土に改めしむること

十三、自家用蠶種製造者の蠶組驅除を勵行せしむること

十四、蠶業地方小學校及蠶種管理校等の生徒に蠶組の性狀驅除法を教授し蠶組驅除の習慣を養成すること

十五、蠶病豫防委員任用に關する省訓令に時機に依り蠶組驅除の事務に從事せしめ得る明文を加へられたきこと

十六、蠶病豫防事務所員をして蠶組及蟲害虫の性狀及驅除法を講說せしむること

蟻酸アルデヒド瓦斯の含有量正確なるフォルマリンを使用せしむる方法

一、道廳當局に於て目下の方法に代て一ヶ所以上のフォルマリン檢定所を設置し當事者の要求に依り無料檢定なすことを為特別の道府縣へ通達せられたること

蠶業者に產業組合を設置せしむる方法

一、諸對調諸等の為し產業組合に關する調査を實施せしむること

二、一般蠶業に任意的小組合を組織せしめ商次產業組合に依らしむること

三、組合設置の効果を明かにする為蠶業指導員及技術員の指導に對し因數を以て組織助成を受けられたること

桑園の改良法及之を實行せしむる手段

左記の事項を實行する為府縣に對し國庫より補助を與へられたし

一、桑園改良事業を計畫し自己の所有する桑園を桑園改良町歩を程度とすること

二、東京、京都蠶業試驗場の蠶桑試驗を擴張すること

三、蠶桑試驗及種苗授與を行ふこと

四、補償桑園を設置すること

五、桑園品評會を開設すること
六、技術員を置き蚕業指導せしむること

繭の若採始正の方法

一、共同殺蛹乾繭所の設立を奬勵すること
二、講習講話等に依り繭若採の弊害を知悉せしむること
三、生繭買取標準を規程し設定せられたきこと

生絲製造者に蚕業組合を設置せしむる方法

勧業第三の第一に準ず

製絲工女養成并女子蠶絲教育に關する機關設置の方法

一、製絲工女の養成を奬て組合又は製糸場に對し適當なる命令條件の下に教師の手當を補助せられたきこと
二、女子蠶業教育に關しては東西蠶業講習所規模を擴張し大に生徒を教養せらるゝの外府縣女學校、女子師範學校、女子實業學校及高等小學校等に蠶業の科目を加へ又郡立町村立蠶業傳習所を設置せられたきこと
尚希望として左記事項を提出せり
工女の休憩解屋を取締るべき規程を設けられたきこと

一府九縣聯合共進會褒賞授與式

一府九縣聯合共進會褒賞授與式は去る五日午前九時より甲府城内機山館にて擧行せられたり、參列者は聯合各府縣知事事務官及び受賞者、新聞記者等にして松岡農商務大臣は事務長武田知事の先導にて着席し審査長紫藤章氏審査の結果を報告して褒賞授與を稟請し、次て松岡農商務大臣の式辭あり夫より又々受賞者は順次に階前に進み紫藤審査長授賞の品名及び受賞者は氏名を朗讀し、松岡農商務大臣より賞狀を授與せらる、一等賞は一種每に首席者を總代として賞狀を授與し、二等三等は各種類を一括して各府縣總代に授與し、四等は之を一括して主催山梨縣の總代に授與せられたり、次て紫藤審査長より功勞賞授與を稟請し、次て褒賞應告文を朗讀し松岡農商務大臣より夫々賞狀を授與され、夫より事務長武田知事の祝辭聯合府縣總代千家東京府知事の祝辭參列者總代の祝詞出品人總代の答辭ありて式を終りしが、賞品は一等金牌、二等銀牌、三等銅牌にして農商務省の新定に係り、東京美術學校海野敬授の圖案に成れる天の岩戸謠神に長鳴鳥を配し裏面には菊花の紋章を附したるものなり面して同會に於ける褒賞府縣別は如左し。

府縣別	一等金牌	二等銀牌	三等銅牌	四等褒賞	計
東京	一四	六八	九六	一二六	四〇四
神奈川	七	二九	六八	一四四	二四八
新潟	一三	四三	八五	二〇七	三四八
埼玉	一九	七〇	一七五	四七二	七三六
群馬	一九	八一	一二六	五三六	五五二
千葉	一一	五八	九二	二七四	四三五
茨城	一〇	一〇	二五七	二三二	二二二
栃木	三七	九二	二三八	三七八	四七一
長野	一五	一五〇	三一七	六一九	一三九二
山梨	二五	一〇七	二八九	九七七	五三三四
計	二四四	六九一	一、二七七	三、四九八	五、三三四

府縣名	等種	一等	二等	三等	四等
東京府		一		三	九
神奈川			一	二	一〇
新潟			二	五	一〇
埼玉		三		七	一六

生絲檢査所月報（十月分）

檢査件數

檢査年月	品位	練減	群
本年前月	正一等	五六六四七	一三三八〇
前年同月	正一等	五九八九九	一九二五九
昨年當月	正一等	三四七五三〇	六一四七六
昨年當月迄	正一等	二七六六六二	五九七六七
計	正一等	二二七八五六	四八六七五

正量檢査

	正量
一檢査件數	七、七二一件
一總金量	六四一、八二三斤
一總風袋量	一二、八六八斤
一總原量	六二八、八三七斤
一總無水量	五五四、八一八斤
一正量	六一五、八四八斤

品位檢査

檢査件數	繰度	節	強力及伸度繰度
件數	平均繰度	大節	小節	強力	伸度
繰糸器國					
同座繰掛數					
中繰器國					
和座繰掛數					
同座繰掛數					
大繰器國					
同座繰掛數					
同座繰掛數					
特大器國					
同座繰掛數					
同座繰掛數					
同座繰掛數					
及座繰掛數					
同玉繰					

俵比分百量水含

平均	最多量	最少量
一一七八	一三、五九	九六二

蠶海涓滴

▲一萬九千　二百噸の大戰鬪艦薩摩去十五日横須賀船渠に進水式を行ふ實に是れ世界の記錄を破りたる新事實也全國民狂喜し全世界驚歎するも宜なる哉。

▲德川幕府　石川島に百廿八噸の小帆艦を建造し得意滿面たりし時代より玆に僅々五十年帝國海軍一躍世界第三四の列國を凌ぐの位置に進む其進步や可驚矣。

▲米國桑港　に於ける學童放逐問題は人道に背き文明の大義に反するの不法行爲たり、曩きに大統領ルーズベルト氏誠心殷憂其の非違を矯めんとして。

▲商務勞働　卿メトカーフ氏を特派し日米間に横はれる一暗雲の掃拭せられしを報ぜしも其實一部だに解決せられずとは奇怪也明かに之れ人種的偏見と。

▲日本の地　位昂上とが米人をして此惡辭に陷てしめたるもの誰か謂ふ米國は是れ我邦の恩師なりと仁に當りて師に讓らず我儕當に彼等の罪惡を責めよ。

▲本會臨時　總會に總裁殿下台臨あらせられ優渥なる令旨を賜ひ而して本會組織變更の件亦た容易に解決し斯業大發展の緖途は愈々開け來たり眞に可欣哉。

▲酒匂博士　曩者農務局長を辭任せられて農界轉た寂寥の感なきに非ず、去れど本會副會頭として輔佐せらるゝこと依然たり蠶絲業家請ふ意を安んぜよ。

▲横濱の紳　商原富三郞氏露國へ生絲の直輸出を計り、モスコー府に其代理店を設き露人と合同三百萬圓の資本を以て練絲會社を起すと傳ふ壯圖なる哉。

▲共和黨中　少壯有爲の人物也と知られたるヒューズ氏紐育州知事に當選米國商界多大の安心を得生絲貿易勢怒き影響を受けずと果して然らば寔に結構。

▲茨城縣斯　業獎勵の一助として生繭乾燥所の新設者に縣費補助金交付の議ありと水戶通信に見ゆ、蠶影の紳の誠意ましまさば同縣富饒將大に期ふ所あれ。

▲横濱生絲　市場空前の活況信號上一番一千百八十圓臺押上げたり、斯くて著し本年の生絲貿易一億圓を試するに到らば蠶絲家先づ凱歌を奏して可なり。

▲製絲工場　主消水某突然逃亡して一百餘名の工女居るに家なく去るに旅費なき慘境に陷りたるは神奈川縣藤澤の珍事、製絲家の遣口概ね斯くの如きもの哉。

新刊紹介

輸出有益 農林副產　藥用黃蓮栽培說　矢崎亥八著

近年藥用植物の栽培は一種の流行となり就中黃蓮栽培の如きは其流行の中心ともなつて居る、が併し斯樣な考へ漫々研究して遣らぬと、思はぬ不覺を取り不測の損害を招くやうなことになるから大に注意を要すると云ふ所から、總論、性狀、効用、風土、採種、苗床、本畑、下作、調製、販賣、栽支の十一項目に分ちて藥用黃蓮の栽培に關する意見を述べられたのが本書である、著者の云はるゝやうに算盤は商家の専有物ではない、黃連を植る者も亦た大に算盤を持つてかゝらねばならぬことであるから、徒に世の流行に附和して一擲千金を夢想し輕忽に事を處するよりも、徹底に調査して後ち遣らるゝやうにしたいのであるが、黃連栽培に多少の考へを有して居らるゝ者は之れが調査の一端として本書を讀まれたなら大に得る處があるであらう（正價三十錢發行所東京市赤坂區溜池東京興農園）

明治三十八年度事蹟報告　京都蠶業講習所刊行

本報は表題の如く京都蠶業講習所で昨三十八年度に施行せられた事蹟を錄錄せられたものである同所事業の內容を知りたいと思はるゝ人は一讀せられて然るべしてある（非賣品）

蠶事報告第十二號　京都蠶業講習所刊行

本報は明治三十七年以來同所施行せられた製種に關する試驗の成績を編纂せられたものである、乾繭取扱試驗、繭層繭に及ぼす濕氣の作用試驗、交繭種蠶分業試驗、撰蛹繭種試驗等悉く同所技手服部伸太郞氏が熱心に試驗研究をせられたるものであつて營業者の爲めには何れも有益なる參考である（非賣品）

霜害事情調査報告（特別報告）　福島縣立蠶業學校刊行

本年四月三十日の大霜害は實に近年になき大慘事を鼎したのであるが、何事にまれ學理の應用は殆んど天工の妙を奪はんとせる迄に發達せる今日に於て、獨り霜害に對する豫防法を人爲の及ばざる處と放任して置かるゝ筈のものではない、實に此完全なる豫防法の發見せられざるか如きは國家の不幸此の上もなく、又我農蠶界の一大慘事であると云はればならぬ、此て東京蠶業講習所では大霜害以來之が研究に着手せられてあるから早晩其成績が發表せらるゝであらう吾々は鶴首して之れを待ちつゝあるのであるが福島縣蠶業學校でも早速之れが調査研究に從事せられたと見え、今回其調査報告を發表せられたのである今之を見るに其幾多試驗の大部分は明年春蠶期後でなければ精密に報告することが出來ないとあるけれども該調査報告が當業者殊に霜害豫防に就て熱心研究をして居る者の爲めに頗る有益の參考書たるを失はない即ち本報の目次は緖言、調査の經過概況、第一總論、第二章結霜當日の氣象、第三章地勢及地形と被害、第四章霜路、第五章桑樹の種類と被害、第六章桑樹の仕立法と被害、第七章桑芽發育及伸長程度と被害、第八章土壤の種類と被害、第九章桑樹培肥法と霜害、第十章間作物の有無と被害、第十一章一株中に於ける被害の差異、第十二章結論であつて外國に於ける豫防法實驗の概略を記したのが附錄となつて居るどうか斯う云ふ有益の報告は斯業熱心の士に廣く讀ませたいものである

寄贈書目

明治三十八年度事蹟報告	城丹蠶業講習所
戰後の經營 凶作善後策 農事大會報告	岩手縣農會
製絲讀本	吉田三澄君
明治三十八年度營務成蹟報告	長野縣小縣郡蠶種同業組合
將來之東北	丸山舍
蠶病豫防事蹟	千葉縣第三部
輸出有益 農林副產 藥用黃蓮栽培說	東京興農園
最新蠶業教科書及教授例	興文社
明治三十八年度事蹟報告	京都蠶業講習所
蠶事報告　第十二號	同
郡立山梨郡蠶業學校一覽	山梨蠶業學校
城丹蠶絲時報	城丹蠶絲時報社
他代新報　號外	植木定靜君
山梨縣主催一府九縣聯合共進會審査報告	同會事務所

會報	第四、五號	帝國農家一致協會
日本農業雜誌	第二卷一—第三號	讀賣新聞社
農蠶新報		蠶業試驗會
實業指針	初卷第一—二號	帝國實業學會
同窓會報	第七號	福島縣立蠶業學校同窓會
帝國學士會院一覽		帝國學士會院
秋蠶のすゝめ	第九十三號	大日本秋蠶獎勵會
蠶業報知	第一號	蠶業報知社
三田商業界	第二卷第十號	三田商業研究會
田園生活	第二號	帝國植物會
城丹蠶友會々報	第三號	城丹蠶絲時報社
武德誌	第一卷第五號	武德會
大日本農會報	第三〇三—三〇四號	大日本農會
大日本山林會報	第二八六—二八七號	大日本山林會
動物學雜誌	第二一五—二一六號	東京動物學會
中央農事報	第七八—七九號	全國農事會
蠶業新報	第一六二—一六三號	蠶業新報社
東洋學藝雜誌	第三〇〇—三〇一號	東京學士會院
教育公報	第三一一—三一二號	帝國教育會
染織時報	第二三九號	大日本織物協會
大日本私立衞生會雜誌	第八〇—八一號	大日本私立衞生會
氣象集誌	第七—九號	大日本氣象學會
兵庫縣蠶業會報	第六六—六八號	兵庫縣蠶業會
通商彙纂	第四九—六二號	外務省通商局
統計集誌	第三〇六—三〇七號	東京統計協會
農事雜報	第一〇一—一〇二號	農事雜報社
學士會月報	第二二三—二二四號	學士會
工業雜誌	第三四七—三五〇號	工業雜誌社
新潟縣蠶絲會報	第三卷第九—一〇號	新潟縣蠶絲會
斯民	第六—七號	報德會

山梨蠶業試驗場報　第二一—二二號
農業教育　第六三—六六號
京都府農會報　第一七〇—一七一號
岐阜縣農會報　第一六二—一六五號
廣島縣農會報　第一三五—一三六號
新潟縣農會報　第三五—三四號
福岡縣農會報　第八九—九〇號
横濱貿易協會報　第九—一〇月分
月刊　蠶報　第一九—二〇號
大日本蠶業　第二〇五號
何鹿郡蠶業月報　第九—一〇月分
中外商業新報　第九—九二號
生絲日報　第九—一〇月分
防長蠶業界　第五—五三號
北海道農會報　第六七—七〇號
關西之蠶業　第一七—一八號
土佐蠶絲時報　第四六—四七號
愛媛蠶人　第一二—第一一五號
興農雜誌　第一四一—一四二號
秋田蠶業月報　第一四號
蠶書月報　第一一—一二號
農業世界　第五—七號
蠶手藝農會報　第四四號
埼玉農會報　第一七—一九號
九州蠶業時報　第五—六號
秋田縣農會報　第一七號
蠶業界　第三號
蠶絲農會報　第二〇—二二號
會報　第三三號
埼玉蠶業　第二〇—二二號
島根縣農會報

山梨蠶友會
東京蠶業統育研究會
京都府農會
岐阜縣農會
廣島縣農會
新潟縣農會
福岡縣農會
横濱貿易協會
何鹿郡蠶業會
中外商業新報社
生絲日報社
防長蠶業界
北海道農會
關西之蠶業社
土佐蠶絲同志會
愛媛蠶人會
興農雜誌社
秋田蠶業月報社
東京書籍商組合
蠶手藝會
埼玉農會
九州蠶業時報社
秋田縣蠶業同業組合
長野縣蠶絲同業組合
埼玉蠶絲同業組合
島根縣農會

Bulletin. Ins et Des Sericiferos. No. 1329-1331
Reores, Ichdomuchire Ryomaiso Ichdchindachi
Bollettino di Sericoltura No. 18-35 Pubblicato a cura dell' Associazione delle Industrie a dal Commercio delle Sete in Italia
American Silk Journal. Mr. D. S. M.
American Silk Journal Co.
Semi-Annual Review, the American silk Trad
August, 1905
Silk Association of America.

交詢餘錄

●風穴貯藏　秋蠶種製造者及の爲め本會員に限り蠶種五枚丈け無料にて貯藏す

長野縣南安曇郡安曇村中澤風穴蠶種貯藏所

特別廣告

一金壹百圓也　長野縣　尾澤琢郎君
一金七圓也　山梨縣　内田文四郎君
一金壹圓也　同　鷹野甚兵衛君

右本會事務所及會堂建築費とし寄附せられ受領したり

大日本蠶絲會

東京蠶業講習所技師　士屋泰先生著
東京蠶業講習所講師　坪井啓作先生著
農科大學教授理學博士　佐々木忠次郎先生校閲
農商務蠶業講習所技師　農學士　廣瀨次郎先生著
蠶業講習所長國哲三先生著
農科大學教授理學博士　澤村眞先生合著
農科大學助教授　山崎臨吉先生著
農學博士　澤村眞先生著
東京蠶業講習所技師　農學士　高橋信貞先生著
蠶業講習所長　石原保先生著
高橋久右衛門先生講述

實驗養蠶法　全一冊新版　正價金七十錢　郵稅金四錢　小包金八十錢
總クロース金文字入石版數葉入洋裝美本

實驗フォルマリン鹽定法　全一冊新版　正價金三十錢　郵稅金四錢
洋裝西洋木版數十個入

實驗蠶體生理　全一冊第二版　正價金十一圓　郵稅金四錢　小包金一圓二十錢
洋裝彩色石版、寫眞銅版、寫眞鋼版、四洋木版等入有餘圖入

蠶體病理　全一冊新版　正價金卅五錢　郵稅金四錢　小包金五十錢
洋裝彩色石版、寫眞銅版、西洋木版等十有餘圖入

養蠶教科書　全一冊新版　正價金卅五錢　郵稅金四錢　小包金五十錢
洋裝假綴寫眞銅版及西洋木版等十數個入

蠶兒軟化病之研究　全一冊第四版　正價金五十錢　郵稅金四錢　小包金六十錢
洋裝極彩色石版二十九版及西洋木版數個入

蠶生理化學　全一冊第四版　正價金三十錢　郵稅金四錢　小包金四十錢
洋裝假綴

通俗蠶病豫防法　全一冊第三版　正價金五十錢　郵稅金四錢　小包金六十錢
洋裝クロース背金文字入西洋木版十數個入

實驗桑樹栽培改良法　全一冊第四版　正價金六十錢　郵稅金四錢　小包金七十錢
洋裝總クロース背金文字入寫眞銅版四、密畫石版六、四洋木版十數個入

繪珍蠶絲實典　全一冊第四版　正價金七十五錢　郵稅金四錢　小包金八十錢
附和、佛、伊、英、獨、蠶業專門新集釘裝類最上等美ポケット入

顯微鏡使用法　全一冊第四版　正價金五十錢　郵稅金四錢　小包金六十錢
洋裝總クロース背金文字入西洋木版三十有餘個入

製絲法　全一冊第二版　正價金一圓　郵稅金四錢　小包金一圓十錢
洋裝總クロース背金文字入密畫石版四十有餘圖入

養蠶術原論　全一冊第二版　正價金二圓　郵稅金四錢　小包金二圓十錢
洋裝總クロース背金文字入密畫本總クロース背金文字入西洋木版等入

高橋養蠶談　全一冊第四版　正價金五十錢　郵稅金四錢　小包金六十錢
洋裝總クロース背金文字入密畫石版西洋木版等入

發兌元　東京市神田區美土代町四十番地　明文堂

五二共進會に於て進歩銀牌を受領す

●本器は纔に高輪御殿に獻納し繰絲運轉の實況を畏くも 常宮周宮兩内親王殿下の御上覽を辱ふし空前の光榮を賜たり

●本器は纔に東京蠶業講習所の撰定に依り遠藤園へ多數の輸出を爲せり

新案製絲器械

●本器は且下開會中の五二共進會階下特許品陳列所に陳列し衆庶の觀覽に供しつゝあり

●本器は常に繁商會工場に於て繰絲しつゝあれば何時にても御實見ありたし

岩淵修三氏發明

●專賣特許 **新案製絲器械**

接緒器付

足踏式にして「ゲンネル」式非撚式に兼用構造簡易輕便更も其要を得且經濟的なり繰量一日一人二口繰にて一斗乃至一斗五升三口繰にて二斗五升乃至二斗

各一臺の定價

木製 甲三口繰 金八圓

木製全部鐵製 乙三口繰 金六圓五錢

三繰金貳拾圓

詳細は住所姓名書にて御申越次第設明書御送呈可申上候

東京市日本橋區元大工町四番地

製造發賣元(電話本局七六八一番)

蠶業商會

東京市下谷區同朋町四番地

實驗繰絲工場

岩淵修三氏發明

●專賣特許 **接緒器**

付屬品付 壹個金壹圓五拾錢

從來の製絲器械及足踏器械にも適用す接緒器中の最選歩せるものにして「ダニール」よく掛ひ付節甚少し

蠶業商會工場

五二共進會に於て有功銀牌を受領す

斬新河村式消毒用噴霧器販賣廣告

●受領 大日本蠶絲會第八回品評會銀杯

●有効銀牌 ●進歩銅牌 ●二等賞狀 ●有効銀牌

本器は如何に構造堅牢使用輕便價廉にして而も其成績佳良なるかは大方の公評認知せらるゝ處なり從て蠶日農商務省に開設せられし各府縣勧業主任會に於てすら當局大家の講話にも目下我邦にありて蠶病消毒器中其首位を占むるものは河村式強力噴霧器なりとの事口頭に上り以來價格揚がり需用頓に加はり既に昨春の文過多にして遂に製品に缺乏を告げ道憾なが注ぐ十に對する四五の比例を以て漸く需用者に詫ぶるの悲を來せり是皆諸彦の愛顧懇渥なるに外ならずと信ず然るに目今に至り模造者續々現はし製品の實否如何に論なく只に其形式に種々の姦手段を以て華客を惑はし暴利を貪る弊のあり豈に悲嘆の至りに堪へざるや回數一場は此機に際し改良を加へ前顧に酬ひずんが爲め層々改良に改良を多年の研究を遂に專心御便益に供せんと欲し規模を以て嚴密なる選擇をなし應せんとす覺悟の御愛顧を賜はらんことを

特許 **質用噴霧器**

●改良二ツ口自働噴霧器 金六圓八拾錢

●普通製 金五圓五拾錢

●布入ゴムホース六尺金具附金壹圓貳拾錢

●消毒用フォルマリン各種

其他

以上各品共一時に多數御購用の向は特別大割引可仕候也

明細書は御申越次第直ちに送呈す

備後國福山新町裏通り

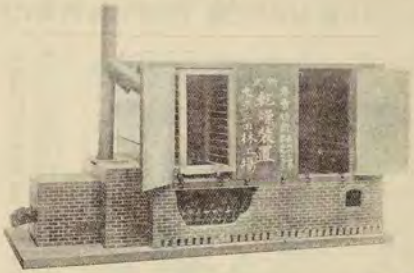
河村工場

製絲機械器具並蠶業用器具一式其他諸機械製作

發電略號(カワコ)

●**蠶絲之友**(本地製品細大漏さず六錢切の廣告を掲載し委しく說明代價を記入す)

弱入用の御方は往復はがきにて御申込を乞ム



專賣特許第五六七四號ノ一、二、三、

林式生繭乾燥裝置

拾ヶ年實際經驗

農商務省專賣特許　焚口接合裝置
農商務省專賣特許　焰管伸縮裝置
農商務省專賣特許　加熱板裝置
農商務省專賣特許　防濕裝置
農商務省專賣特許　平均乾燥攪拌裝置
農商務省蠶業講習所ヲ始メ各縣各郡ノ模範用農學校農林學校ノ採用ノ榮ヲ得タリ

東京市芝區三田豊岡町壹番地
林工塲　林庫次郎
電話新橋一九五四番

日本蠶業株式會社廣告

本誌に豫告致し候日本蠶業株式會社は愈々設立の運に相成り農蠶具、蠶種、桑苗、寒暖計、乾濕計幷に製絲機械の製造販賣及輸出入を開始し併せて農蠶雜誌を發行仕り候間御愛顧の程奉願上候

追て特約販賣御志望の方は此際至急御申越し被下度候也販賣品目錄は無代進呈仕り候

東京市下谷區仲徒士町三丁目五十九番地
（上野廣小路街鐵電車大通り）電話下谷一二五四番　振替貯金五一二六番

日本蠶業株式會社

取締役　藤本善右衛門
同　竹澤章
同　相馬愛藏
監査役　半谷清壽
同　岩田太郎

謹告　多年御愛顧を蒙り居り候丸山舍蠶具部及佐藤寒暖計製造所の業務一切を新設の日本蠶業株式會社に合併仕り候間右御了承被下倍舊の御眷顧奉願上候

丸山舍主　竹澤章
蠶榮堂主　佐原福次郎　敬白

魯桑 土佐國中土佐 野市村

我土佐國に於ける各種桑苗が漸次に益々内外の好評を博し之れが生産は常に其需用に伴ふ能はざるの實況に於ける各種桑苗は特に優秀なる申實にして且つ近年各府縣を通じ桑園增殖に接する申實に於て本縣の特産たる魯桑種子並に實生苗の如きは既然急激なる多額の需用に接する申實にして本縣の桑種苗は洗れも多年桑樹種苗の專業となし幸に至れり此に本會社は位の愛顧を忝ふする各社員は熟々此の生産販賣及び其の需用に對し大に感奮する所あり相謀つて汽車の種苗を撰擇し此に本會社の用者を益々し幸に本會社員は洗れも多年桑樹種苗の專業となし幸に至れり此に本會社は位の愛顧を忝ふする各社員は熟々此の生産販賣及び其の需用に對し大に感奮する所あり相謀つて汽車の種苗を撰擇し此に本會社の用者を益々し幸に本會社員は洗れも多年桑樹種苗の專業となし幸に至れり此に本會社は位の愛顧を忝ふする各社員は熟々此の生産販賣及び其の需用に對し大に感奮する所あり相謀つて汽車の種苗を撰擇し此に本會社の用者を益々

（苗木の撰精）

苗木の荷造發送方に付ては社員多年の最周經驗に由り到底遠隔地段手を以て送る方法を以ても安全に到着を期す

（安全の送發）

苗木の價格
苗木之引渡
苗木之發送
苗木之代金
苗木之運賃
苗木之種別
其他

土佐特産 魯桑實生苗

（注意）

一、本會社は苗木の運賃は大小鉄道の便利を考慮し最も廉価なる運賃を以て仕向地に送付致す
一、本會社は苗木の種別は其の産地の土質高燥なる方に適する苗を送付致す
一、本會社は苗木の代金は注文に到る迄は何なる場合に於ても決して請求致さざるべし
一、本會社は苗木の引渡は注文に到る迄は何なる場合に於ても決して請求致さざるべし
一、本會社は苗木の價格は注文に到る迄は何なる場合に於ても決して請求致さざるべし

本會社營業品目

●魯桑實生苗
●魯桑種子
●魯桑接木苗
●其他接木桑苗各種

小生儀多年桑樹種苗生産販賣に致して專業となし幸に内外の需用者に益々し幸に本會社員は洗れも多年桑樹種苗の專業となし幸に至れり此に本會社は位の愛顧を忝ふする各社員は熟々此の生産販賣及び其の需用に對し大に感奮する所あり相謀つて汽車の種苗を撰擇し此に本會社の用者を益々

高香縣美郡知
無責任限
野市村
野市東字略
電略「ヨ」

野市苗木改良合名會社

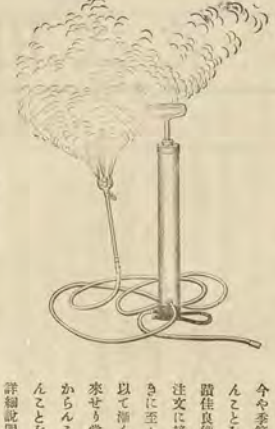
進木式實用噴霧器大改良廣告

進木式實用噴霧器の堅牢完全にして實用に適切たるは既に天下の公認せらるゝ處たり加ふるに昨三拾八年八月以降外筒氣室ピストン脚部其他各局部の大改良を加へ益々完全無欠實用無比の良器となるに至れり

今や季節に際し機遇するなく御購入あらんことを昨春の如きは實用適切にして成蹟佳良價廉なるの高評を以て實に過多の注文に接し遂に製品に欠乏を告げ甚だしきに至りては三十に對し僅々六七の割を以て辛うじ需めを詫ぶるの不得止の遺憾を來せり當春は大に之れに鑑み如斯遺憾なからんことを期す希くは倍舊の愛顧あらんことを

詳細説明書一報次第呈す

伯州倉吉町
進木工場
（發電警號 シンキ）



價格

●進木式實用噴霧器 三方噴出口 ホース六尺 附着 一臺金七圓五拾錢
●銅上 害虫苗砂除用 一臺金七圓五拾錢
●四方噴出口 ホース六尺附着 一ケ金壹圓
●中型用布入ゴムホース接續金附 一筋六尺 金壹圓
●小包郵料參拾五錢 伯州倉吉局留
多數御購入の向へは割引可申特に大日本蠶絲會員諸君へは特別割引可申候

—必らす一讀せられよ—

特許

譽田式乾燥器

○本式の功用著大なるは多くの顧客何れも激賞する處にして漸く天下の人目を惹き多數の注文を受くるに至りしは本式の光榮とする處なり

○本式は覆板式と稱する一種嶄新の裝置にして特許の主眼も茲に存し隨て在來煙筒式の如き不完全不確實なる時代後れのものとは雲泥の差あり

○本式は始め四石入なりしも實驗の結果多少の工夫を凝らし五石入となし成績一層良好となれり而かも定價は以前の通り天下無比の低廉なり

○本式は覆板式なるが故火災の患なく鐵類の腐蝕、乾燥不均一、等の欠點なく火力乾燥の通弊を悉く除去せり

○本式は燃料の少なき事實に驚くべく而かも容易に二百度以上の高熱度に昇し得、復た數分間に低熱に降し得る等調節管の作用にて自由自在なり

御注文の御方は一日も早く御申込被下度直に參上御約束可申上候說明書御入用ならば御申越次第送呈可仕候

一室生繭五石入　全乾燥一回七時間
一晝夜三回　一晝夜工程十五石
生繭五石入鐵具一式　代價貳百五拾圓

横濱市辨天通六丁目百四番地

特許譽田式乾燥器販賣所

最新發明學理應用實驗良績

特許佐藤式乾桑器

●本器は東京蠶業講習所講師三谷徹先生及同所講師松下憲三朗先生の嚴密なる鑑査訂正を經たるものなり

●本器は本年九月廿五日農商務省特許局に於て特許すべきものと査定せられ第一一〇〇六號を以て特許原簿に登錄せられたり

●本器は過般埼玉縣大和田町細沼政吉方及び東京府千駄ヶ谷村（新宿停車場傍）竹村政吉に建設し秋繭を實地乾燥して其成績最佳良なるを慥めたり

●本器は火熱乾燥式にして危險の惧なく價額低廉最經濟的を主眼とし乾燥に際しても室內空氣を攪拌し又は運轉等を要せざるを以て此等に要する動力は一切不用なり

●本器は室內に於ける熱の分布佳良にして溫度は極めて均一に保ち得られ、給氣作用及排氣作用完全に行はれて生繭を八時間に乾燥し然も乾燥に過不及なし、而して其乾繭は光澤を損せず解舒極めて佳良なるは實驗者の驚嘆する所なり

發賣所　東京市下谷區金杉上町一番地　佐藤商會

特許證主　佐藤龜治

◉斬新百木式噴霧器ハ卅九年七月以後其噴霧口ニ特徴ヲ有スル等大改良ヲナシタルヲ以テ實ニ輕便且堅牢無比トナレリ

現今蠶業界農業界ニ於テ輕便且ツ堅牢無比ヲ以テ大ニ賞揚セラレツヽアル噴霧器ハ改良百木式足踏噴霧器ナリ◉

第四回内國勸業博覽會 進步賞牌
第四回全國製產品博覽會 進步銀牌
佛國河内萬國博覽會 金賞牌
内國製產品共進會 金賞牌
戰捷紀念博覽會 壹等賞牌
第五回内國勸業博覽會 參等賞牌
大日本蠶絲會第八回品評會 貳等賞銀杯
其他於博覽會共進會品評會金銀賞牌十八個名譽賞狀及謝狀

受領

特許及實用新案 百木式 噴霧器改良謹告

改良百木式噴霧器使用ノ圖

特許百木式噴霧器（噴霧口一個 ゴム管六呎）附着 一臺ニ付 金拾壹圓
害蟲驅除用噴出口 一個ニ付 金參拾八錢
噴霧用ゴム管一筋（六呎）ニ付 金壹圓五拾錢
但シ接續金具附（特別極上等品）
小包郵送料（荷造費共）一臺ニ付 金五拾五錢
但シ代金引替便ハ金拾五錢增シ

⊙蠶業用乾濕計同寒暖計、同諸器械●掃除室用寒暖計、同乾濕計、同晴雨計、同諸メートル●理化學用驗溫器同比重計●工業用驗溫器同比重計●醸造用驗溫器、同諸メートル●氣象用寒暖計、同乾濕計●農業用寒暖計、蠶種檢査器械●牛乳檢査器械●室内掛寒暖計●醫用驗溫器、同比重計●製絲用寒暖計、同比重計●顯微鏡類●顯微鏡用硝子類●溫メートル●百木式噴霧器及各種噴霧器

其他各種寒暖計乾濕計及諸器械等廣く發賣致居候間多少ニ不拘陸續御用命之程偏ニ奉希願候

◉實用新案 百木式農業撰種用比重計

◉消毒用 錨印 桃印 フォルマリン液

〔本品は弊所の專賣品にして輸入毎に必ず京都蠶業講習所に提出して之れが定量分析を請ひ其良品と認めたる上發賣するものなるが故其蟻酸アルデヒード及新食有量の夥多にして正確なることは既に世上の公認せらるゝ處なり最も弊所は責任以て之れを保證す〕

其他●各術生試驗所檢査済フォルマリン液●獨逸國「セーリング」製藥會社●同國「メルク」製藥會社原封のもの等各種發賣罷在候間是又多少ニ不拘陸續御用命の程伏て奉願上

海軍農商務省東京京都兩蠶業講習所各税務監督局各税務署各府縣蠶業學校及各講習所 御用達

寒暖計メートル類各噴霧器及諸機械製造
消毒用フォルマリン液直輸入
京都市二條通烏丸西入
百木製作所
長電話千二百五十二番

御得意諸君へ謹告

山梨縣甲府市に開設されたる一府九縣聯合共進會に於て本館出品の繭及蠶種は左の優賞を受領致し候就ては爾今益奮勵改善に力め此光榮に答へ候覺悟に御座候間倍舊の御眷顧希候敬白

蠶種 一等賞 金牌
繭 一等賞 金牌

山梨縣東山梨郡春日居村
聯珠館 蘆澤多左衛門
振替貯金口座番號第參六七六番

秋蠶種需要者及社友諸君に謹謝す

本年之秋蠶業は果然多大の發展をなし各府縣蠶業家は秋蠶種製造の實地を視察し共同購入を申込に至れり之れ予輩の理想として唱道せし實現にして斯業上の一進歩と認むべし殊に其結果豫期の如く蟻量一匁に對し三貫餘の收繭ありて飼育家を滿足せしむる事を得しは本社の幸榮とする所なり謹んで諸君の熱誠なる眷顧を感謝し帝國蠶業界のため益々勇健を祈る

◎二化蠶原種用 大白龍 千代鶴 其他數種

右本社夏秋蠶原種餘分あり御入用の方は一蛾につき三錢の割合を以て送金此際御注文を乞ふ

信蠶社 主幹 鳥羽久吾
長野縣東筑摩郡本鄉村横田松本郵便局下

東京蠶業講習所試驗飼育の標準

春夏秋蠶蟻量壹匁飼育標準表

壹枚金壹錢
郵税拾八枚迄毎に金貳錢

大日本蠶絲會

過般貴縣出張の際は種々御厚情に預り感謝の至りに不堪候本月一日無事歸京致候間誌上を以て御禮申上候敬具

明治三十九年十一月

大日本蠶絲會

會頭 男爵 松平正直
副會頭 農學博士 酒勾常明
理事 本多岩次郎
同 星野長太郎
同 吉池慶正
書記 小池市松
同 加藤知正
同 澁谷典二

山梨縣長野縣
大日本蠶絲會員
並有志諸君 御中

廣告依頼者に稟告

本會々報廣告料金左表の通改正し明年一月より施行致候條此段稟告候也

明治三十九年十一月

大日本蠶絲會

	特等			並等		
	一頁	半頁	四分ノ一頁	一頁	半頁	四分ノ一頁
一回乃至二回ニ付	十五圓	八圓五十錢	五圓	十二圓	七圓	四圓
三回乃至六回ニ付	十二圓	七圓	四圓	十圓	六圓	三圓五十錢
七回以上一回ニ付	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓

四分ノ一頁以下ハ一行ニ付金參十錢ヲ申受ク

會員ハ右料金ノ二割引トス
特等ハ四分ノ一頁未滿ハ謝絶ス
料金ハ前金ニアラサレバ掲載セス
一頁ハ一行二十七字詰七十二行トス

蠶絲業家の絶好伴侶

田路寅造先生著 袖珍 蠶桑寶典 (正價八十五錢 送料六錢)

東京蠶業講習所御編纂 蠶事報告 第廿七號 (正價二十五錢 送料二錢)

農學博士 大森順造先生著 蠶病學講義 (正價八十五錢 小包料十錢)

三谷徹先生著 製絲秘術 (正價六十五錢 小包料十錢)

東京蠶業講習所御編纂 ●蠶事要報(養蠶之部) 正價四拾錢 郵稅四錢
●蠶事要報(製絲之部) 正價貳拾錢 郵稅貳錢
高山社分教場高橋清七先生著 ●蠶兒飼育法 正價六拾錢 郵稅六錢
出野信慶先生著 ●蠶病豫防法解釋 正價三十錢 郵稅四錢
京都蠶業講習所長松永伍作先生著(十三版) ●蠶桑實驗說 正價五拾錢 郵稅六錢
同先生著 ●再訂增補養蠶術講義(十八版) 正價四拾錢 郵稅四錢
信陽田村兵司君著 ●二化蠶業全書 正價貳拾錢 郵稅貳錢
秋蠶專攻上條銀一郎君著 ●最近秋蠶全書 正價四十五錢 郵稅六錢
信陽油井彌一郎君著 ●夏秋蠶の燈 正價五十五錢 郵稅四錢
山梨縣永沼辨次郎君著 ●原理應用栽桑新書 正價七十五錢 郵稅八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町二丁目 振替金口座六九六番 電話本局千五十五番 有隣堂書店

専賣特許第一〇五六四號

無回轉式接緒器

壹個金四十五錢
百個以上特別割引

見本一個入九十錢御送金次第使用法共御送仕り候
但切手は一割増

本器は上圖の如く無回轉式裝置なれば極めて簡單にして在來の機械は勿論足踏座繰の別なく又ケンネル式共撚式の論なく謹れても鈴二本にて備付得らるの便あり又添緒するに使用簡便なれは初習の工女能く優等なる生絲を多量に製絲せられ處理易けれは纖度整一となり故に添緒よりなる瘕跡は少しも遠瘕を認めざる筝實に無比の良器なり

簡單足踏製絲器械

定價金五圓五拾錢
但接絡器付

本器は構造堅く使用簡便にして實用に適し在來の筌を其儘使用する便あり

右兩器共主として地方に一手販賣を計り普ねく當業者の利益を計るの目的に候得者御望の方は至急御申込被下度候

横濱本町　今井商店
器械部

肥後蠶種輸出問屋

強健無毒

春蠶種

又昔青熟赤熟

代價

（何れも一次形）
製種用種金壱個　一枚　五十錢
（多數御注文は特別割引仕候）
原種用枠製二十八個掛　一枚　一圓三十錢

○枠不製共二十枚以上御入用の方にて若し見本御入用なれは直ちに送呈仕候二十枚以下十枚迄は半金申受候

弊店取扱の蠶種は繭實を旨とし春秋蠶種共各實地と學術に精通せられたる各製種大家へ出張一眼毎より上蔟種繭撰別等調査し母蛾檢査濟の上健全無毒の良種に限り取扱ふを以て信用益大にし現今地方は無論關東地方本洲中部各養蠶地より大多數の注文を受け最早地方の種も大に減じ候に付御入用の同士は大至急御注文の上弊店取扱蠶種の如何に正確なるかを知り賜はらんことを乞ふ

熊本縣鹿本郡山鹿町原の上（電略ナカタ）

大日本蠶絲會員
鹿本郡蠶絲業會員

永田蠶具店

店主　永田和三郎
（肥後山鹿郵便局區内）

一、春蠶種販賣廣告

（商標金兜）

一、秋蠶種　又昔　白龍

春蠶種
秋蠶種
一升單數二百三四十粒
一升單數高解舒佳良
一升單數二百三十粒
資質强健收穫多量
但五月より八月迄出穴貯蔵に適し販賣
穴

一、代價

原種用枠製
製絲用枠製
一百蛾分　二圓五十錢
一百蛾分　二圓
一枚　一圓五十錢
令面付普通製

明治初年故長野溶平舊熊本藩主細川侯藩に建白して藩内に九ヶ所の養蠶試驗所を設置せる際に本部を當社現今の所在地に卜し爾來參拾有餘年養蠶に製絲に其業跡を擴張し目今蠶業隆運の大勢に遭遇し聊か初一念を報ゆるの秋に近けり

明治九年同志と秋蠶社を組織し肥前國島原温泉岳風穴に秋蠶種貯藏所を開始す

同廿六年熊本製絲合資會社設立に際し一般原料廚改善の必要を唱道して養蠶部を獨立經營となし續て當會社を組織し同世五年熊本製絲株式會社（資本十九萬弗全額拂込）組織后愈々兩業連接の必要を感じ當社の業務を擴張し關西新業の雄鐵として廣く天下の同志と提携し益々當業の發達に貢献せむことを期す

熊本製絲株式會社の生絲が横濱埠頭第一位の高價を占有する事實は當社製種より産出する原料が如何に優越なるかを立證するなり

無限責任
熊本縣飽託郡大江村演武場會社長野製種組
（熊本市坪井郵便電信局管内（電信略號ナヌはナガ）

一、春蠶種販賣廣告

春蠶種
秋蠶種
一升單數二百三十五
一升單數高解舒良好
一升單數二百三十粒
飼育容易收穫多量
穴

一、秋蠶種　又昔　白龍

原種用枠製
製絲用枠製
一百蛾分　二圓五十錢
一百蛾分　二圓
一枚　一圓五十錢
令面付
但五月より八月迄臨時出穴貯蔵に應ず

代價

明治三十三年六月五日熊本縣德久知事より功勞賞として木盃一組下賜ありたり

明治三十九年四月一日松岡農商務大臣より功勞賞として金弐拾圓下賜ありたり

明治九年一月居を當地に移し故長野溶平に從ひ養蠶術を傳習輪出蠶種を製造し爾來卅有餘年專心一意蠶種製造に從事したり

明治九年一月居を當地に移し故長野溶平に從ひ養蠶術を傳習輪出蠶種を製造し爾來卅有餘年專心一意蠶種製造に從事したり

同志者の指導により高田數ヶ所の肥後國下益城郡秋蠶種貯藏所を設立し不斷の研究を重ね遂に秋蠶種の良種を貯藏し年々數十萬枚の蠶種を販賣し來たり今日迄引續き繁榮を保つに至る

熊本縣飽託郡大江村元演武場
大日本蠶絲會地方委員　弘蠶館　古莊之
（熊本坪井郵便局區内）（電信略ヲフ又はフル）

蠶業新報

毎月一回二十五日發行
發行部郵送料壹拾壹錢
賣捌部郵送料壹拾錢
賣捌部郵送料壹拾錢
賣捌部郵送料壹拾錢
二十四冊前金壹拾貳錢

十月二十五日發行第百六拾參號目次大要左の如し

▲口繪　小島館製絲場と館主小島倉吉氏
▲農蠶界雜感……社
▲三大制度再考論……名譽協賛員　池田島　武
▲繰蠶上蔟論……名譽協賛員　池田榮太郎
▲富士風穴の眞價を論して沈澱空氣説に及ぼす　松本測成
▼本年或る風穴種の成績　仁良原因に就て　所長技師　澤　嚴
▼蠶種類改良の方法を論じて我日本蠶業界の手本たるべき　京都蠶業講習所技師　武　雄
▼肥後生絲界の改革策……名譽協賛員　小磯志人　長野縣小磯井龜太郎
▼生絲貿易市場の刷新を望む……名譽協賛員　藤　章
▼千葉県三郡視察談……岩原　謙
▼福島縣製絲業奬勵と八雄館……京都蠶業講習所　三井物産會社理事　石　繁
▼宮城縣の蠶業概觀……農商務技師　波　嵐
▼印度の蠶業談……農學士　松田　吕
▼神學耶農學耶……農學士　德
▼亞れたる關東一の製絲家（寫眞版入）……
▼代表的繰糸機語……
▼母子養蠶機（一門二師團長二博士を出す）……
▼米國一筆……城東　發士
▼寄書五件◎問答◎批評◎雜報◎蠶界時事の聚芝なるもの數件
◎海外愛報等蠶界必讀の好文字は光彩陸離の愛讀の榮を綴へ

發行所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　蠶業新報社

魯桑實生苗販賣廣告

我北宇和郡は桑園の適地にして其小分の六を占む而
但悉皆壹年生
共郡の桑園は愛媛縣下に於て養蠶頗
製造す其郡の桑園は桑樹は悉皆魯桑種隨桑なり是を以て我郡仕立に於て
所の實生桑苗は純粹の魯桑苗なり我内に於て他種類の雜れつゝ
○の無き本年度播み種にして毫も
なれば以て園者に接木用の桑苗と為すにも適し又苗は其他春蠶的雅種蠶
用の桑園を仕立つる夏秋蠶用の桑園を仕立つるに至上候間續々御注文あらんことを
精良品を選び可及的廉價に
代価壹錢
伏而奉願上候
其外委細の事は御照會あり次第直ちに御返答可仕候也
愛媛縣北宇和郡八幡村大字下村イ百二十三番戸
明治三十九年十一月　大日本蠶絲會員　滿本六平
○ふ元及び取引の確實なるは於て自ら確保する所者し就ふ人
あらば我村役場へ御問合せあれ

春蠶種純粹大集又昔

●原種用四枚金貳圓五十錢
●普通製一枚金壹圓五十錢
熊本縣鹿本郡山東村　蠶友社

春蠶種　白龍元祖蠶種業　白龍館

無毒
健全
春蠶種
又貴、青、熟、嫁、蠶
白龍、中巣、小石丸、
長野縣小縣郡長瀬村
館主　久保田宇右衛門
京都南丹波須知
諸官衙用達
桑苗各種　中安榮之助
蠶具（繭生絲屑物扱）
電略○ナカ

蠶種貯藏小諸風穴

○當風穴は鐵道信越線小諸停車場（長野縣北佐久郡小諸町）を距る僅かに西方約十數丁にして小諸町には郵便電信局其他交通の機關總て備はらざるなく殊に郵便電信等の配達は市内同樣最も便利の位置にあり

○當風穴の構造は多年の實驗と絲新なる學理とを應用し相當の設備なりも尚本縣風穴取締規則に基き一大改修を施し蠶種の生理上最も適當の方法により完全無缺の製造となせり從て貯藏せる蠶種の發生確實なるは疑實保證仕候

○當風穴蠶種貯藏委托は毎年十二月より翌年二月二十日迄出穴は貯藏中時たりとも委托者の希望により何程にても請求次第直ちに出穴迄可致候

○貯藏手數料の低廉にして取扱の懇切敏速なるは風穴の特色なり

右貯藏委托御希望の方は御申越次第委細速かに御回答可仕候

長野縣北佐久郡川邊村大字大久保
小諸風穴主　柳澤大六

◎大日本蠶絲會々員の貯藏委托は特別の取扱致候

春蠶種　伯州又昔

第博覽會
五回
內國蠶種
勸業賞授

代　平付壹枚
價　原種　金壹圓五拾錢
　　但し九十錢附
　　製　參壹錢

○特別割引あり無會を乞ふ
○見本出發論希望の方へは申越次第送呈す
○論形長巣にして目今一般に唱ふる理想的のものなり
◎吾伯州特產たる本種の優點は一々列擧せざるも常に伯州山除製絲會社の絲價横濱市場に於て第一位を占むるは全く製絲に完適するの特能を有する只だ本種の繭を原料とするを以てなり蠶見は强健にして眠起齊整飼育も亦た容易なり
◎本種の風穴種も精製しあり晩春蠶夏蠶秋蠶に隨時飼育するを得

鳥取縣東伯郡下北條村
東伯蠶種改良會員　岩垣禮藏
電信略語（レイ）

贊助員　正三位勳一等子爵渡邊洪基君　農務局長農學博士酒勾常明君　東京蠶業講習所長本多岩次郎君　京都蠶業講習所長松永伍作君　長野縣立蠶業學校長三吉米熊君　農商務省蠶絲課長加賀山辰四郎君

第壹期　自宅講習會員募集

蠶業講義錄

十一月廿七日第七號發行

毎月一回發行百五十頁
入會金參拾錢
會費一ヶ月二十五錢
五ヶ月金壹圓六十錢
全期十ヶ月金參圓也

（正科）學科　講師

●蠶業汎論　農科大學蠶學講師　[illegible]吉君
●桑樹栽培論　蠶業講習所教官講師　下井[illegible]君
●桑樹病害論　農事試驗場技師農學士　堀正太郎君
●桑樹害蟲論　蠶業講習所技師農學士　明石弘君
●蠶體生理論　蠶業講習所教官講師　横田長太郎君
●蠶體解剖論　農科大學講師農學博士　外山龜太郎君
●蠶病消毒論　農商務省蠶絲課技師　松田昌德君
●蠶室蠶具論　農科大學教授理學博士　佐々木忠次郎君
●蠶業氣象學　蠶業講習所教官講師　横田長太郎君
●飼料所物整理　農科大學講師農學博士　稻垣乙丙君
●蠶業(?)　蠶業講習所教官講師　松下憲三郎君
●蠶病論　農科大學教授理學博士　佐々木忠次郎君
●蠶種使用法　蠶業講習所教官講師　高橋伊勢次郎君
●夏秋蠶飼育法　長野縣蠶業學校教諭講師　酒井小次郎君

講習期十ヶ月　●卒業證書授與

入會者は入會金及會費五ヶ月以上添へ申込べし

●入會次第會員章及講義錄第一號より取揃發送す

●詳細規則申越次第進呈

爲替信濃南安曇郡梓局　郵券代用は一割增　編輯所東京西ヶ原貳五五番

發行所　長野縣南安曇郡倭村　中央蠶業學會

●各府縣原產の良種　桑苗　五拾種類販賣

自製桑苗は全國各地養蠶家の御注文に應じ輸送し種類の正確苗木精良生育良好たるの高評を博す例年の通り多數製苗せるを以て多少に拘らず御注文を乞ふ

栽草便覽は御申越次第郵呈仕候

埼玉縣兒玉郡丹莊村大字植竹
各種桑苗製作所蠶具販賣所
各府縣農事試驗場桑苗御用達　博榮館

魯桑實生苗と種子

は我山形の特產にして既に洪く養蠶家の實驗を經たれば誰に賛するを須ゐず●價格は時々變動あれば往復ハガキ又は返信料を添付して御照會を乞ふ●見本苗要求者は郵券二十錢を送れ

魯桑實生苗栽培法

本縣技手齊野泰治君が多年の實驗に徵し著述したる良書にして全然學理的の文字にて讀め何人も一讀して了解し得る實行的の良書也●定價送費共金參拾錢郵券代用不苦

●春蠶種は原種用製絲用共多數準備致置候間是亦御用命願上候

●一時拾圓以上御購入の方には蠶病豫防法規一部貳圓以上は外に東京蠶業講習所講師土屋岩淵兩先生の蠶病論と消毒法參拾圓以上は更に魯桑實生栽培法の三冊を呈す

羽前國山形市香澄町
合名會社　擴產館

春蠶（健全無病・抗疫性）蠶種販賣廣告

種類　又昔　銀白　白龍　大巢又昔なり

普通製壹枚代價壹圓四拾錢　框製壹蛾代金參錢　但し普通製五拾枚以上は一割引　百枚以上は一割五分引箱代郵送料は本館の支辨とす

本館が蠶種改良の要旨は蠶性强壯にして飼育最も容易絲量多く纖度均齊解舒佳良光澤優美にして形狀能く最も製絲に好適なり故に古今流行種類と同名なれども性質一變して寒暑風濕の際限なく飼育善良他種と比較上必す有益なる良種なることは製絲大家の高評により明瞭なり繭の形狀は何れも一升二百四五拾粒位なり又館主は高山社監査役なれば該當擴張の爲め貳拾有餘年間各府縣へ出張し專ら各地の風土に適する種類を撰拔し天理の原則に法り學理を應用し空氣の新陳代謝に注意し淸溫育法を以て飼育し蠶兒繭及び蛾の三撰法をなし殊に精巧の顯微鏡撰種法と完全なる瓦斯消毒法を行び病毒を除き抗疫性に富む完全純良の良種なり各博覽會共進會等にて一等賞及び其他の賞與を得たる事百貳拾有八枚の多きに至れり加ふるに當所玉村大字角淵村は烏川北淵の砂石高燥地にして古昔より晩霜害の憂を蒙りたる事なく嘗て農商務省農務局にて地質分析の際は天試の蠶種製造地と賞譽せられし良桑園を以て製種の原料となす殊に本年群馬及び福島栃木等多少結霜の異害ありしも本町を中央とし東西七里南北四里の區域は幸に無害にて桑葉の繁茂例年に倍し殊に蠶兒は健全無病なれば御憂念なく多少に不拘御飼育あらんことを國家の爲め養蠶家諸君に拜告仕候

農會其他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

明治三十九年八月

群馬縣佐波郡玉村町大字角淵
高山社分敎場良育館
大日本蠶絲會特別會員地方委員　野村要藏蠶事部

▲▲熊野樹實專賣▲▲▲

農商務省山林局林業試驗所　全國四十六府縣十大林區署　御檢定濟

一　熊野特產　杉　扁柏　樟　金松　種子

各種子代價詳細は御申越次第諸官廳檢定の成績表寫と共に御案内可申上候各種子とも最良發芽保險付き代價も亦た最廉なり其他多額の御注文には大割引をなす

▲永選最上　杉種子無代價分與

例年の通り十萬人まで一人一合を限り播種栽培法を添へ無代價分與す試驗希望者は袋代郵送實費として郵券五錢を添へ申込まるべし四十年一月五日以後順次贈呈す

▲明治三十九年十月

大日本山林會樹實御用達　大日本蠶絲會員

紀伊國新宮町　ウエヒラ木材商會　樹實部

郵便振替貯金口座第一七六八四番

●第三回五回四回内國勸業博覽會有功賞牌受領

春蠶種　青熟白龍中巢又昔小石丸等數種　御需めに應ず

代價其他の事項は御一報次第詳細御回答致候

長野縣小縣郡上田町常盤城　蠶種業　報國館

振替貯金口座貳九〇六番　館主田中吉右衛門

春蠶種長巢又昔　原種用種百蛾參圓　製絲用種十匁貳圓貳拾錢　爲換局丹波福知山

本種は絲量豐富にして比較的飼育容易現今の良種類と信す改善に注意の諸賢試育して其有益を認められんことを希ふ

京都府天田郡庵我村　元巢蠶種製造場同胞館

最新特許

實用手提式噴霧器

ゴム二尺付　代金九圓　小包送料四拾錢

◎噴出口の特殊巧妙の發明を爲し六孔より微細なる噴霧を多量に發散せしむる裝置なり
◎多量の液を短時間に噴出し水漕に容るべき六斗餘の液は僅かに四分間に撒布し得べし
◎唧筒の運動を圓滑ならしめ其使用を輕便迅速にし最も大なる强力を以て細霧を撒散する構造なり
◎何人にも容易に各部を分解し得る構造にして加へも堅牢破損の憂なき樣作製せり
◎水漕中の藥液の調合を爲し或は噴出の量を檢する爲めメートルの設備をなしたり
◎前掲前面に見る如く提手を附屬し便用中持運びに最も便ならしむ

ホルマリン直輸入品販賣

●蠶種貯藏器

本器は内匣桐外匣桧材より成り周側は金屬を以て張り又は内匣に美麗着色の漆を施したる三重一個の別製造の一鑪種貯藏器へ桐材～桧材内匣～桐材～三分の重より成り外側は美麗着色のニス漆塗とし鍵を有する數個の諸金屬製附着より成りたるものにて其外匣と内匣の周圍空隙ある部分には導熱物質を充塡し鑪層内の物等なるべく適當の種類を下底と隔鑪間と中間に空所を藏する所にあるは種子の發育を防ぎ鑪種を爲さしむべき樣構造したる蠶種貯藏器なり●代價五枚入金參圓十枚入參圓五拾錢十五枚入四圓廿枚入五圓別式骨枚入貳拾圓五拾枚入參拾圓百枚入四拾圓但別式製は別に荷造費を申受く●運送は小包便にては送れず通運其他各便宜に隨ふ

貯藏の時機迫る至急乞御注文

東京市下谷區仲徒士町三丁目五番十九番地

日本蠶業株式會社

（電話下谷一二四五番振替貯金五一二六番）

●精良春蠶種販賣廣告

●長白（一名島村長大巢　一升二百二三十顆
●大巢白龍　大巢　一升二百顆內外
●大又　中巢　一升二百五六十顆
●丸志保　中巢　一升二百六七十顆
●改良又昔　長中巢　一升二百五六十顆
●白玉（一名白姫）蠶中巢　一升二百五十顆

前掲蠶種は天理の原則に法り自然の道理に基き大氣の清通を旨として四十餘日間利根川沿岸の良桑を以て飼育し殊に精巧の顯微鏡撰種法とトリヲー式消毒法とを以て專ら日進の學術を應用し病毒を除き抗疫性に富む完全純良の蠶種に御座候發種類の義は多年の經驗を以て飼育し易く繭質善良嚴重均一絲量最も多きものを改良撰擇せしものに御座候間多少に不拘御試育相願度此段養蠶家諸君へ拜告仕候

代價全面平附壹枚　金壹圓四拾錢　●桐製壹鑪生金貳錢五厘

割引●平附拾枚原種用壹千鑪以上壹割引●農會其の他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

●郵便爲替は上野國佐波郡島村局へ御振込みのこと

●蠶種郵送料箱代は幣園の負擔に候也

群馬縣佐波郡島村蠶業社

桑柘園　田島彌平蠶事部

專賣特許蠶上簇藁折蠶機

一個　定價金六圓（五個以上割引あり）

右器機を用ゆれば藁三たけを接續し得て一個となし一日に四百個以上五百個を製作し得るなり之を從來の手折に比すれば四人前以上の手間を省き蠶第一枚は一個にて足り藁を冗費せず能く筋目の正しく整然たるか故笹上に布刻するに倒るゝの患なく手數殆と三倍を減じ特に玉丙繭等至て少し且つ器械の重量僅か二貫五六百目なれば運搬自在にして婦女子と雖も容易に使用し得べき輕便堅牢の器にして實に方今に於ける養蠶上一大好發明たることを疑はず其效用に至ては片紙の能く盡し得べきにあらざれば各位速に需められ浪費を省きて經濟上の利得を計られん事を兼寶上候謹具

信州下伊那郡下川路村

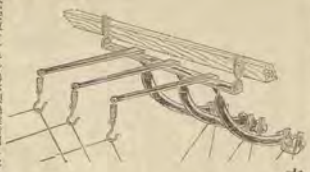
製造發賣本舗　國益社

電信略號○ヱキ

実用新案登録
第二三三〇號

製絲機械 安東式ケンネル販賣廣告

從來製絲家に使用せらるゝケンネル器は是れを共撚器に比すれば生絲の均一を缺くの嫌あり又絲質に幾分か遜色なきにあらず故に普通ケンネル絲は加賀羽二重用の如き特種精巧なる織物の經絲とするに當り需用者の嗜好に副せざるの憾あり我國製絲界の泰斗たる安東氏夙に之を憂ひケンネル器と共撚器とを折衷して一種の機械を案出せり爾來此研究に苦心したること二十有餘年なりと云ふ現今宮岡製絲場を始め東は奥州西は西國九州に至る各府縣下に於て同氏の手に依り改良せられたるもの數百箇所に達したりと云ふ然るに同氏は尙ほ該器が取扱者の不注意に依りては勾配の正確を失ひ絲質に不齊を來すことあるを發見し更に苦心研鑽を重ねたる結果茲に完全なるものを造り最新安東式ケンネル器を案出せり

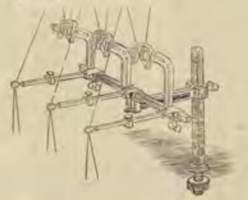


本器の特長は

○生絲切斷するも繊を逸せず故に繊數均一なり又絲屑を出さるを以て絲量多し

○勾配の正確を保ち抱合充分にして絲質の均一なるか故に精巧なる織物の經絲に適す

○デニールの細太に依りボタン挾み水面の高低適度を自由に一定すること又索緒の時前後進退の自由を爲すの便あり



因て安東式ケンネル器が製絲業者間に大に需用あるを見るや之を模造販賣する者續出し遂に其眞形を失ひ所謂似て非なるものを供給して營業を妨ぐるに至る今回は機械の濫製を防がんが爲め實用新案の登録を受け模造の處罰規定を條件として弊店に於て製造販賣することを特約せり既に共撚式を變更し本器を採用せられたる三重縣高岡製絲會社愛知縣佐屋川製絲場等にては絲條成績最も良好なる報導を得たり目下各所の注文數千組に達せり

製造販賣有權者

横濱尾上町三丁目（電話九二一番）
振替貯金口座四九〇五番

松井生絲機械商店
店主 松井新作

○本器は足踏器械等に用ゐるの便あり二條繰三條繰用の二種あり

農學士石渡繁胤先生校閲池田榮太郎君著（改訂第四版發行）

四版 蠶體生理

上等クロース金文字入銅版石版寫眞版等數十個入石版彩色丸圖嵌續圖入
全紙數三百七十頁
正價金壹圓貳拾五錢
小包送料拾錢

目次大要

第一章◎總論◎蠶の起原○家蠶と野蠶○蠶の名稱○蠶の種類○蠶兒の變化○遺傳●第二章◎蠶卵論●卵の構造○胚子の發達○不受精卵の發達○[illegible] ●第十章○附論

發行早々洛陽の紙價を高からしめたる本書は三版賣切後暫く品切中の處今回第四版を發行す前三版に倍し陸續御注文の程奉願候

蠶桑精華

佐々木博士松永技師校閲田路寅造君著（第四版）

袖珍クロース製
正價五十錢
送料四錢

農蠶の學生は勿論實業家の坐右缺く可からざる寶典なり

桑樹栽培論

農學博士大森順造君著

最新刊クロース上製
精圖入
正價金六十五錢
送料八錢

桑樹の栽培研究は蠶業界今日の急務なり本書は博士が多年講究せる熱血を濺らせるもの學生及實業家必讀の良書也

蠶蛆驅除法

京都蠶業講習所技手荒木武雄君著

精圖入
正價五十錢
送料六錢

蠶蛆の爲に蒙る我蠶業界の損失年々三千萬圓と稱す之が豫防驅除の方法を知らんとするものは速に本書を讀まれよ

女子蠶業教科書

練木喜三君著

最新刊第二版
正價金貳拾錢
郵稅貳錢

蠶業の普及は女子に蠶業の智識を注入するにあり我蠶業界の元勳練木先生之を憂へ此書を著はす切に世人の愛讀を祈む

發兌元 丸山舍書籍部
東京市日本橋區箔屋町十四番地
（電話本局二〇八五番）

土佐特産 脅桑實生苗

弊店儀江湖各位の深厚なる御愛顧を忝ふし業務日増に擴張致候段鳴謝の至りに有之候然るに昨年以來本縣特産の脅桑種子並に實生苗が大に全國の信用を博し續々需用せらるゝに際し動もすれば不正の商人其間に出はれ粗惡雜駁の品を供給して需用者各位を迷はし延ひて本縣特産の信用を傷ふものあるよりして當局其他有志諸氏より弊店に於て之れが取扱を開始せんことを勸告せらるゝ方動からず依て今春來斷然決心仕り弊店内に種苗部を特設し直營の桑園は勿論其他傳へ特約桑園に就き最も嚴密なる監督をなし不取敢大方各位よりの御高需に對し本年夏季中精撰脅桑種子の販賣取扱をなせるもの凡そ十石餘に上り而して其成蹟幸に孰れも良好なりし趣を以て態々謝状を寄せられたるもの尠からざるは弊店の大に光榮とする所に御座候尚弊店よりは東西兩蠶業講習所を始め其他各農蠶學校農事試驗場等へは大抵少量づゝ種子配呈御試驗相願置候につき自然御報ね被遣候はゞ其成蹟判然可仕儀と存候就ては今後種苗部の業務一層擴張仕り諸般の準備相整ひ候につき脅桑實生苗につきては此上愈々各位の御便益相謀り正確と廉價とを勉め御高需に應じ可申候間續々御用命之程偏に奉希上候

明治三十九年十一月

公文商店 店主 公文慶吉 敬白

販賣取扱之要項

◉御申込期限 本年十二月末日迄に御申込みを乞ふ本部直營園に特約商園とも苗木に限りあり或は期限内にても品切れとなるやも計られざる故可成早く御申込を望む

◉申込保證金 御注文と同時に一萬本につき金六圓宛の保證金を申受く但し諸官衙、學校、試驗場、農會、蠶絲業組合其他公共團體よりの御注文には保證を要せず

◉苗木之價格 苗木の大小により區別あり且つ時價にも多少の變動ある故御申込次第早速詳細御答任るべく候

◉發荷之順序 苗木御注文を受けたるときは十一月末より堀取を始め御注文の順序によりて最も迅速に發荷可仕候

◉發荷之方法 苗木發荷の方法は内國通運會社取引店に托し汽車若くは汽船便を以て最も速達の取計可仕候故に其荷揚所（同港名、停車場、取扱店名等）は豫め御通知下されたく候

◉運送之料金 苗木運送の料金は實費額だけ申受候但し苗木の種別送地の差違により素より不同に付御申込に際し早速取調へ申上ぐべく候

◉送金之方法 代金御同送の節は土佐、高知町銀行宛か又た土佐國野市郵便局宛にて御上候振込名宛人は「高知縣香美郡野市村公文商店主公文慶吉」と御記入を乞ふ

◉苗木に對する責任 公文種苗部取扱の苗木は其正確にして雜種なきことを保證仕り候萬一雜種の混入せることありたるときは諸官衙、學校、試驗場、農會、蠶絲業組合等よりの御通知に對しては之に責任を負ひ苗木代金を返戻又は明年度に其取換苗木の發送にても御指定通り取計ひ可申候但し御通知は必ず明年六月三十日迄に相願候

◉各種類接苗 公文種苗部にては脅桑實生苗の外各種類の接苗も同樣最も正確廉價に取扱致居候間是亦併せて御高需願上候

◉其他苗木に關する事項 につきては御問合に對し何にても早速御回答可申上候間御遠慮なく御申越被遣度候

高知縣第三部御用達高知縣立農事試驗場御用達高知縣立農林學校御用達
高知縣蠶絲同業組合御用達高知縣農會御用達土佐蠶絲業同志會御用達

高知縣香美郡野市村（發電略語「クモ」）

公文商店種苗部

蠶種家養蠶家の寶典 ◉ 製絲家貿易家の伴侶

各府縣蠶病豫防事務所の必要書

大日本蠶種家名鑑

發行の旨趣

◉體裁 明治三十九年十二月中製本出來

◉記載の概要

◉蠶種家特別廣告登載方法

發行所 蠶業新報社

各農蠶學校及蠶業講習所の備書

府縣廳郡役所及府縣郡村農會の備付書

九州蠶種家之泰斗

彰功賞

帝國農家一致協會々務製糸蠶絲業改良に貢献せし功勞による會頭正三位伯爵冷泉爲紀君より授與の榮を荷ふ

良精蠶種豫約販賣廣告

◎春蠶種

又青	一升	二百四十粒	
赤熟	一升	二百二十粒	
小石丸	改良	一升	二百五十粒
長黛	又昔	一升	二百二十粒

◎風穴夏秋蠶種

白	一升	二百三四十粒	
又昔	一升	二百四十粒	
改良白	長黛	一升	二百二十粒
龍	一升	二百二十粒	

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

◎代價

板製原種用 一枚 金六拾五錢
全面附 金壹圓五拾錢
多數共同購入は割引あり

本島製蠶種は各種共場主右田直三郎帝國農科大學に農蠶學を專攻せし時撰拔せし種類にして農科大學卒業以來茲に拾有貳年間新進の學理と熟練なる技術とを以て生物界に於ける遺傳の原則に鑑み淘汰を加へたるものなれば蠶質强健にして飼育最も容易絲量饒多纖度均齊解舒佳良光澤優美にして形狀好適なり多少拘らず豫約御申込み御飼育の上豐繭を得て邦家富力の充實を計られえことを冀業家の責務として茲に奉希望候

熊本縣鹿本郡菱形村

右 田 農 場

（肥後國植木郵便電信局區內）

壹等賞金牌

九州沖繩八縣聯合共進會に於て農商務大臣從二位勳一等松岡康毅君より授與の榮を荷ふ

歸全發後性蠶種實費分讓廣告

◎春蠶種

又青	一升	二百四十五粒	
赤熟	一升	二百二十粒	
小石丸	改良	一升	二百五十粒
長黛	又昔	一升	二百二十粒
大形	又熟	一升	二百二十粒

◎風穴夏秋蠶種

白	一升	二百三四十粒	
又昔	一升	二百四十粒	
改良白	長黛	一升	二百二十粒
龍	一升	二百二十粒	

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

◎實費

板製原種用 一枚 金六拾錢
全面附 金壹圓五拾錢

本社製蠶種は各種共多年系統的壹蛾飼育の撰擇に依り特撰せし純粹種にして蠶質健全飼育容易成繭優美にして細麁に拘らず絲量多く光澤解舒共に佳良なり之を少に拘らず豫約御申込み御試育あらんことを

熊本縣鹿本郡山本村

弘盛社蠶業講習所

所長 細谷久一郎

熊本縣鹿本郡菱形村（九鐵植木停車場ノ西方十丁）

弘盛社事務所

主幹 細谷久一郎

振替貯金口座番號四四九三番

肥後植木郵便電信局區內

天下獨特の設備

夏秋蠶原種

檢査結了せし處豫期の如く極めて好成蹟にして本郡蠶病豫防事務所中第一等の成蹟なりと靑木所長始め吏員一同の嘆賞する處なりと之れ本社が天下獨特の設備と飼育術とによる所以にして殊に要素たる歩桑は奈良井川淵岸に五拾余町歩を有す砂質壤土にして施肥耕耘の周到なるは尤も種繭飼桑に好適す幾多養蠶家諸士よ斯る良種を需め豊作を得て自己を利し併せ國を益されんことを

夏秋蠶原種

名稱 大白龍、千代鶴、中巢、日本錦其他數種

定價 原種用檢査濟一蛾金貳錢（但し十二月末日迄の申込製絲用全面付金壹圓卅錢に限る以後は原價に復す）

長野縣東筑摩郡松本村

各府縣郡村農會蠶種用達

信州村山社本部

信州產桑苗木廣告

戰後の財政は蠶業の發展に待つ甚だ大なりと異口同音に唱導するは宜なり蠶業の發展を希圖せんには其要素たる桑園の改良增殖を計らざるべからず本社は茲に見るあり十數年間栽培の結果優良なる大葉苗を仕立あれば希望者には斯業奬勵のため左の實費にて差上べし

殊に信州は寒國なるを以て何地へ移植しても無病健全發育尤も良好にして敎業多し

●夏秋蠶用大葉桑苗二年生代出し

極上等四尺以上一千本	原價	七圓
上等三尺以上一千本	同	六圓

●春蠶用又は種繭用鼠返し

極上等四尺以上一千本	原價	七圓
上等三尺以上同	同	六圓
其他魯桑接木、實生苗、等各種		

●代金は注文と同時に信州松本局へ御拂込を乞ふ

長野縣東筑摩郡松本村 村山社苗木部

◎親愛なる會員諸士に是非共御飼育を乞はねばならぬ精良蠶種

◎種子苗木は總て寒國より移植せざる可らず

確實と迅速とは當社の特色

設立主意

桑園の增殖改良は樹勢强健葉質善良にして蠶兒に適し併て收量の多額なるを以て最とす魯桑の如きは眞に桑樹中の優等種なるべし故ある哉近年本縣が魯桑種苗の生產好適地として蠶業界に認識せらるゝや累年需用の增加を來し價格も亦從て騰貴せり之に反して種子の製造漸次粗惡に流るゝの風ありて本縣の名譽を傷け蠶業の進步を沮害するの恐れなしとせず眞に慨歎の至に不堪然れども完全なる種苗の供給は到底一個人に望むべからず吾輩大に感ずる所あり技術經驗ある選手を專任し專心一意良種を選別し苗木の栽培改良を計り洽く江湖の需用に應じ併て地方の生產を起さんと欲し茲に有力なる人士の後援を得て土佐種苗販賣會社を設立し聊か蠶業界に貢獻する所あらことを期す

當社設立趣旨名譽賛助員

長岡郡長 小松延齡
高知縣會副議長 川島猪之助
同縣參事會員後免町長 北村浩
同縣會議員 下村重幸
同縣會議員 小笠原永晴
長岡郡會議長農會幹事 溝淵貞四郎
同參事會員 近森馬次郎
同參事會員 野口清吾郎
同參事會員 中澤兵之助
同農會長 東山菊馬

長岡郡農會副會長 和田兼吾
同郡勸業課員 鍵山陽
同郡大篠村農會長 溝淵靜閑
同郡岡豐村農會長 窪添正文
同郡介良村農會長 田内駒吉
同郡十市村農會長 山本秀則
同郡高須村農會長 津野利之助
同郡新改村農會長 穗岐山守衛
同郡後免町會議員 岡本靖
同郡後免町會議員 松村孫平

土佐本場魯桑 苗木種子定價

苗木	一千本に付
一尺より二尺迄	二圓
二尺より三尺迄	二圓九十錢
三尺より四尺迄	四圓

種子	一升に付
一等	四圓五十錢
二等	三圓五十錢
三等	二圓

多數割引す

申込ト保證金

苗木御注文の受込期日は本年十二月二十日限り但し品賣切の際は期限內と雖も謝絶することあるべし依て大至急御申込を乞ふ

御申込と同時に見積代價の四分の一御送金を乞ふ殘額は現品引渡しの節申受くること但し官衙學校試驗場公共團體等の御申込には現品引渡の節全額申受くること

高知縣長岡郡後免町拾八番屋敷
土佐魯桑種苗合名會社
代表社員武市登志衛(電信略語ト)

土佐本場魯桑實生苗並に接苗販賣弘告

本縣の風土氣候は恰も善く桑樹の栽培に適し而して適者生存の結果現に魯桑は約其八割を占め之れが實生苗並に接苗とも其仕立方法に於て多年の經驗上一種獨得の長所を有しつゝあるは思ふに世人の已に認識せる所にして且つ我野市村が此の魯桑苗の本場たる本縣下にありて更に其苗木仕立の中心地となり年々多額の生產をなし夙に野市苗の稱呼を江湖に喧傳しつゝあることも亦決して贅言を須たざる所とす然るに今や戰後經營上益々蠶絲業の勃興を要するの時に際し各府縣とも競ふて桑園增殖を企劃し之れが奬勵誘導を勉められ爲めに苗木の需用頓に增加せると共に世の所謂苗木商なるもの此機に乘し漫りに粗雜不良の苗木を賣却して以て一時の奇利を博せんとするものあるは最も遺憾とすべき所とす是に於て本村の當業者は共に相謀り結して產業組合法に準據し新に本組合を設立し益々苗木の改良增殖を圖り誓つて確實廉價を勉め縣內外の需用に應し以て魯桑實生苗並に接苗の本場たる名聲を完ふせんことを期す希くは全國蠶界の諸彥幸に本組合微衷の在る所を諒し益々需用の榮を賜らんことを此に謹て啓白す

明治三十九年十一月

高知縣香美郡野市村役場內
有限責任野市村桑苗生產販賣組合
組長 遠藤春正

桑苗需用の注意

目今付桑實生苗の需用夥多なるに當り世の所謂苗木仲買商人等にありては秋季落葉後魯桑實生苗の他種實生苗と一見識別し難きを奇貨とし動もすれば之を混交し且つ需用者を欺き暴利を貪らんとするものありと聞く抑も魯桑實生苗は樹質强健、收穫多量葉質善美等の特性あるがため賞讃せらるゝものなるも其他の雜種に至りては此等の特性を具へざるが故に若し此等雜種を購入栽植せらるゝときは其發育生長不整なるのみならず折角の收利を得ざるに至らん故に本組合は斷然此等の弊を掃蕩し仕立中にありて嚴密なる鑑察をなし品質を精撰し必ず江湖の信賴に背かざらんことを期す故に希望の方は季節切迫せざる前に於て直接本組合へ御申込あらんことを乞ふ

桑苗販賣の手續

一、需用の方は本年十二月末日迄に御申込ありたし仕立苗木に限りあり且つ既に豫約の方も鮮からざるにより期日以前と雖ども品切れとなることもあるべきにより成るべく早く申込まれたし

一、苗木引渡期日は申込の順序により逐に發送し翌春栽植季節迄には必ず終了す

一、需用御申込の際保證金として實生苗は一萬本毎に金四圓接苗は一千本毎に金三圓の割合に申受け現品引渡の際其殘額を御支拂相成度事
但シ官衙、學校、試驗場、農會其他公共團體ヨリノ御申込ニハ保證金ヲ要セズ

一、苗木の價格は御照會を受けたるときは詳細に回答すべし要するに最も廉價を勉むることは此に讚言しおく所なり

一、多額ノ御申込ニ對シテハ特別ニ割引法ヲ設クベシ

荷造發送の方法

一、苗木の荷造は通常濟包法に據る遠距離の御注文あるときは時として途中發熱等の憂ある故本組合にては從來の經驗に徵し特に注意して最も安全の方法を用ゆべし

一、本組合員生產の苗木たることを證するため接苗は百本以上、實生苗は一千本以上に限り特に保證票を附す

一、發送ノ方法ハ內國通運會社取引店ヘ托シ汽船又ハ汽車便ヲ以テ發送スルガ故ニ豫メ荷揚所(同濟店、管轄驛)取扱運送店名ヲ御報知被下度事
運送料ハ苗木ノ大小多少運送ノ便否ニヨリ豫メ難定ヲ以テ御申込ノ際早速取調ベ御通知可申上候 但シ荷造料ハ不申受候

送金の方法

一、銀行爲換は土佐、高知兩銀行の內へ、郵便爲換は土佐國野市局宛に御振込相成度候

純粹正確

魯桑實生苗

代價

五寸以下	一萬本	參圓
五寸以上一尺以下	一萬本	六圓
一尺以上二尺以下	一萬本	拾四圓
二尺以上三尺以下	一萬本	貳拾圓
三尺以上四尺以下	一萬本	貳拾八圓

今ヤ魯桑實生苗ハ非常ノ勢ヲ以テ歡迎セラレ既ニ下園ニ向テ申込ノミニテ數百萬本ニ達セリ益々奮勵熱誠以テ從事致候間陸續御引立アランコトヲ希上候

愛知縣三河國幡豆郡西尾町大字鹽町十一番地

苗木種子業 博農園 渡邊萬吉

優等

雜種實生苗（接木臺ニ木用フ）

四分以上	一萬本	七圓五十錢
五分以上	一萬本	十圓
六分以上	一萬本	十三圓

蠶業ノ盛況ニ隨ヒ桑苗大缺乏ヲ來シ價格亦頗ル高クナレルカ爲メ折角ノ植附希望ヲ見合セラルヽ向モアラン實ニ斯業上一大遺憾ニ候就テハ優良ナル臺木ヲ以テ接木シ直接桑園ニ植込ミ少シク肥料ヲ奮發セラレナバ少費ヲ以テ完全ナル桑園ヲ得ラルベシ

桑苗販賣廣告

本社ハ社員廿餘人ノ團體ニシテ數町歩ノ苗園ヲ有シ尤モ誠實ニ尤モ低廉ニ左記ノ桑苗ヲ販賣致スベク尤モ代價ハ時ニヨリ多少ノ高低モ有之候間御照會次第回答致スベク候

尙ホ外ニ落葉松苗モ澤山有之候間尤モ廉價ニ販賣ス

一小牧（一名松本桑）大葉ニシテ摘桑ニ宜シク又蟲害風害等モ尠ク頗ル軟葉ニシテ夏秋蠶ニハ必要欠クベカラザル良桑ナリ

○鼠返 ○四ツ目
○魯桑 ○十文字
○青軸 ○落葉松苗

長野縣筑摩郡芳川村 順氣社 桑苗販賣部

主幹 田中多傳次 田中増七

業務擴張 御披露

[illegible]

營業案内

◉蠶種

一化性 青熟（一升二百三四十粒にして飼育容易繭形豐大糸質優美）

又昔（全二百四五十粒にして全上）

白玉（全上）

但本縣蠶業組合聯合會檢査濟の優良蠶種及當舍蠶絲部其他部下契約製種家の優良蠶種のみ供給可仕候に付御需要の方は至急御申込みを乞ふ

二化性（土佐特產早夏蠶）

い形（一升二百四五十粒にして糸質強健繭形卷糸質優美）

青熟（同上）

白龍（同上）

但し縣下製造の優良品にして製種期は五月下旬より六月下旬に至る需要の方は來る十二月迄に豫約申込を乞ふ

◉桑苗

土佐特產 純粹魯桑實生苗

極早生苗 四方咲（發芽市平より一週間位早し）魯

細枝其他接苗各種

○代價

原種一枚貳錢製糸申種一枚一圓貳錢

實生苗一本一厘以上四厘以内

接苗一本八厘以上貳錢以内

公共團體及多數の申込は特別割引す

高知縣香美郡山田町一三九一番地 上島商會蠶業部主任

四ヶ原高山社出身

上島勇治

土佐特產魯桑實生苗の正確なる供給

我上佐國が魯桑種子並に其實生苗の特產地たることは既に全國各府縣の等しく認識せらるゝ所にして近附各府縣に在りて戰後の經營上桑園增殖に關し頻々其施設を見るに至りたると共に急激なる需用は忽ち本縣下に向つて集注し來り現に本年夏季に於て本商會に於て販賣の取扱をなせる魯桑種子のみを以てするも實に十石以上に上り尙引續き他類の注文に接したるも本商會に於て精良と認むる種子の全く拂底となれるがため爾後總て之れを謝絕するの已むを得ざるに至りたるは特に遺憾とせる所なりき而して本商會の紹介販賣せる魯桑種子が孰れも品質精良系統純粹にして且其生育の模樣頗ふる他に優絕せるものありたるは之を試播せられたる各位の共に實驗せられたる所にして本商會に對し特に謝狀を寄せられたるものも亦尠からず是れ主として本縣產魯桑種子の特性に基けるは勿論なるも亦た本商會の撰擇幸に其宜しきを得たるに由らずんばあらず而かも其價格の亦極めて低廉なりしは偏に本商會の公益を重んじ薄利に甘するの主義に出てたるものにて亦江湖各位の特に注目せられたる事實たるべしと信ず今や更らに本縣產魯桑實生に向つて各府縣より多數の需用あらんとするの時機に際し本商會は既に之れに對し應分の準備をなし其の直營の苗圃は勿論其他特約紹介に係る苗圃に就き其仕立中に在りて時に嚴密なる査察を遂げ熟れも目下頗る良好なる生育を遂げつゝあるを以て過般魯桑種子の取扱をなせると同じく充分の責任を負ひ「確實と廉價」なる本商會の主義に基き決して江湖需用各位の深厚なる信頼に負からざらんことを期す希くは益々高需を賜はらんことを

土佐特產 魯桑實生苗

苗木種別と其代價

◉一年生	（一尺五寸以上二尺迄）	一千本	金武圓
◉同	（二尺以上三尺迄）	同	金武圓五拾錢
◉同	（三尺以上四尺迄）	同	金四圓

◉割引一萬本以上は二割引、十萬本以上は三割引

◉荷造費、本商會負擔◉運送實費金前に申受く

申込期限と保證金

◉需用御申込期限本年十二月末日限り
但し優良品拂底となりたる時は期限内にても謝絕することあるべきにより可成早く御申込を乞ふ

◉御申込と同時に保證金として代價五分の一の金員を申受け現品引渡の際殘額を申受く
但し官衙、學校、試驗場、農會、其他公共團體よりの御申込に限り保證金を要せず

土佐國高知市本町二丁北側

土佐蠶業商會

主幹 明神武雄

發電略語『サン』

AVIS.

1°. Le bulletin de l'Association s ricicole du Japon est l'organe des membres de cette societé qui compte actuellement plus de 11.595 membres.

2°. Cette Association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3° Dans ce rapport sera inscrit dans les langues européennes le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'Association recueillera et publiera les essais et études faits par les interessés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Séricicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the association, whose number is over 11.595

2) This association has for its object the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigner of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultural Association of Japan.

春蠶亦昔

通稱 鹽原亦 佐平亦 佐亦

豫約代價

●原種用種 壹蛾代金參錢五厘壹千蛾以上壹蛾金參錢

●製絲用種 參枚ニ付金五圓同五拾枚以上參枚ニ付金四圓五拾錢同百枚以上參枚ニ付金四圓 送費自辨

鹽原亦或は佐平亦或は伯州亦或は山陰亦と稱する物は鹽原佐平の選擇に係る種類にして彼の名古屋製絲所に於て製絲改良の原種として伯州蠶種家に依頼せられし改良蠶種は則此佐平又と稱する原種よりなるものなり又山陰京都或は上州製絲の優等品は重に此種の製出する所なり鳥取縣島根縣に托せられし種類は則ち之なり本種の特色たる世既に定評あり茲に贅するの用なしと雖も最近購入の榮を得し官衙及公立團體を擧くれば左の如し

鳥取縣因幡蠶絲同業組合
鳥取縣岩美郡浦富村農會
鳥取縣氣高郡逢坂南部蠶業改良組合
鳥取縣西伯郡名和村農會
鳥取縣西伯郡中濱村農會
鳥取縣岩美郡東村農會
鹿兒島縣鳥居町蠶業講習所
鹿兒島市蠶業講習所
鹿兒島縣噌唹郡岩川村農會
鹿兒島縣伊佐郡西太郎村曽木蠶業講習所
鹿兒島縣肝屬郡百引村農會
鹿兒島縣出水郡東長島村農會
鹿兒島縣肝屬郡大根占村農會
鹿兒島縣農會
鹿兒島縣肝屬郡小根占村農會

鹿兒島縣揖宿郡山川村農會
鹿兒島縣農事試驗場
鹿兒島縣肝屬郡高山村農會
宮崎縣都城町
宮崎縣北諸縣郡庄內製絲所
宮崎縣北諸縣郡製絲永進社
島根縣廳
岐阜縣立農學校
三重縣立農學校
滋賀縣淺井郡農會
長野縣松代町北信蠶絲懇話會
德島縣板野郡東村養蠶傳習所
岡山縣兩備郡蠶絲同業組合
岡山縣農事試驗場
石川縣農會
石川縣能美郡蠶絲同業組合
埼玉縣秩父郡原合名會社製絲部

埼玉縣北埼玉郡豊野村利根川蠶業傳習所
埼玉縣大里郡幡羅村農會
栃木縣那須郡荒川村養蠶改良組合
栃木縣鹿沼製絲所
茨城縣立農學校
山口縣岩國大日本蠶絲會山口支會
山口縣農會
山口縣佐波郡小野村吉富養蠶傳習所
山口縣熊毛郡農會
山口縣豊浦郡蠶業組合
京都府城丹蠶業講習所
福島縣石城郡立蠶業講習所
岩手縣稗貫郡役所

群馬縣勢多郡南橘村大字田口村拾壹番地

鹽原佐平蠶種部

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS. — DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

	Soie. Silk.				Maximum du prix. Highest prices.	
ours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Picuis.	*Picuis.*	*Picuis.*	*Picuis.*		*Yen*
1	794	620	4	—	Shummeisha.	1.085
2	752	545	23	—	Tenyusha.	1.075
3	610	399	2	806	Tōkōsha.	1.075
4	498	421	3	1.842	Kawaguchiseishijō.	1.090
5	422	451	10	—	Dairiukan.	1.080
6	390	651	5	738	Hakutōseisha.	1.080
7	—	—	—	—		—
8	1.210	475	16	189	Yajimagumi.	1.100
9		1.057	—	—	Shimmeisha.	1.090
10	623	593	34	—	Tsunokan.	1.095
11	468	591	8	—	Shummeisha.	1.095
12	209	467	5	—	Kōnansha.	1.000
13	618	823	21	2.889	Yajimagumi.	1.110
14	—	—	—	—		—
15	1.112	659	10	—	Kōseisha.	1.100
16	497	755	—	2.741	Shummeisha	1.105
17	—	—	—	—		—
18	1.070	688	39	—	Tenriugawasha.	1.112½
19	497	489	—	—	Ni-tōsha.	1.100
20	390	429	14	1.019	Matsuoseishijō.	1.115
21	—	—	—	—		—
22	1.204	1.453	15	—	Iwakuniseishikwaisha.	1.115
23	469	1.041	11	2.213	Gunzansha.	1.110
24	389	371	22	—	Kōseisha.	1.125
25	400	1.129	29	—	Kanrasha.	1.125
26	532	896	79	—	Masakiseishijō.	1.115
27	633	663	11	1.766	Kōseisha.	1.130
28	—	—	—			—
29	188	450	20	—	Tenyusha.	1.120
30	577	1.071	54	—	Yajimagumi.	1.150
31	645	559	40	1.728	Shummeisha.	1.130
Total	1.522	1.775	482	18.011		

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Pical = 60 kilg environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Octobre 1906)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(October 1906)

	Report. Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sant back	Areporter. Brought forward.
	Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filature. Filature.	7.711	11.371	13.531	—	371	5.180
Zaguri. Rereel.	2.566	2.389	2.886	—	83	1.986
Kakeda. Orikayeshi.	855	1.413	1.357	—	8	923
Autres. Other.	73	55	—	—	20	108
Total.	11.205	15.228	17.754	18.011	482	8.197
1905.	12.064	12.355	6.745	5.987	203	17.470

CONTENTS.

Contributions:

On the parasitic fly of the domesticated silkworms of Siam.... *Nōgakuhakushi*, K. Toyama.
On improvement of the quality of the cocoon.... C. Yokota.
I am desirous for an examination on the reproduction of the silkworm eggs free from the injury of uginiy sericaria.... H. Nakagawa.
Silk spinning industry in Hyōgo-ken.... J. Tokuda.
On the river of Tenryū and the province of Suwa.... *Nōgakushi*, M. Nakamura.
Tussah-reeling industry in Manchuria and Chefoo.... S. Shiwotani.

Report of the Special General meeting:

Introductory remarks.
The appointment of officials for preparation.
The state along the road and the welcoming at the town of Kōfu.
The coming in of our superintendent to the Exhibition.
The state of the ceremony.
Debates of affairs.
The lectures of the guests.
Going of our superintendent to the Shrine of Kusanagi.
The friendly meeting for services.
The state of a great picnic

Attendance of Our superintendent to the General meeting of the branch Association at Shinano:

Going of our superintendent to Okanoya.
The welcoming of the station of Kami-awa.
The state of the first general meeting in the branch association.
The Daimyō-parade.
The state of the evening party.
The returning of our superintendent.
Conclusion.

Conversations:

On the allied exhibition of one Fu and nine ken.... *Nōgakushi*, A. Shitō.
Prosperity in trade of rawsilk is owning to cheapness of price.... K. Niwa.
Careless sketches.... *Nōgakushi*, S. Ishiwata.

Lectures:

On spinning.... Tsuta, Kaneko.

Queries and Answers:

On the manuring of mulberry-trees.
On the box for hibernation.
On the barren moth.
On the dried cocoon.

Condition of Rawsilk Markets:

Yokohama market.
Lyons market.
New York market.
Shanghai market.

Foreign News:

Sericulture in Manchuria.... M. Oba.
Importation and consumption of rawsilk at Russia in 1905.
The new-founded cloth factories of the United States of America in 1905.

Miscellaneous News:

Reports of the Japan Sericultural Association etc., etc.

RAWSILK MARKET.

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Notre marché des soies, qui était un peu calme à la fin du mois précédent, a représenté un courant régulier de transactions au mois d'Octobre, par suite des demandes importantes venues tant de la part d'Europe que d'Amérique. Il a été vendu plus de mille deux cents on trois cents balles on même plus de deux mille balles quotidiennement, de sorte que le nombre total des balles exportées pendant le mois d'Octobre a atteint les chiffres magnifiques de 18.011. Quant aux prix, ils ont aussi accusé une augmentation graduelle de 5 yen ou de 10 yen, on a vendu "*Shinshū*" filature extra No. 1 à des prix de 1.100 yen, prix plus élevés que jamais. La valeur des soies exportées depuis le Janvier jusqu'à la fin d'Octobre de cette année se chiffre par 82.879.775 de yen accusant une plus-value de yen 26.135.874 sur le produit des marchandises exportées pendant la même période de l'année précédente. En un mot, la soie a représenté jusqu'ici l'exportation la plus élevée qu'elle ait jamais touchée, et, si cette situation favorable continue à régner sur notre place, l'exportation totale de cette année atteindra probablement cent million de yen.

Voici d'ailleurs les tableaux indiquant le mouvement des soies durant le mois d'Octobre.

MARKET OF YOKOHAMA.

Condition of our rawsilk market of Yokohama in the month of October is as follows:—

We saw already that the market was sunk into a dull condition at the end of the previous month. But it recovered after a little while, because, cues for the european and the american markets found a ready sale. And this good condition continued unchanged through whole october. In fact we had several days with the bargain of up to 2,000 from 1,200 bales and all exportation of this month reached to 18,011 bales. The price also became high step by step, as five yen and then ten yen,—best no. 1 of Shinshū filature at last rose to 1,100 yen.

From January to October we have finished the exportation of 82,879,775 yen,—it is increase of 26,135,874 yen in comparision with that in the same period of last year. Indeed a great one never occurred before it is! If this condition remains without change we may suppose we shall find a exportation of one hundred millions yen in this year.

Following tables show the movement of the rawsilk market during the same period.

明治二十五年四月七日内務省認可（明治三十九年十一月二十日發行）

BULLETIN

DE

L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No 174.

20 Novembre 1906.

SOMMAIRE.

Articles de fond:

Sur la mouche parasite vivant sur le ver-à-soie domestique au Siam.....
.....*Nogakkakusai* K. Toyama.
Sur l'amélioration de la qualité des Cocons.....C. Yokota.
Mes désirs d'essayer la fabrication des graines ayant l'immunité contre *ujimy sericeryi*.....H. Nakagawa.
La filature à la préfecture de Hiogo.....J. Tokuda.
Le fleuve *Tsuyu* et le lac *Suco*.....*Nogakushi* T. Nakamura.
Sur la filature de tussah à Mandchourie et à Chefoo.....S. Shionoya.

Compte rendu de l'Assemblée générale extraordinaire de notre Association:

Avant-propos.—Nomination de comité préparatoire.—Etat des rues de la ville de Kôbe et la magnifique réception faite par cette ville.—Entrée de L. A. I. le Prince dans la salle de cérémonie.—Etat de la salle de cérémonie.—Ouverture de la séance.—Discours des invités.—Allée du Prince au temple "*Kusanogi*."—Grand festin.—Grand "*garden party*."—

L. A. I. le Prince honore de sa présence l'assemblée générale de notre succursale de Shinano:

Allée du Prince à Okatani.—Réception solennelle faite par Kamisuwayaki.—Première assemblée générale de notre succursale de Shinano.—Spectacle de la procession de "*rainogo*" (anciens nobles)—Spectacle de la soirée.—Retour à Tokio de L. A. I. le Prince, notre président.—Fin.—

Visite et Entretien:

Sur l'exposition organisée par une ville et neuf préfectures...*Nogakushi* A. Shito.
L'activité du commerce de la soie dépend des prix de celle-ci.....K. Niwa.
Récits divers.....*Nogakushi* S. Ishiwata.

Cours:

Sur l'art de filer.....*Tsuta Kanentsu.*

Questions et Reponses:

Sur l'engrais de mûriers.—Sur la boîte à libérer des graines.—Sur les papillons femelles ne pondant pas.—Sur les cocons secs.—

Marché des Soies:

Marché de Yokohama.—Marché de Lyon.—Marché de New York.—Marché de Shanghai.

Nouvelles étrangères:

La séricicuture en Mandchourie.....M. Oda.
Importation et consommation de la soie en Russie pendant 1905.
Nouvelles filatures crées en Amérique pendant 1906.

Nouvelles diverses:

Notes sur le service de notre Association.
etc, etc, e c.

TOKYO.

Association Sericicole du Japon.
(Dai Nippon Sanshi Kwai)
No 2. Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japon.

（東京印刷株式會社印刷　二月廿三日發行）